

第 2 期座間味村人口ビジョン・総合戦略



2021年3月

座間味村

目 次

第2期座間味村人口ビジョン

1. 人口ビジョン策定の背景と目的	1
(1) 国の長期ビジョンの背景と目的	1
(2) 計画策定の経緯	1
2. 沖縄 21 世紀ビジョンゆがふしまづくり計画による 南部離島の長期推計と施策展開（県計画）	2
3. 第2期座間味村人口ビジョンの位置づけ	4
4. 座間味村人口ビジョンの考え方	4
5. 人口の現況	4
(1) 住民基本台帳による人口	4
(2) 字別の人口推移	5
(3) 人口推移と将来推計	6
(4) 5 歳階級別人口ピラミッド	7
(5) 自然増減・社会増減の推移	8
(6) 人口増減の比較	9
(7) 高齢化率	9
(8) 出生数・死亡数/転入数・転出数	10
(9) 男女別人口・合計特殊出生率の推移	11
(10) 年齢階級別純移動数の時系列推移	12
(11) 年齢（10 歳階級別）の転入者数	13
(12) 年齢（10 歳階級別）の転出者数	13
(13) 転入出者数	14
(14) 転入数・転出数の地域	15
6. 第1期座間味村人口ビジョン・総合戦略の達成状況	16
(1) 人口ビジョンの達成状況	16
(2) 総合戦略の達成状況	17
7. 将来の人口予測	19
8. 第2期人口ビジョンの目標	20
9. 目標達成に向けた人口構造	21

第2期座間味村総合戦略

1. 総合戦略の概要	23
(1) むら・ひと・しごと創生総合戦略策定の背景と趣旨	23
(2) 国の総合戦略の概要	24
(3) 第2期総合戦略における基本目標に向けた取り組みに関する新たな視点	26

2. 第2期総合戦略の計画期間	26
3. 座間味村の第2期総合戦略の基本目標と基本的方向の考え方.....	27
4. 「座間味村らしさ」を活かした視点 ～座間味村 21世紀三島物語～.....	27
5. 第2期総合戦略の基本目標と基本的方向	29
6. 総合戦略の各施策の方向性と KPI	30
7. 第2期総合戦略の主な事業と関連する SDGs の目標一覧	42
(1) 持続可能な開発目標 (SDGs) とは	42
(2) 第2期総合戦略の主な事業と関連のある SDGs の目標一覧.....	44
8. PDCA サイクルに基づく継続的改善の仕組み.....	49
(1) 基本的な考え方.....	49
(2) 評価 (Check) ・改善 (Action) に係る実施方法.....	49
(3) 継続的改善に向けた PDCA サイクル上の考慮事項.....	49

資料編

1. 統計データからみる産業の状況.....	51
(1) 企業数・事業者数・従業者数の推移.....	51
(2) 産業大分類別に見た売上高 (企業単位) の構成比.....	51
(3) 産業大分類別に見た従業者数 (事業所単位) と事業所数.....	52
(4) 産業大分類別に見た付加価値額 (企業単位)	52
(5) 製造業の特性	53
(6) 小売業の特性	53
(7) 水産業の特性	55
(8) 観光産業の特性.....	57
(9) 座間味村の地域経済循環.....	58
(10) 財政の概況	59
2. アンケート結果.....	62
3. 座間味村総合戦略策定検討委員会	99
(1) 策定委員会名簿.....	99
(2) 策定委員会検討内容	100
(3) 座間味村総合戦略策定検討委員会設置要綱.....	101

第 2 期座間味村人口ビジョン

1. 人口ビジョン策定の背景と目的

(1) 国の長期ビジョンの背景と目的

国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」（以下「国の長期ビジョン」という。）は、日本の人口の現状と将来の姿を示し、人口問題に関する国民の認識の共有を目指すとともに、急激に減少していく推計人口に対して、2060 年に 1 億人程度の人口を維持することを目指して、今後、取り組むべき将来の方向を提示しています。

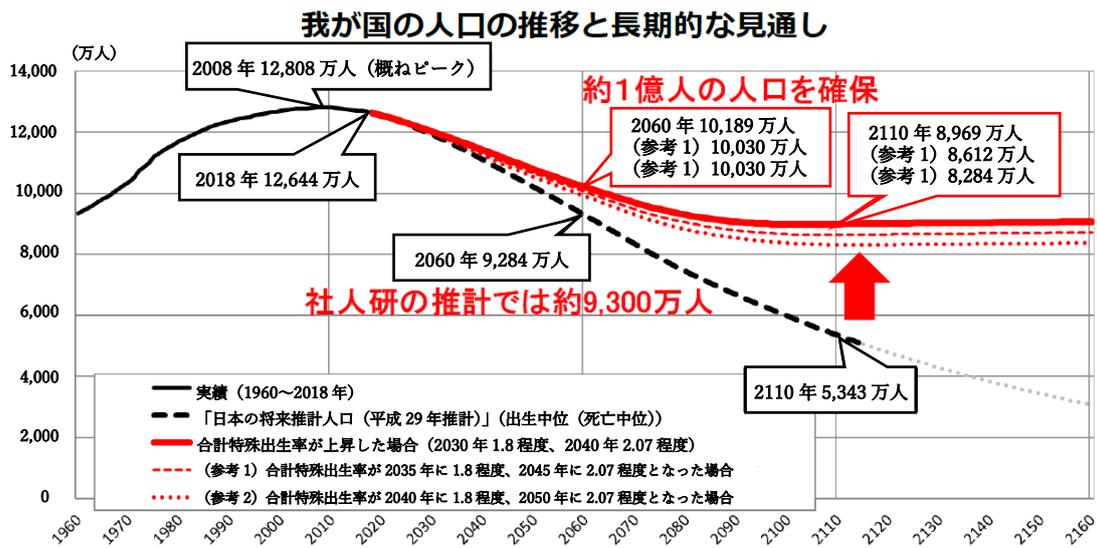


図 1 我が国の人口の推移と長期的な見通し

(2) 計画策定の経緯

まち・ひと・しごと創生に関しては、まち・ひと・しごと創生法（平成 26 年法律第 136 号。以下「法」という。）が制定され、平成 26 年 12 月 27 日に、日本の人口の現状と将来の展望を提示する「国の長期ビジョン」及び今後 5 か年の政府の施策の方向を提示する「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「国の総合戦略」という。）が閣議決定されました。また、令和 2 年に、第 1 期「国の総合戦略」が見直され、第 2 期「国の総合戦略」が策定されました。

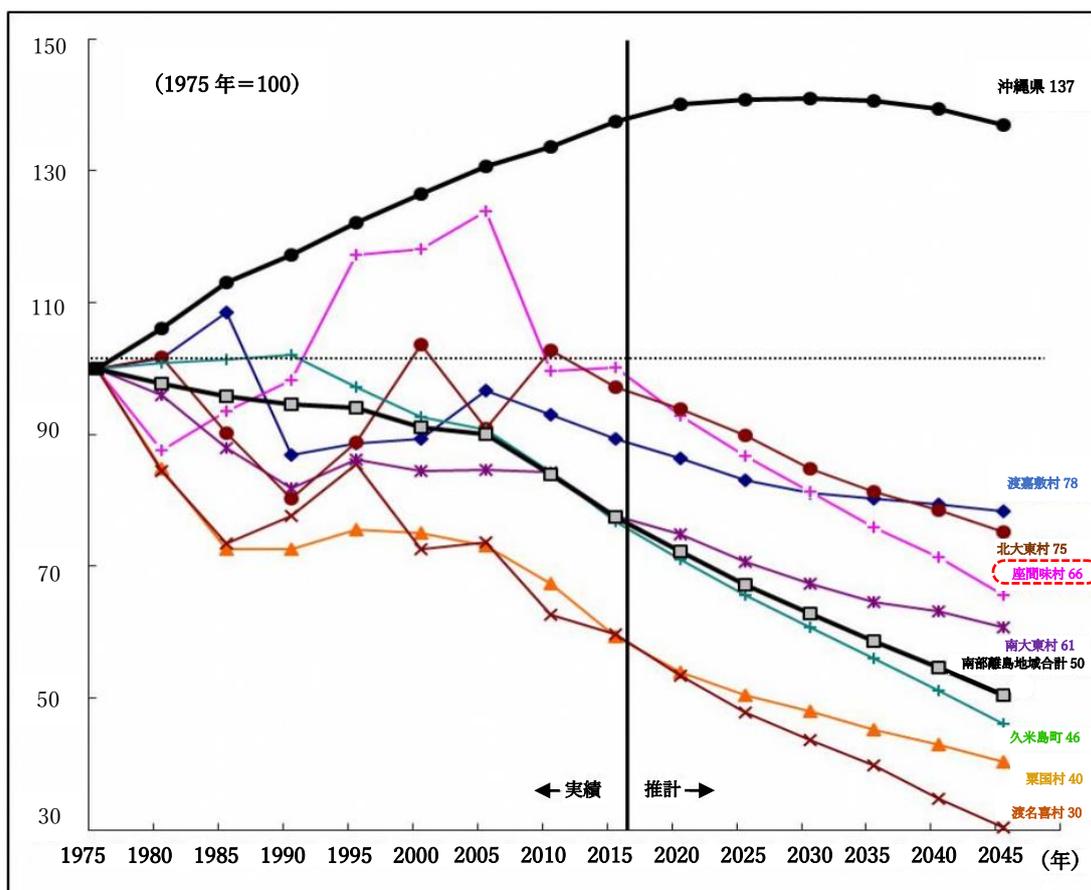
これを受けて、地方公共団体においては、国の長期ビジョン及び総合戦略を勘案して、地方公共団体における人口の現状と将来の展望を提示する「地方人口ビジョン」及び地域の実情に応じた今後 5 か年の施策の方向を提示する都道府県まち・ひと・しごと創生総合戦略及び市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略を見直すことになりました。

本村においても、村の人口の現状を分析し、人口に関する地域住民の認識を共有し、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示するため、「第 2 期座間味村人口ビジョン」を策定します。

2. 沖縄 21 世紀ビジョンゆがふしまづくり計画による南部離島の長期推計と施策展開（県計画）

沖縄県は県のまち・ひと・しごと創生総合戦略となる「沖縄 21 世紀ビジョンゆがふしまづくり計画」を令和 2 年 3 月に改訂しています。

その中で、本村が属する南部離島地域の人口の展望と施策展開を定めており、本村も県と連携した施策展開を行っていく必要があります。



(注) 上記の推計値は、平成 17 年 (2005 年) ~27 年 (2015 年) の傾向が今後も続くと仮定した場合の見通しであり、施策の効果は考慮されていない。

出典：沖縄 21 世紀ビジョンゆがふしまづくり計画

図 2 総人口指数の推移

■ 結婚・出産の支援の充実

- (ア) 未婚者に対して、島外出身者等との交流や出会いの機会を提供し、未婚化・晩婚化の対策を推進する。
- (イ) 婚姻に伴う経済的負担を軽減するため、新規に婚姻した世帯に対する支援を市町村と連携して取り組む。
- (ウ) 市町村事業である妊婦健診及び交通費等支援事業、産後ケア事業を促進していく。

■ 子育てセーフティネットの充実

(ア) 沖縄本島における長期入院児の保護者の宿泊費等の負担については、ファミリーハウス（保護者の宿泊施設）等の活用を促進し、宿泊費の低減を図る。

■ 定住条件の整備

(ア) 離島住民が島外へ移動する際の交通コストの低減化に取り組み、経済的負担の軽減を図る。
 (イ) 情報格差の是正や高度な情報通信技術の利活用環境の形成を図る。
 (ウ) 高齢化率が高いことから、地域の実情に応じた福祉サービスの提供を促進し、高齢者が安心して暮らせる環境づくりを進める。
 (エ) 公平な教育機会の確保等のため、離島・過疎地域においては、高度な情報通信技術を活用し、各学校のニーズに応じた遠隔授業を推進する。
 (オ) 環境や自然の生態系を学ぶ教育の場として、本島児童、生徒達との交流事業を推進する。

■ 地域の特色を生かした産業振興

(ア) 観光関連産業と農業や水産業と連携したグリーン・ツーリズムやブルー・ツーリズム、生活体験等の体験・滞在型観光を促進する。
 (イ) 地域の特色を生かした農林水産業の振興や6次産業化、他産業との連携強化に取り組み、雇用の場を確保・創出し、社会増につなげる。
 (ウ) 農業従事者の割合は高いが、高齢化が進んでいることから、農業分野への新規就農を支援する。
 (エ) 高度な情報通信技術と離島の自然に恵まれた居住環境を生かし、在宅勤務やSOHOなどのテレワークの導入促進を検討する。

■ 条件不利地域におけるUターン・移住者の増加

(ア) 住宅については、民間による住宅供給が困難な離島地域等の特性に応じ、定住化に向けた、公営住宅の整備等を推進する。併せて古民家の利活用を促進し、定住促進に取り組む。

■ 関係人口の創出・拡大

(ア) 都市部の若者などが一定期間、地域に滞在しながら働き、暮らし体験、地域住民との交流等を行うワーキングホリデーなどに取り組む。
 (イ) モニターツアーの手法により沖縄県民を県内離島へ派遣し、島の特徴を生かした体験プログラムや地域住民との交流等により島への理解を深める取組を実施する。
 (ウ) 沖縄本島の児童生徒を離島に派遣し、地元の住民や児童生徒との交流のもと、体験学習や民泊等を実施する。

3. 第2期座間味村人口ビジョンの位置づけ

座間味村の人口減少の克服と持続可能な村づくりのため、国の長期ビジョンの趣旨を踏まえて人口の現状分析を行い、人口問題に関する村民の認識を共有し、目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示すことを目的として、「第2期座間味村人口ビジョン」を策定します。

4. 座間味村人口ビジョンの考え方

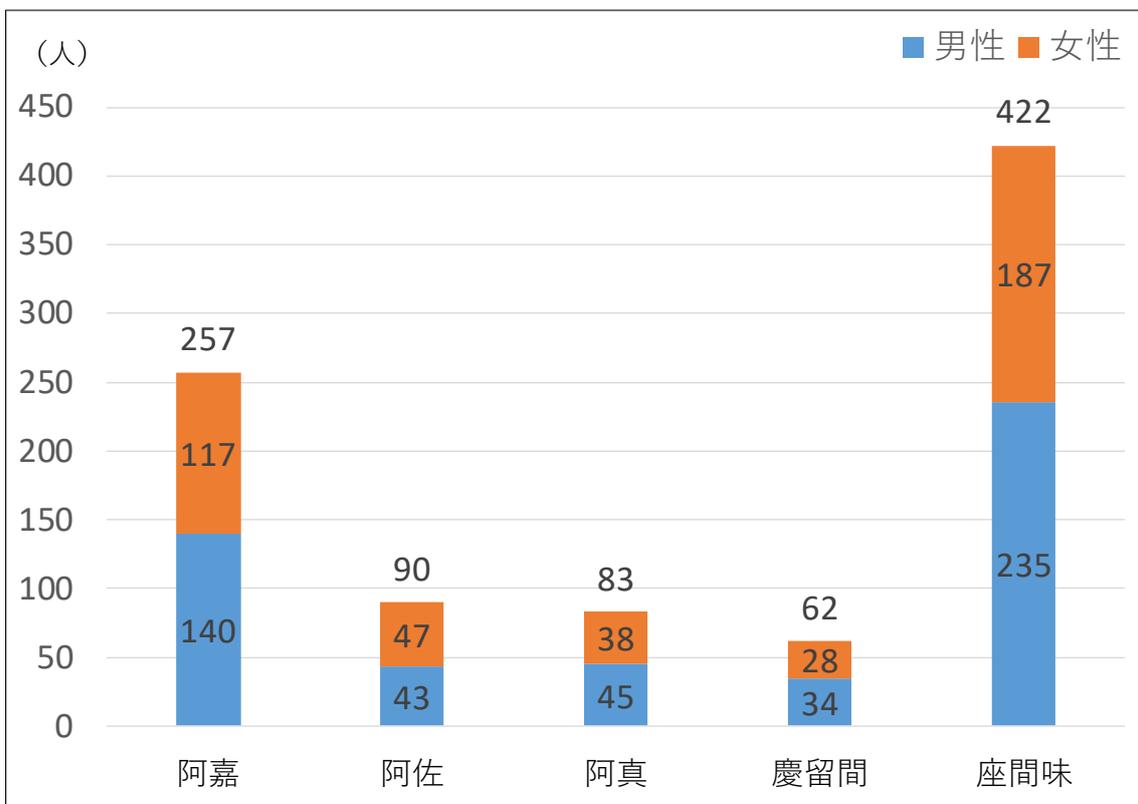
「座間味村むら・ひと・しごと総合戦略」における人口の展望を踏まえ、全国の最新の人口動態及び国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」という。）の将来人口推計を基に、本村の人口の推移と将来展望を示すものです。

5. 人口の現況

(1) 住民基本台帳による人口

本村の住民基本台帳（2020年1月1日現在）による人口は、914人となっており、男女別に見ると、男性が497人、女性が417人と男性が多くなっています。

本村には5つの字があり、座間味が最も多く422人と村内の全人口の46.2%を占めています。次いで、阿嘉257人、阿佐90人、阿真83人、慶留間62人となっています。

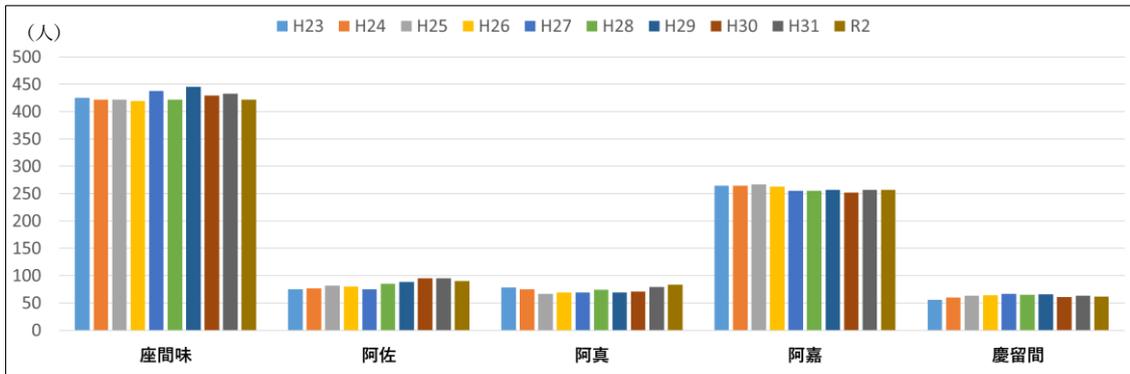


資料：住民基本台帳

図3 住民基本台帳による字別人口(2020年1月1日現在)

(2) 字別の人口推移

過去 10 年にわたる各字の人口の推移をみると、全体的に増減を繰り返しながら、ほぼ横ばいとなっています。



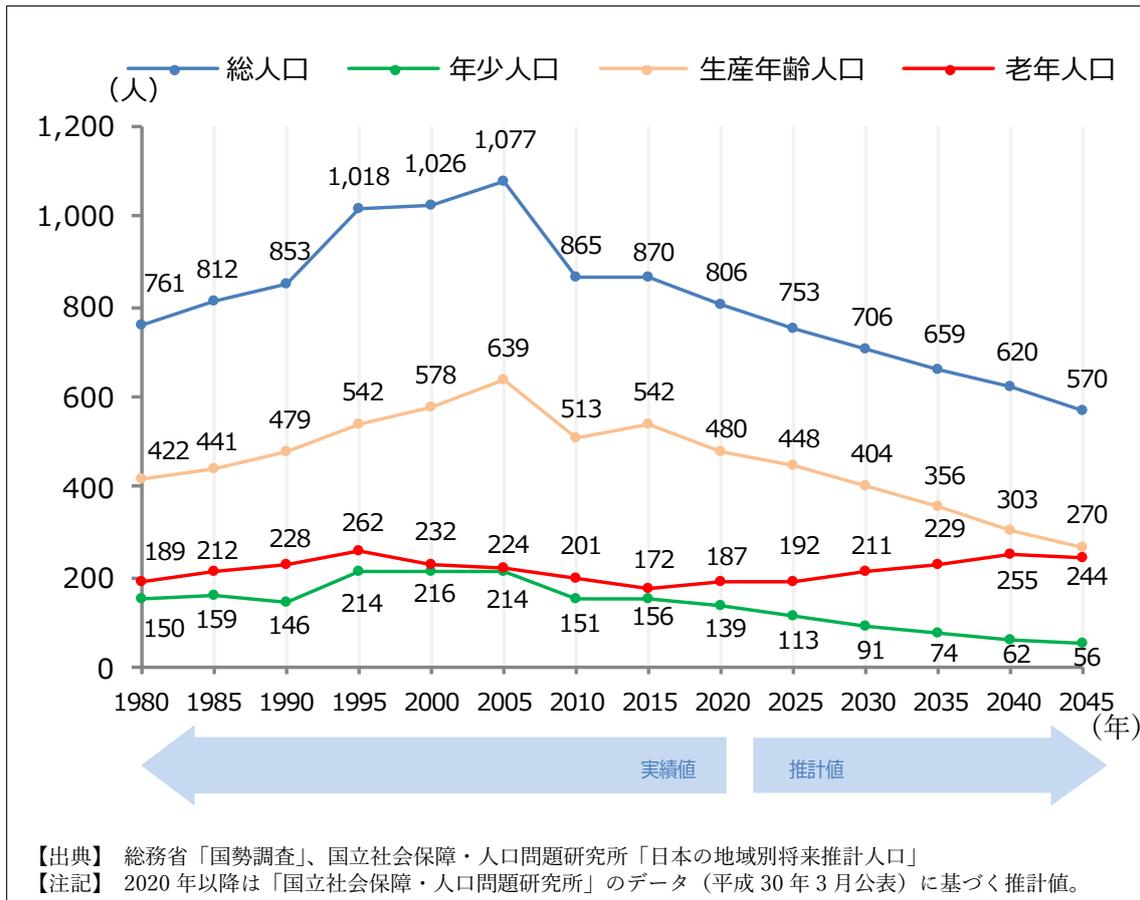
資料：住民基本台帳

図 4 過去 10 年の字別人口の推移

(3) 人口推移と将来推計

国勢調査による本村の人口推移をみると 1980 年の 761 人から 2005 年には 1,077 人まで増加しましたが、2010 年以降は減少傾向にあります。

社人研の推計では、現状のままで行くと 2045 年までに、総人口は 570 人に減少すると推計されています。



資料：地域経済分析システム（RESAS（リーサス））

図 5 国勢調査人口と将来推計

(4) 5 歳階級別人口ピラミッド

本村の人口を「5 歳階級別人口ピラミッド【単位：%】」で見ると、2015 年から 2045 年にかけて老年人口（65 歳以上）は 41.9%増加し、生産年齢人口（15 歳～64 歳）は 50.2%半減すると予測されます。また、年少人口（0 歳～14 歳）は 64.1%と大きく減少すると予測されます。

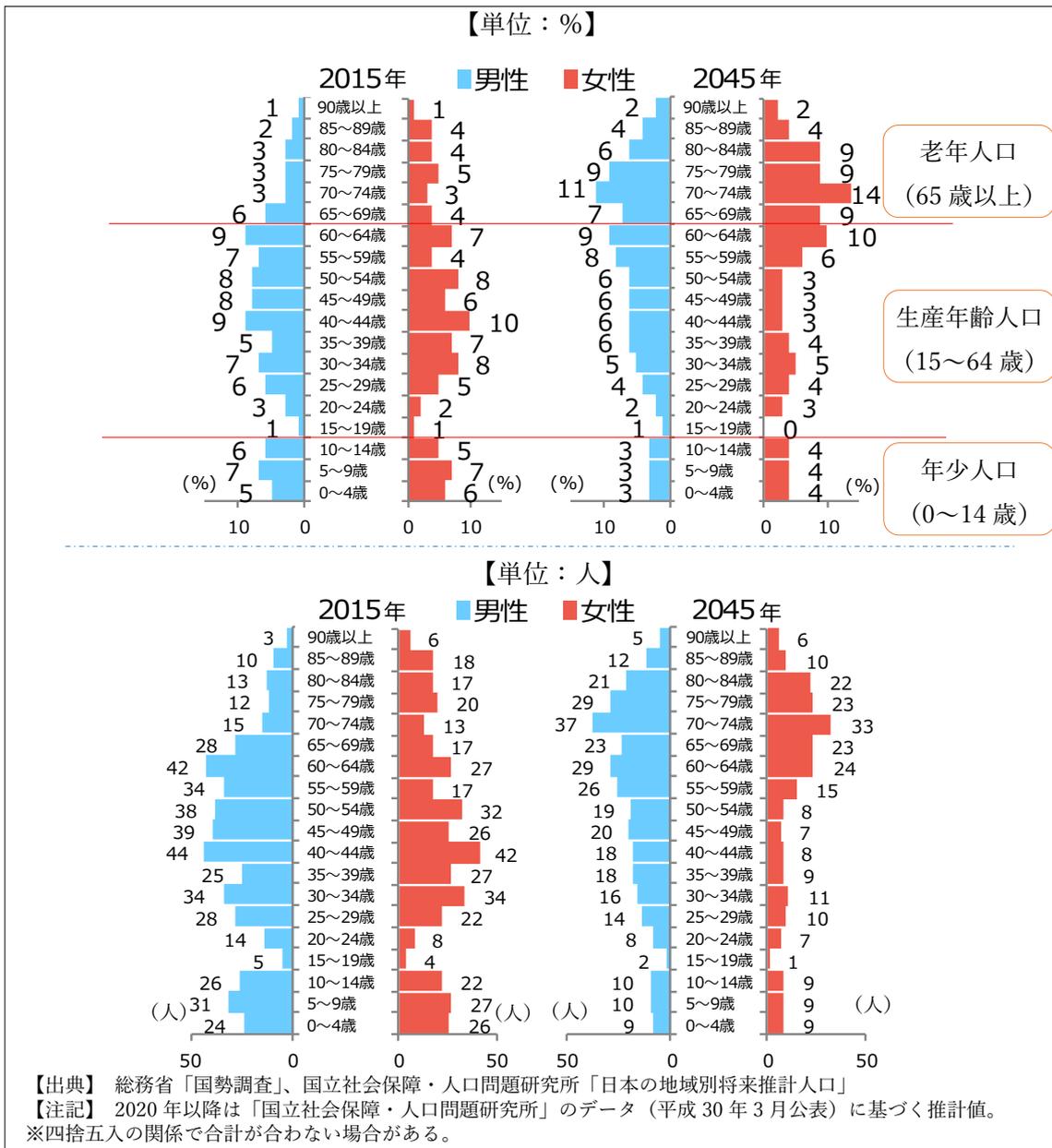


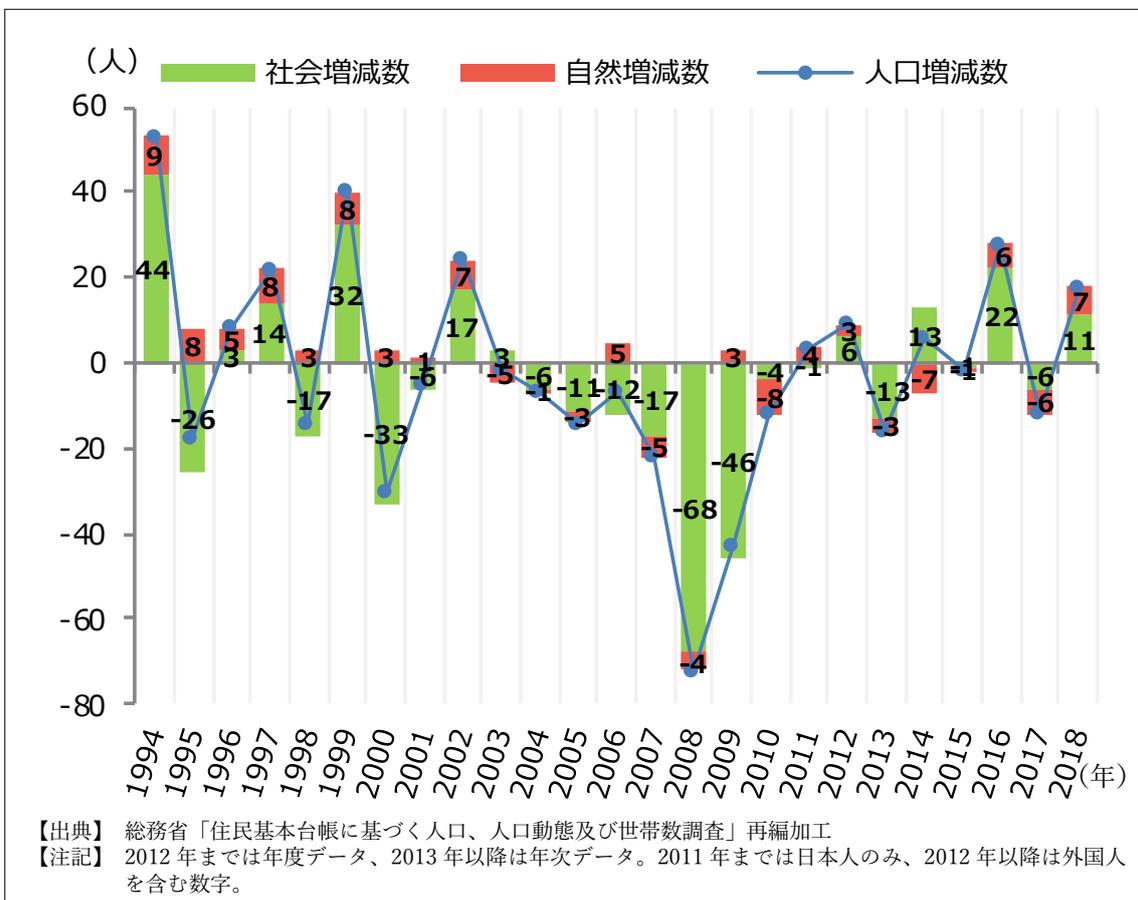
図 6 5 歳階級別人口ピラミッド

(5) 自然増減・社会増減の推移

人口増減に関し、「出生・死亡による自然増減」「転入・転出による社会増減」の2つの要因が与えた影響では、1994～2002年までは「自然増減」「社会増減」ともに、増減を繰り返しています。

2003～2010年にかけては「人口減」が続いており、特に2008年の-68人、2009年の-46人の「社会減」が突出しています。2011～2018年にかけては、再び「自然増減」「社会増減」を繰り返しています。

「自然増減」と「社会増減」を比較すると、「社会増減」による人口減少への影響が大きくなっています。

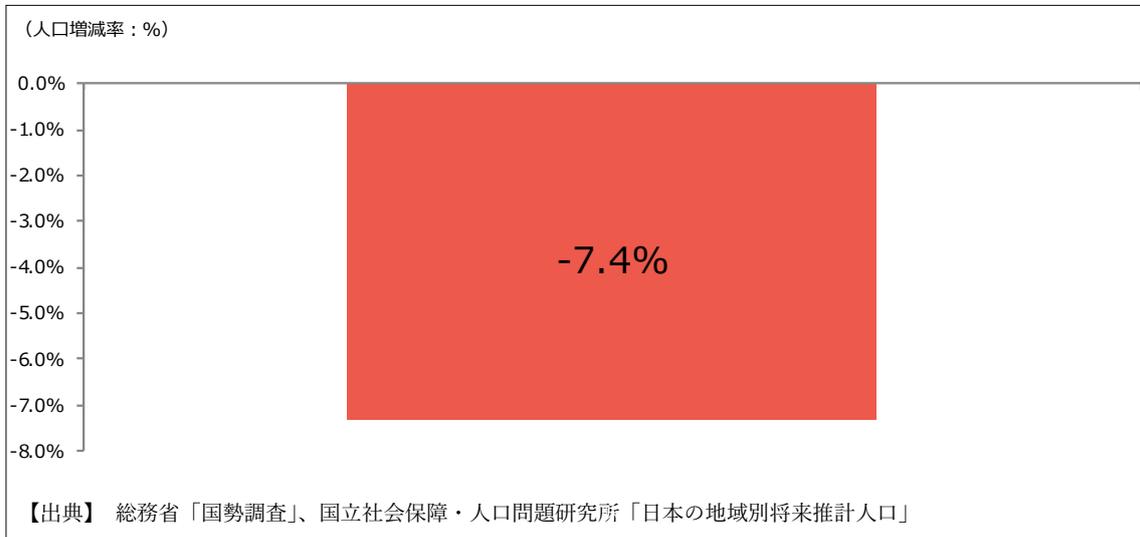


資料：地域経済分析システム（RESAS（リーサス））

図 7 自然増減・社会増減の推移

(6) 人口増減の比較

本村の「人口増減率」は、2015 年から 2020 年の間に-7.4%減少しています。

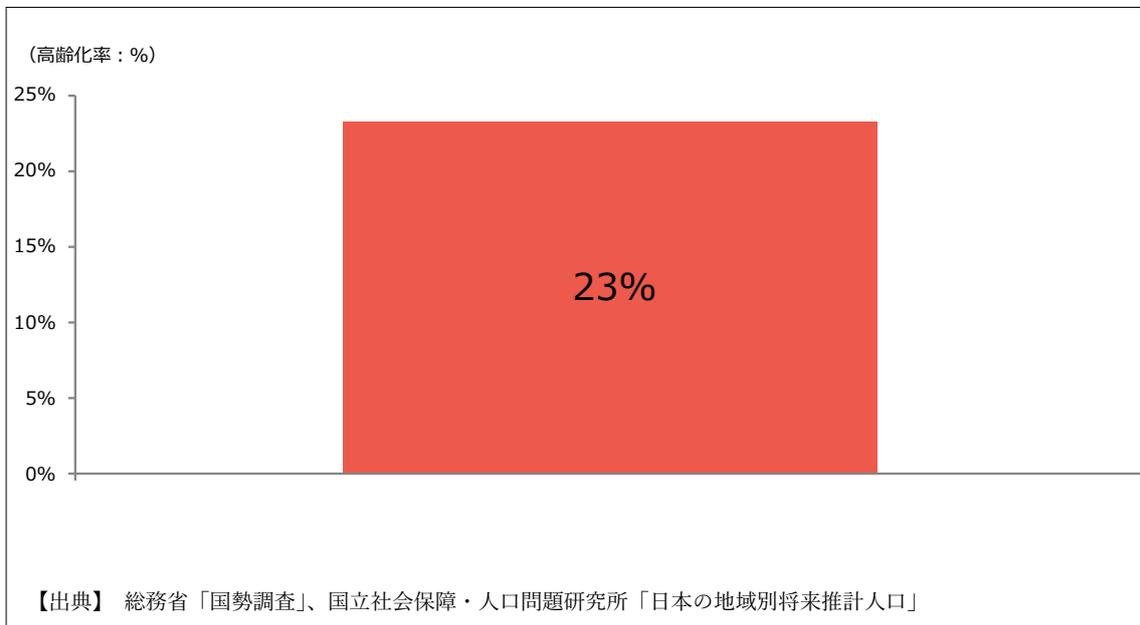


資料：地域経済分析システム (RESAS (リーサス))

図 8 人口増減率 (2015 年→2020 年)

(7) 高齢化率

本村の「高齢化率」は、2020 年で 23%であり、「高齢化率」が 21%を超える「超高齢社会」となっています。なお、全国平均では 2007 年に「高齢化率」が 21%を超え、「超高齢社会」に突入しました。



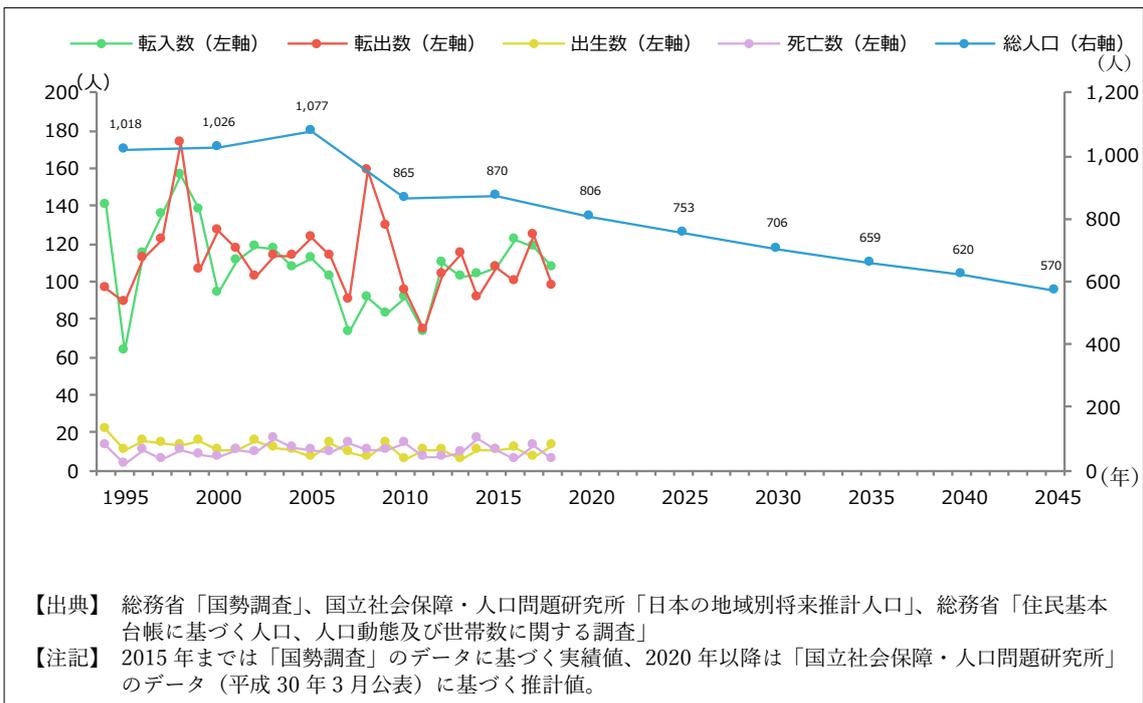
資料：地域経済分析システム (RESAS (リーサス))

図 9 高齢化率 (2020 年)

(8) 出生数・死亡数/転入数・転出数

本村の総人口は緩やかに自然減となっています。また、「自然増減」に影響を与える「出生数・死亡数」をみると、どちらも増減を繰り返し、概ね 20 人以下で推移しています。

「社会増減」に影響を与える「転入数・転出数」をみると、2008 年、2009 年に大きく「転出数」が増えた年がありますが、概ね「転入超過」、「転出超過」を繰り返し、同程度の増減幅となっています。

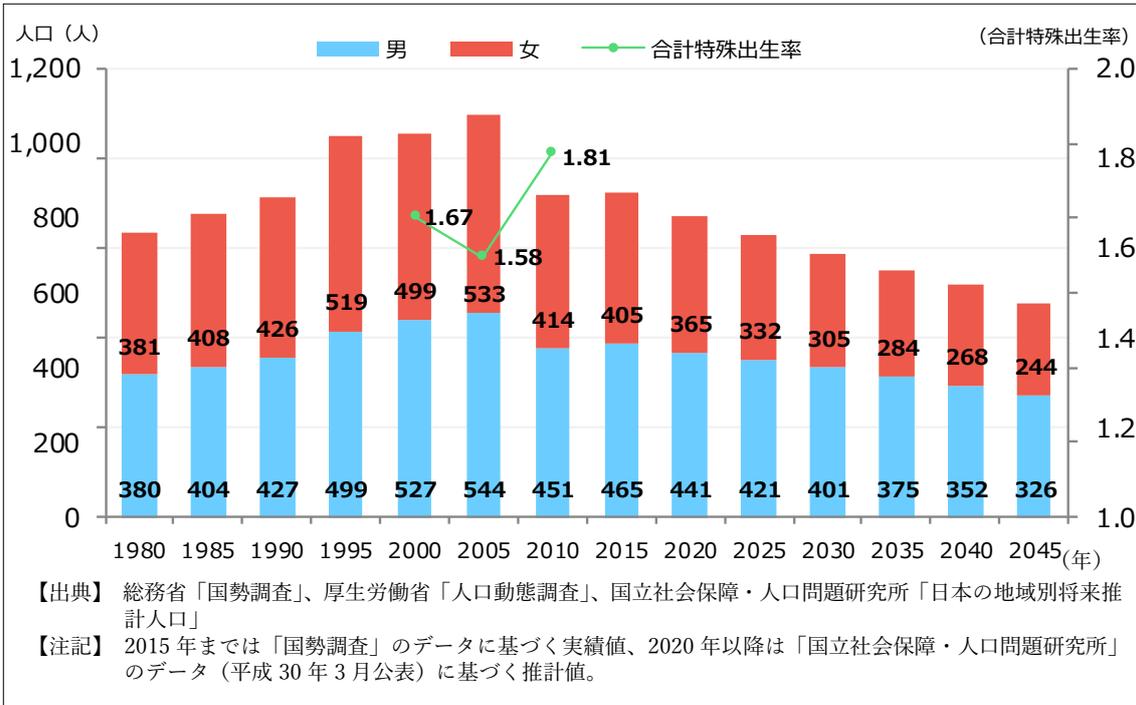


資料：地域経済分析システム (RESAS (リーサス))

図 10 出生数・死亡数、転入数・転出数

(9) 男女別人口・合計特殊出生率の推移

本村の合計特殊出生率は、自然増減（出生数）に直結する指標であり、2005 年の 1.58 から 2010 年には 1.81 と増加しています。しかしながら、我が国の「合計特殊出生率」の「人口置換水準」の 2.07 を下回っています。



資料：地域経済分析システム（RESAS（リーサス））

図 11 男女別人口・合計特殊出生率の推移

【用語の説明】

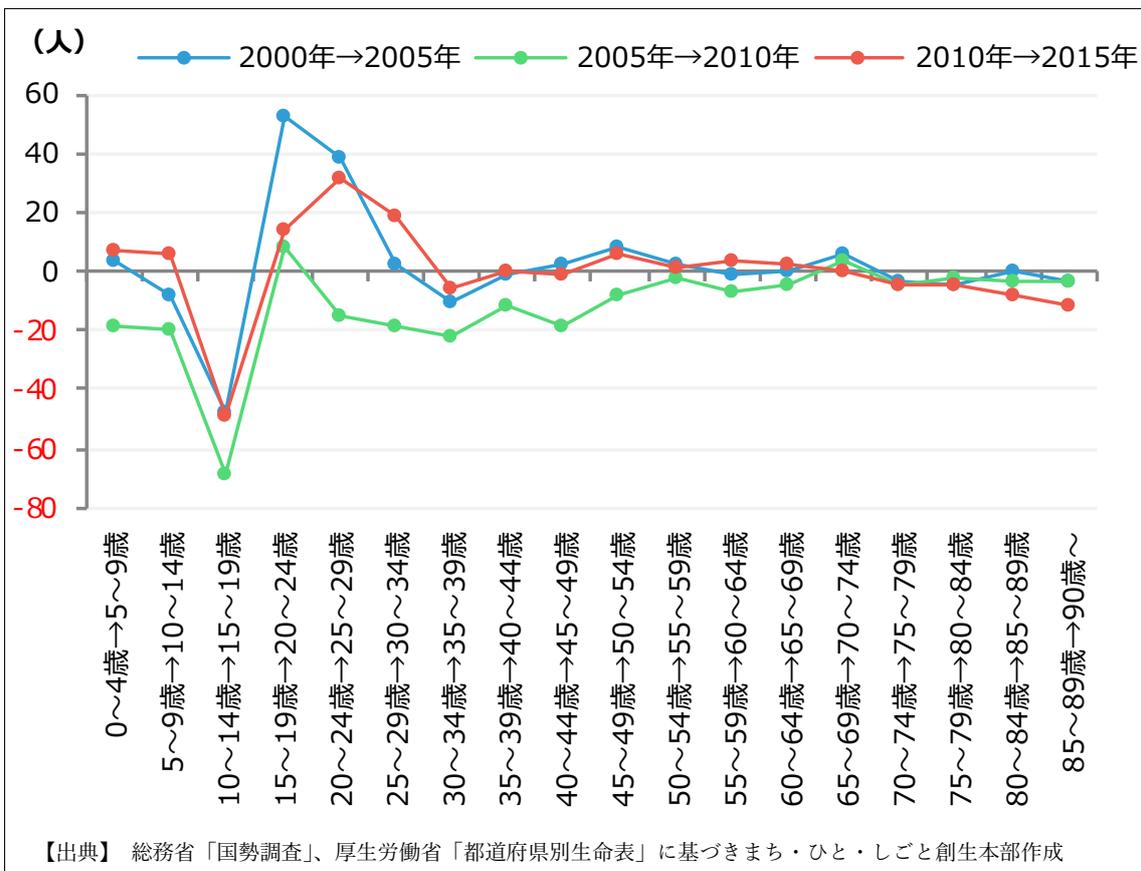
※「合計特殊出生率」とはその年次の 15 歳～49 歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1 人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で 一生の間に産むとしたときの子どもの数の平均に相当します。

※人口置換水準とは、人口が増加も減少もしない均衡した状態となる合計特殊出生率のことをいいます。

(10) 年齢階級別純移動数の時系列推移

時系列ごとの「転入超過数」が最も多いのは、「2000年→2005年」にかけては「15～19歳→20～24歳」の53人、「2005年→2010年」にかけては「15～19歳→20～24歳」の8人、「2010年→2015年」にかけては「20～24歳→25～29歳」の32人となっています。

同じく、時系列ごとの「転出超過数」が最も多いのは「2000年→2005年」にかけては「10～14歳→15～19歳」の48人、「2005年→2010年」にかけては「10～14歳→15～19歳」の68人、「2010年→2015年」にかけては「10～14歳→15～19歳」の49人となっています。

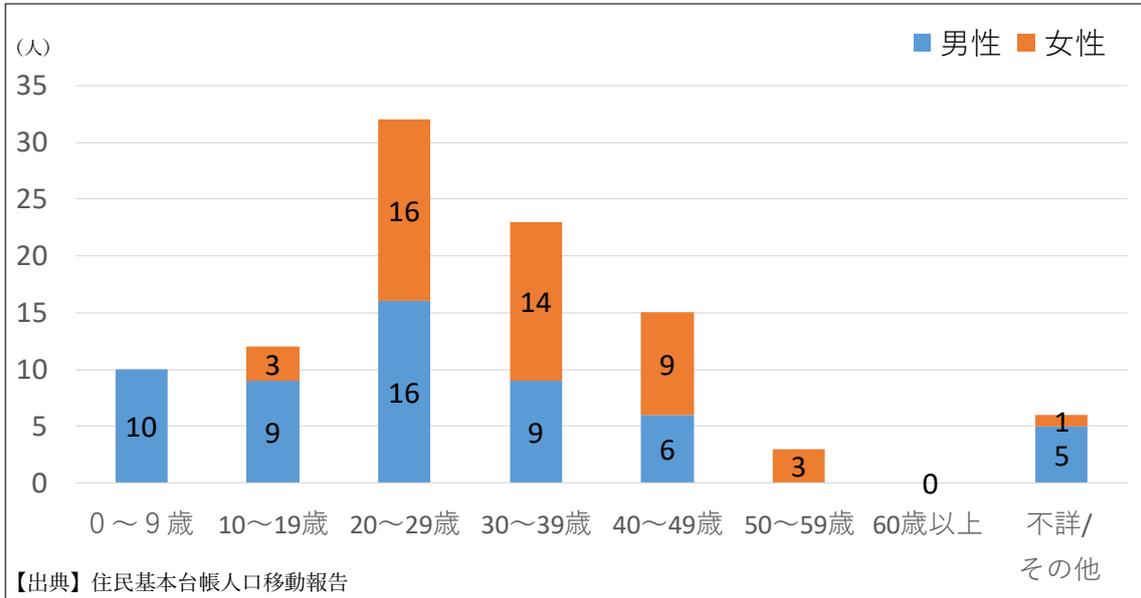


資料：地域経済分析システム（RESAS（リーサス））

図 12 年齢階級別移動数の時系列推移

(11) 年齢(10歳階級別)の転入者数

本村の2019年の「転入者」は、「20～29歳」が最も多く32人、次いで、「30～39歳」23人、「40～49歳」15人、「10～19歳」12人、「0～9歳」10人、「50～59歳」3人、「不詳/その他」が6人となっています。

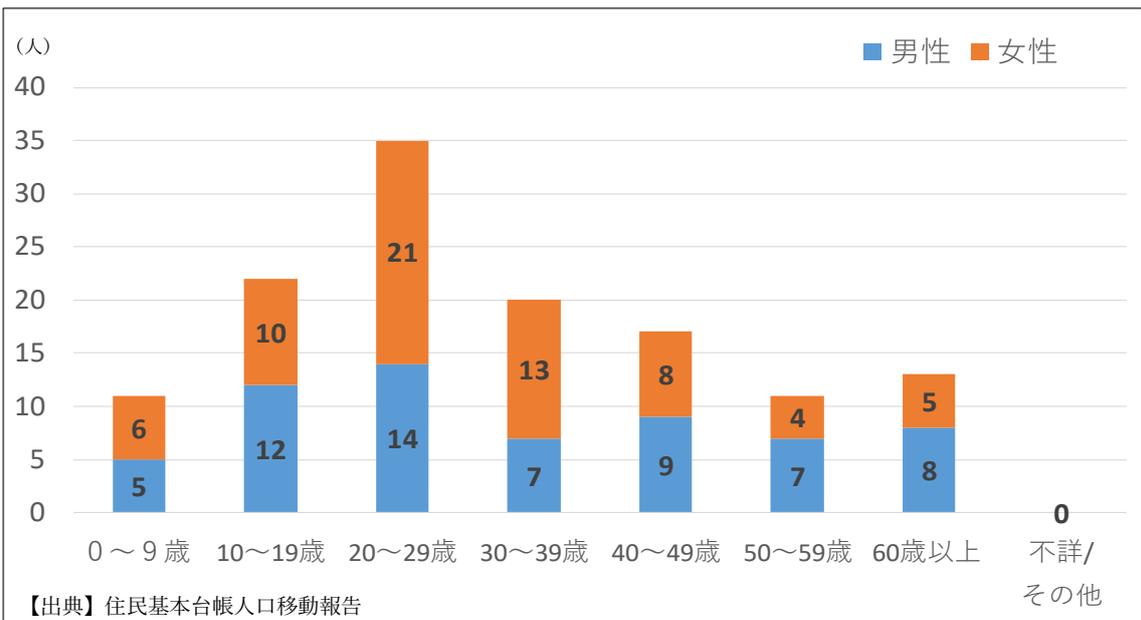


資料：政府統計の総合窓口 (e-Stat)

図 13 年齢別の転入者数 (2019 年)

(12) 年齢(10歳階級別)の転出者数

本村の2019年の「転出者」は、「20～29歳」が最も多く35人、次いで「10～19歳」22人、「30～39歳」20人、「40～49歳」17人、「60歳以上」13人、「50～59歳」11人、「0～9歳」11人となっています。



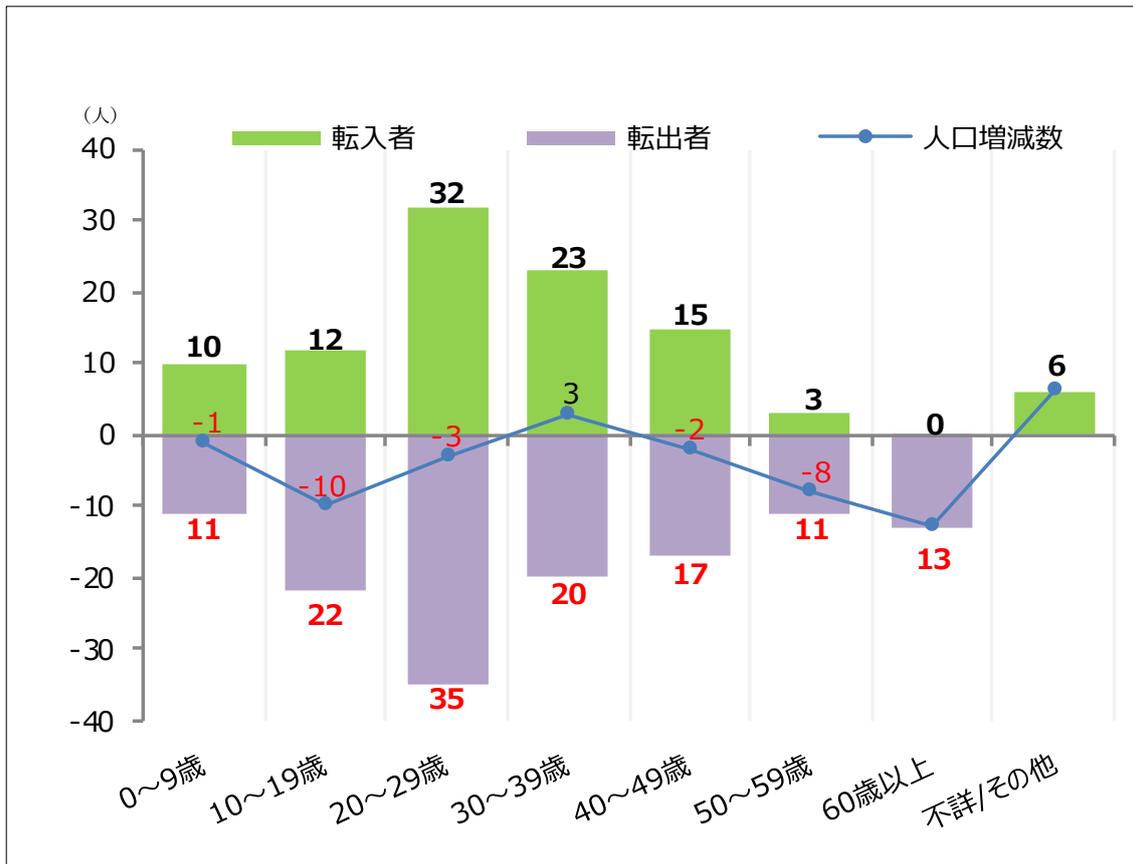
資料：政府統計の総合窓口 (e-Stat)

図 14 年齢別の転出者数 (2019 年)

(13) 転入出者数

本村の 2019 年の「転入出者数」は、年齢別で「20～29 歳」が最も多く「転入数」32 人、「転出数」35 人となっており、3 人の「転出超過」となっています。

全体では、「転入者数」101 人、「転出者数」は 129 人となっており、28 人の「転出超過」となっています。

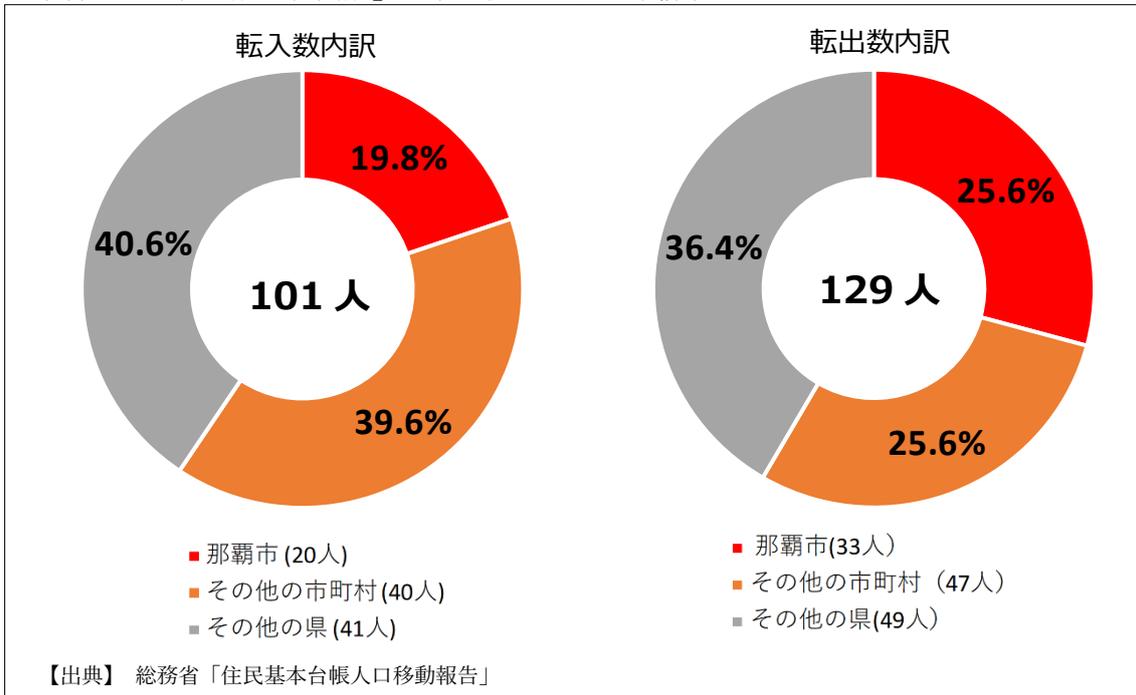


資料：住民基本台帳報告一部加工

図 15 住民台帳による転入出者数(2019 年)

(14) 転入数・転出数の地域

本村での「転入数・転出数」の最も多い地域是那覇市となっています。



資料：地域経済分析システム (RESAS (リーサス))

図 16 転入者数・転出者数の地域別割合 (2019 年)

6. 第 1 期座間味村人口ビジョン・総合戦略の達成状況

(1) 人口ビジョンの達成状況

【第 1 期人口ビジョン】

2060 年まで、総人口 800 人超の水準を維持する。

【2020 年の実績値が住民基本台帳ベース】

基準値 (2010 年実績)	目標値 (2060 年)	2020 年時点の 目標値	実績値 (2020 年)
865 人	800 人	894 人	923 人 (住民基本台帳人口 H31.4 現在)

【2020 年の実績値が国勢調査ベース】

基準値 (2010 年実績)	目標値 (2060 年)	2020 年時点の 目標値	実績値 (2020 年)
865 人	800 人	894 人	892 人 (国勢調査報告用 速報値)

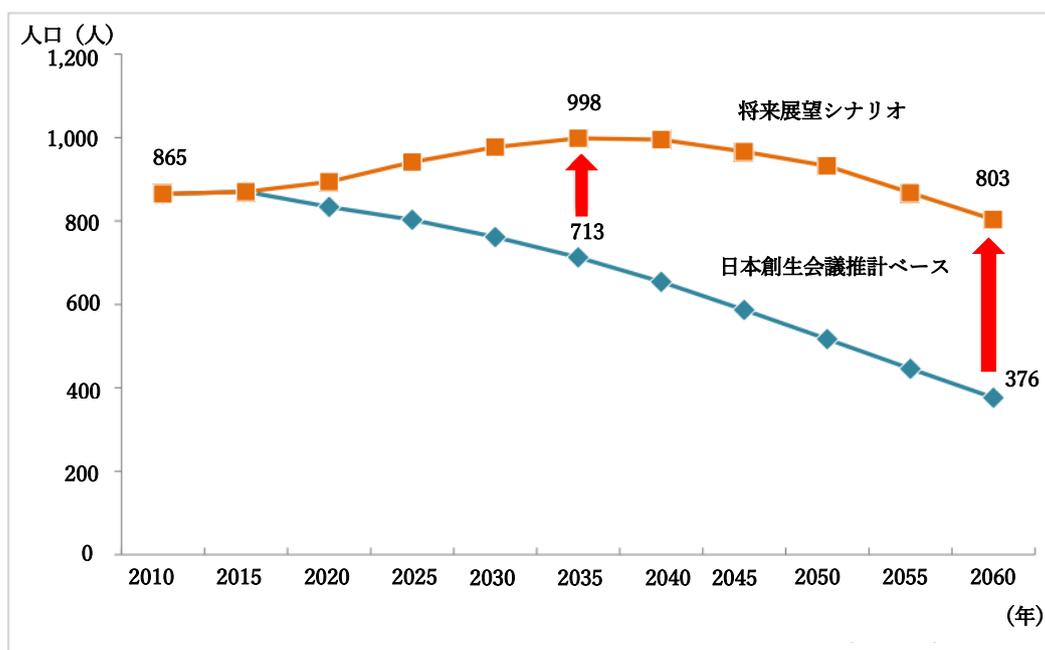


図 17 第 1 期人口ビジョンによる推計人口

(2) 総合戦略の達成状況

(第 1 期) 座間味村人口ビジョン・総合戦略において掲げた数値目標の達成状況を以下に示します。実績値が目標を達成している場合には青色 (■)、未達成の場合には赤色 (■) で示しています。

未達成の目標については、今後のむらづくりにおいても重要な指標であり、第 2 期においても取り組みを進めていく必要があります。

【基本目標「ざ」:「座間味ならではの」の個性を生かした取り組みで地域の活力を増大】

数値目標	基準値	目標値 (H31)	実績値
平成 27～31 年度の期間に 20 代男女 60 人の社会増	H17-22 -101 人	+60 人	+3 人

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (H31)	実績値
单身女性向け I ターン、U ターン促進ツールの作成	H26 0 件	Web サイト 1 件	0 件
I ターン者向け住宅整備	0	1 棟	2 棟 (R2 年度)
コワーキングスペース整備件数	0 件	1 件	0 件
人材登録数 (シニア)	0 人	30 人	0 人
コミュニケーションスペース整備数	0 件	2 件	0 件

【基本目標「ま」:「また訪れたい」「ここで頑張りたい」と思えるむらづくりを進め、賑わいを将来に渡って続けていく】

数値目標	基準値	目標値 (H31)	実績値 (H29)
秋冬 (11～4 月) の観光入込客数 40,000 人	H26.11- H27.4 31,140 人	40,000 人	30,890 人

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (H31)	実績値
座間味村版 DMO の設立	—	1 件	日本版 DMO 候補法人登録 1 件 (H30 年度)
法人誘客事業による誘致企業数 (年間)	0 件	ツアー 30 件以上	モニター ツアー 1 件 (H29 年度)

【基本目標「み」：みんなで子育てを支え、若い世代の出産・子育ての希望をかなえる】

数値目標	基準値	目標値 (H31)	実績値
生産年齢人口比率：60% (国勢調査ベース)	H22 59.3%	生産年齢人口比率 60.0%	59.6%

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (H31)	実績値
小規模保育所設置	0	1 施設	1 施設 (R1.11 開設)

7. 将来の人口予測

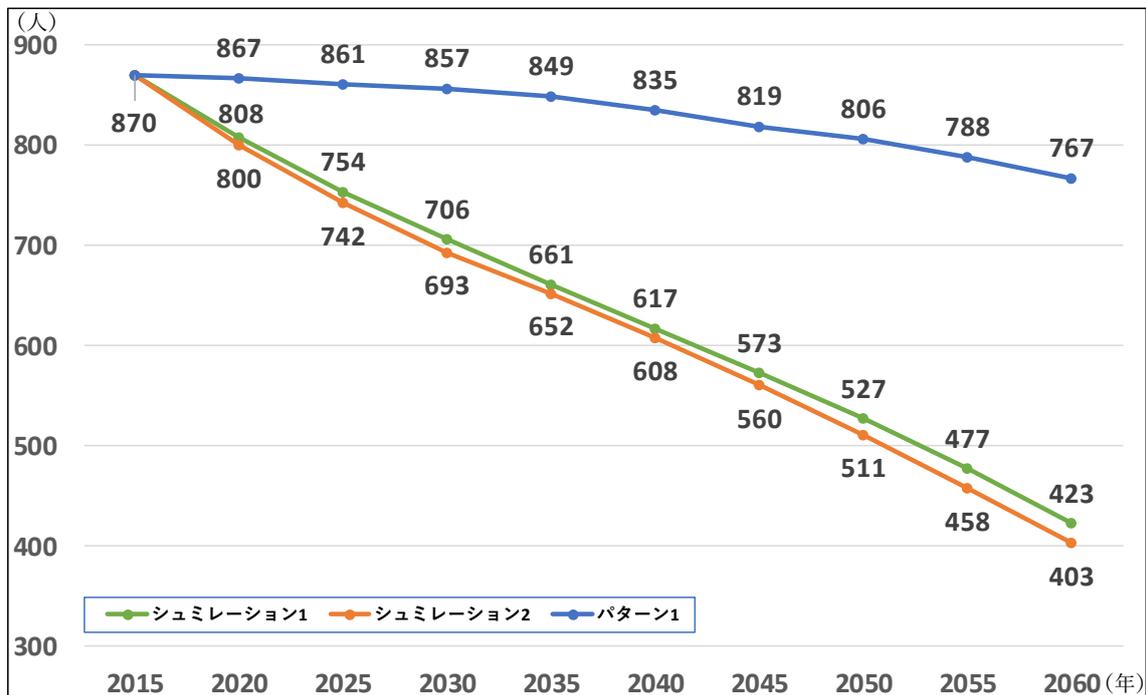


図 18 座間味村の将来人口予測

人 \ 年	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
パターン 1	870	808	754	706	661	617	573	527	477	423
シミュレーション 1	870	800	742	693	652	608	560	511	458	403
シミュレーション 2	870	867	861	857	849	835	819	806	788	767

【出典】

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成

【注記】

・パターン 1

全国の移動率について、足元の傾向が続くと仮定した推計（社人研推計準拠）

・シミュレーション 1

仮に、合計特殊出生率が人口置換水準（人口を長期的に一定に保てる水準の 2.1）まで上昇したとした場合のシミュレーション

・シミュレーション 2

仮に、合計特殊出生率が人口置換水準（2.1）まで上昇し、かつ人口移動が均衡したとした（転入・転出が同数となり、移動がゼロとなった）場合のシミュレーション

8. 第 2 期人口ビジョンの目標

本村の人口は、第 1 期人口ビジョンの目標としていた 800 人の人口規模について、ほぼ展望通りの人口規模となっています。

長期的な人口目標であるため、第 2 期においても、第 1 期の目標を引き継ぎ、800 人規模の人口目標を掲げます。

<本村の人口の将来展望> 2060 年まで、総人口 800 人超の水準を維持する

これからの座間味村をつくり担う若い世代を主なターゲットとして、座間味村の魅力を広めることで、**関係人口の増大・Iターン移住者増加による社会増を実現する**

子育て環境の整備、雇用の創出・安定化等を通じて、**「Iターン・Uターン移住による社会増」の強みを取り戻すとともに、定住増を実現する**

村民の離島での結婚・出産・子育ての不安を解消し、**出産・子育ての希望をかなえることで、出生数の減少を抑制・回復させる**

老後の島での生活の不安を解消し、**村内で希望をもって安心・安全に老後を過ごせる環境づくりを行い、転出人口を減少させる**

9. 目標達成に向けた人口構造

2060 年まで、総人口 800 人超の水準を維持するために、目標人口達成に向けた人口像の村独自推計を行いました。

将来的に減少する生産年齢人口を維持するために、生産年齢人口の移住定住の促進と子育て支援を重点的に行ってまいります。

また、高齢化が進む本村において、老後も安心安全に住み続けられる環境づくりを行い、高齢者の人口流出対策を行います。

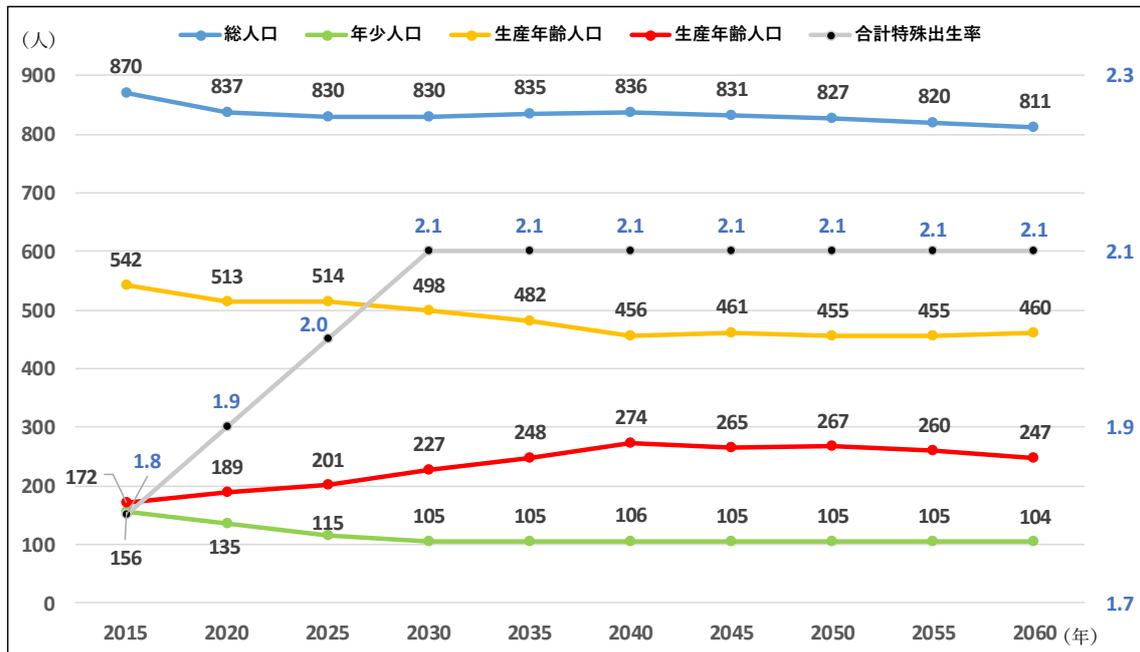


図 19 目標達成に向けた人口構造

(人) \ (年)	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
総人口	870	837	830	830	835	836	831	827	820	811
年少人口	156	135	115	105	105	106	105	105	105	104
生産年齢人口	542	513	514	498	482	456	461	455	455	460
老年人口	172	189	201	227	248	274	265	267	260	247
合計特殊出生率	1.8	1.9	2.0	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1

第 2 期座間味村総合戦略

1. 総合戦略の概要

(1) むら・ひと・しごと創生総合戦略策定の背景と趣旨

「座間味村むら・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「総合戦略」という。）は、「まち・ひと・しごと創生法」（平成 26 年法律第 136 号）第 10 条第 1 項に基づき、人口の現状分析や将来人口推計等を基に、今後の目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示した「座間味村人口ビジョン」を踏まえ、人口減少問題と東京圏への過度の人口集中を改め、将来にわたって活力ある社会を維持する「まち・ひと・しごと創生（地方創生）」の実現に向けて、今後 5 年間の施策目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめた計画です。

座間味村では、2015（平成 27）年度に第 1 期総合戦略を策定し、各種施策を実行してきましたが、2019（令和元年）年度で総合戦略の期間が終期を迎えており、第 2 期総合戦略は今後の本村における人口減少の克服と地方創生を確実に実現するための施策の指針などについて示すものとなります。

(2) 国の総合戦略の概要

国の第 2 期総合戦略では、将来にわたって「活力ある地域社会」の実現と「東京圏への一極集中」の是正を共に目指すため、第 1 期の成果と課題等を踏まえて、第 1 期総合戦略の政策体系を見直し、次の 4 つの基本目標と 2 つの横断的な目標の下に取り組むこととしています。

① 基本目標

- 稼ぐ地域をつくとともに、安心して働けるようにする
 - ・ 地域の特性に応じた、生産性が高く、稼ぐ地域の実現
 - ・ 安心して働ける環境の実現
- 地方とのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくる
 - ・ 地方への移住・定着の推進
 - ・ 地方とのつながりの構築
- 結婚・出産・子育ての希望をかなえる
 - ・ 結婚・出産・子育てしやすい環境の整備
- ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる
 - ・ 活力を生み、安心な生活を実現する環境の確保

第 1 期総合戦略の基本目標の見直し

① 基本目標 2：「地方とのつながりを築く」観点の追加

地域外から地域の祭りに毎年参加し運営にも携わる、副業・兼業で週末に地域の企業・NPO で働くなど、その地域や地域の人々に多様な形で関わる人々、すなわち「関係人口」^{*1}を地域の力にしていくことを目指すなど、地方とのつながりの強化に向けて、地域に目を向け、地域とつながる人や企業を増大させることを目指す。

② 基本目標 1、4：「ひとが集う、魅力を育む」観点の追加

稼げる地域をつくり、賃金ややりがいの面で魅力的なしごとの場を地方に創出するとともに、地域における所得の向上を実現する。また、質の高い暮らしのためのまちの機能の充実に取り組む。

【参考】国の第 1 期総合戦略における基本目標

基本目標 1 地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする

基本目標 2 地方への新しいひとの流れをつくる

基本目標 3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

基本目標 4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

※1 「関係人口」とは、移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々のことを指します。

② 横断的な目標

○多様な人材の活躍を推進する

多様な人材が活躍できる環境づくりを積極的に進めるとともに、誰もが居場所と役割を持ち活躍できる地域社会を目指す。

○新しい時代の流れを力にする

地方における Society5.0^{※2}の実現に向けた技術（未来技術）の活用を強力に推進するとともに、持続可能な開発目標（SDGs）^{※3}を原動力とした地方創生を推進する。

※2 サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）。狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指す。

※3 2001 年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」にて記載された 2016 年から 2030 年までの国際目標。17 の目標と 169 のターゲットから構成され、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、経済・社会・環境をめぐる広い範囲で総合的に取り組むこととしている。

③ まち・ひと・しごと創生に向けた政策 5 原則

項目	内容
自立性	地方公共団体・民間事業者・個人等の自立につながるような施策に取り組む。
将来性	施策が一過性の対症療法にとどまらず、将来に向かって、構造的な問題に積極的に取り組む。
地域性	地域の強みや魅力を活かし、その地域の実態に合った施策を、自主的かつ主体的に取り組む。
直接性	施策の効果をより高めるため、多様な主体との連携や、他の地域、施策との連携を進めるなど、総合的な施策に取り組む。その上で、限られた財源や時間の中で最大限の成果を上げるため、直接的に支援する施策に取り組む。
結果重視	施策の結果を重視するため、明確な PDCA ^{※4} メカニズムの下に、客観的データに基づく現状分析や将来予測等により短期・中期の具体的な数値目標を設定した上で施策に取り組む。その後、政策効果を客観的な指標により評価し、必要な改善を行う。

※4 Plan-Do-Check-Action の略称。Plan(計画)、Do(実施)、Check(評価)、Action(改善)の4つの視点を業務プロセスの中に取り込むことで、プロセスを不断のサイクルとし、継続的な改善を推進するマネジメント手法。

(3) 第 2 期総合戦略における基本目標に向けた取り組みに関する新たな視点

- ①民間と協働する
 - 地方公共団体に加え、NPO 等の地域づくりを担う組織や企業と連携。
- ②人材を育て活かす
 - 地方創生の基盤をなす人材に焦点を当て、掘り起こしや育成、活躍を強化。
- ③新しい時代の流れを力にする
 - Society5.0 の実現に向けた技術の活用を横断分野として位置付け、強力的に推進。
 - SDGs を原動力とした地方創生をより一層充実・強化。
- ④地方へのひと・資金の流れを強化する
 - 将来的な地方移住にもつながる「関係人口」を創出・拡大。
 - 志ある企業や個人による地方への寄附・投資等により地方への資金の流れの強化。
- ⑤誰もが活躍できる地域社会をつくる
 - 女性、高齢者、障害者、外国人など誰もが居場所と役割を持ち、活躍できる地域社会を実現。
- ⑥地域経営の視点で取り組む
 - 新設からストック活用・マネジメント強化へ転換等。

2. 第 2 期総合戦略の計画期間

第 2 期総合戦略は、2021（令和 3）年度から 2025（令和 7）年度までの 5 か年を計画期間とします。

3. 座間味村の第 2 期総合戦略の基本目標と基本的方向の考え方

第 1 期の座間味村むら・ひと・しごと総合戦略では、3 つの基本目標に対して、5 つの基本的方向を位置付けていました。第 2 期総合戦略では、時代の流れや村民・事業者のニーズに応じ見直しを行いました。

具体的には、第 1 期における基本目標は継続しながら、国の基本目標に向けた取組に関する新たな視点や県の重要施策などを踏まえ、4 つの重要な視点で必要性を認識した上で整理した結果、第 2 期総合戦略では 6 つの村の基本的方向への再編を行っています。

第 2 期総合戦略における 4 つの重要な視点

- ① 時代の潮流を踏まえた地域づくりとなっているか。
- ② 子供から高齢者まで全ての世代の方々を支える仕組みとなっているか。
- ③ 村政の課題や推進している事業などと一致しているか。
- ④ SDGs の理念が反映された施策となっているか。

4. 「座間味村らしさ」を活かした視点 ～座間味村 21 世紀三島物語～

平成 20 (2008) 年のリーマンショック以来、座間味村の年間観光客数は 6 万人台まで減少しましたが、平成 26 (2014) 年 3 月の国立公園指定をきっかけに再び観光客数は増加に転じ、平成 27 (2015) 年は台風の影響を受けながらも、統計開始後初めて年間 10 万人を達成しました。

しかし、新型コロナウイルスの拡大により、世界的な観光需要は急激に落ち込んでおり、これから数年は観光客の減少が続くと見込まれます。また、with コロナ時代を見据えた観光の在り方の検討も求められます。

このような中においても、座間味村の魅力が失われたわけではありません。観光産業はこれからも座間味村を発展させていく上での軸になり続けていくと考えられます。しかしその一方で、以前から指摘されているように夏場にだけ観光客が集中する「季節重労働」といった点、離島観光ならではの「天候・景気の影響を受けやすい」といった点、観光客の減少に村の人口が負の影響を受ける点から、村の産業・雇用が安定しにくいという課題も抱えています。

本村は「一村三島」であり、各島で島民性もインフラ・公共施設の状況もそれぞれに異なります。このため「安定した雇用(しごと)」と「本村への新しい人の流れづくり(ひと)」、またこれらを好循環に乗せるための「まちづくり」において、島それぞれに適した施策等を講じる必要があります。

これらを踏まえ、後述で定義する各施策においては、「各島の良さを活かす」という視点から「座間味村 21 世紀三島物語」に示す 3 つの要素を十分に織り込んでいます。

① 座間味島を中心に村全域で・・・ 法人誘客

冬場も来島する新たな交流ターゲットを創出するため、「企業」を新たな顧客に、研修やスモール MICE、新型コロナウイルス感染症によるワーケーションなど働き方の変化、ビジネスツアー等に対応した旅行商品を企画します。ストレス社会で生きる人々の人間力回復、人間関係再生の場、with コロナの時代の新しいライフスタイルへの提案として、離島村である本村が機能することで、わが国企業人のメンタルヘルス増進と企業の安定的成長に寄与します。

② 阿嘉島・・・ サンゴをキーワードとした環境保全の取り組み強化とその後の展開

自然環境を守ることは、阿嘉島はもとより座間味村の衰退にもかかわる重要なものと考えます。

健全で豊かな自然環境の保全に取り組むとともに、観光資源や環境教育、企業 CSR への活用を図るために、サンゴ保全作業の体験等をコンセプトにしたプログラムの開発、プロモーション等を環境省やダイビング協会、観光協会と連携して行います。

また、種苗センターを活用した新たな産業の創出等も視野に入れ、取り組みを行ってまいります。

③ 慶留間島・・・ 留学制度の定着・発展

集落存続と定住人口増加のため、現在行われている留学制度を支援し、優秀な小中学生を受け入れ、大自然に抱かれた学習環境の中で 21 世紀を担うたくましい人材を育て地域の活性化を図ります。

5. 第 2 期総合戦略の基本目標と基本的方向

第 2 期座間味村総合戦略の基本目標と基本的方向を下記に示します。

基本目標については、第 1 期総合戦略の基本目標を継続し、基本的方向と施策体系は、第 1 期総合戦略から引き継ぎつつ、地方創生を強化するための方向や、時代の潮流に合わせた方向を示すよう追加・修正しています。

	村の基本目標	村の基本的方向	施策体系
せ	「座間味村ならではの」の個性を活かした取組みで地域の活力を増大	<ul style="list-style-type: none"> ○座間味村にかかわりのある方との関係性を強化し、関係人口の増大を図る。 ○座間味村の個性や文化を理解・尊重する移住者を増加・定住させるため、座間味村特有の取組みや魅力を発信するとともに、受入体制を強化する。 ○多世代交流を通じて村民の結束力を強め、定住を促進する。 	<p>1. U・I ターンの増加、定住の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○留学制度支援や「座間味村アイランダーズネットワーク」などを通じた村の魅力発信 ○座間味村へ移住する人の医療や住居などの「くらし」の支援 ○ICT の整備・利活用などを通じた、新たな働き方の実現 ○ふるさと納税や企業版ふるさと納税制度の活用による資金調達の強化 <p>2. 地域コミュニティの強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○元気なシニア世代が活躍できる仕組み・場の創出 ○世代を越えた村民交流による、村民のつながり強化
ま	「また訪れたい」「ここで頑張りたい」と思える村づくりを進め、賑わいを将来に渡って続けていく	<ul style="list-style-type: none"> ○主要産業である観光を公民一体となって強化するとともに、座間味村の自然・文化等を活かして「新たな価値」を提供することで、通年の観光需要と雇用の創出・安定化を図る。 ○地域産業の販路拡大等を支援するとともに、若い世代への継承・人材育成を通じて産業を活性化させる。 	<p>1. 観光振興による村の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○観光振興に向けた受入体制の強化 ○通年での観光需要の拡大に向けた、座間味村観光の「新たな価値」の創出 <p>2. 地域を支える様々な産業と人材の育成・展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域に根ざす産業の維持・活性化 ○若い世代への継承・人材育成
み	みんなで子育てを支え、若い世代の出産・子育ての希望をかなえる	<ul style="list-style-type: none"> ○「繁忙期である夏季を中心とした保育ニーズ」など、座間味村ならではの希望に沿った子育て環境をむら一体で整備し、座間味村を子育ての場にも選んでもらう。 	<p>1. 子育て環境の整備・支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○島の子育て環境の整備 ○外部連携による活性化 ○ICT を活用した先進的な学校教育の推進
	継続	再編	再編

6. 総合戦略の各施策の方向性と KPI

基本的目標に基づく各施策の方向性及び KPI（重要業績評価指標）を、以下に示します。

ざ：「座間味村ならではの」個性を活かした取り組みで地域の活力を増大

【数値目標と基本的方向】

表 1 数値目標と基本的方向 「ざ」

数値目標	<p>○2021 年～2025 年度の期間に生産年齢人口の 32 人の社会増を目指します。 （1 年あたり 6.4 人程度の純増を目指す） ※2005 年（H17）～2010 年（H22）は 3 人の転入超過</p>
基本的方向	<p>○定住促進とあわせて安定的な人口の増加は行政サービスの維持や学校運営等にとって重要な要素です。 ○座間味村の個性や文化を理解・尊重する移住者を増加・定住させるため、座間味村特有の取り組みや魅力を発信するとともに、受入体制を強化します。 ○多世代交流を通じて村民の結束力を強め、定住を促進します。</p>

【各施策の内容と重要業績評価指標（KPI）】

1. U・I ターン移住の増加、定住の促進

(1) 留学制度や「座間味村アイランダーズネットワーク」などを通じた村の魅力発信

施策の内容		
<p>○座間味村の地域特性や文化を十分に理解し尊重できる関係人口を増やし、更には I ターン移住者を増やしていくため、「慶留間島留学制度」や座間味村がこれまで培ってきた「座間味村アイランダーズネットワーク」などの取り組みを、引き続き地域・行政で支え発展させていきます。 ○また、上記の取り組みとあわせて、移住希望者向けの情報発信についても、村民・地域と連携して積極的に取り組み、U ターン、I ターンを実現していきます。</p>		
重要業績評価指標（KPI）	基準値（2020 年度）	目標値（2025 年度）
U ターン、I ターン 促進ツールの作成	0 件	Web サイト 1 件
主な事業		
<p>○村・島の魅力発信事業 村の地域特性・文化を理解し尊重できる移住者を増やすため、アイランダーズネットワークや実際に座間味村に移住・定住している村民、村・島の取り組み好例などを素材として活かし、島外でのプロモーション活動や移住情報提供ポータルサイトの整備を行います。</p>		

また、村内の取り組みを地域住民と共有し島全体で取り組むために、住民向けの PR 力の強化を図ります。

○慶留間島留学制度支援事業

島外人材の育成、魅力発信・PR による将来的な移住希望者の増大を企図して、現在個人・ボランティアベースで取り組まれている慶留間島留学制度の運営安定化や発展に向け、金融機関や土業等外部有識者等との連携により資金面及び組織・人材面の支援を行います。

(2) 座間味村へ移住する人の医療や住居などの「くらし」の支援

施策の内容		
<p>○若年層の U ターン・I ターン移住者数を回復・増大させるとともに、座間味村に移り住んだ方を将来に渡って定着させるために、移住者の暮らしに直結する医療や居住環境などの生活環境に対する支援などを行います。</p> <p>○また上記の取り組みについて、実際の移住・定住者増加につなげるため、“移住希望者にとっての座間味村の魅力”として効果的に村外へ発信していきます。</p>		
重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (2020 年度)	目標値 (2025 年度)
官民連携による 新たな住宅整備	0 件	1 棟
主な事業		
<p>○U ターン向け医療学費給付事業</p> <p>U ターン移住の回復と将来の村の医療供給体制を維持することを目的として、島外で医療関連等の高等教育を受ける若者に向けて、U ターン移住などとあわせた学費補助を行います。</p> <p>○U・I ターン向け住宅取得支援事業</p> <p>U・I ターン移住の増加に向けて、移住者が村で居住できる環境を充実させるため、PFI などの官民連携等により、シェアハウスなど新たな形態も含めた住宅環境の整備や、空き家・空き地の活用など移住者の住宅取得に対する支援を行います。</p>		

(3) ICT の整備・利活用などを通じた、新たな働き方の実現

施策の内容		
<p>○新型コロナウイルスの影響により拡大したワーケーション需要や働き方の変化に対する本村の取り組みとして、移住者の裾野をさらに広げていくため、座間味村の持つ豊富な自然等の資源と光ブロードバンド環境を組み合わせたワークスペースの確保などに取り組みます。</p>		
重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (2020 年度)	目標値 (2025 年度)
コワーキングスペース 整備件数	0 件	1 件
主な事業		
<p>○コワーキングスペース整備事業</p> <p>I ターン移住者の増大に向けて、テレワークをはじめとした移住希望者のもつ新たな働き方へのニーズを充足するため、光ブロードバンド等を活用した、移住者等向けの SOHO・ワークスペース・コミュニケーション拠点の整備を行います。</p> <p>将来的には、村民や村外移住希望者にとっての「しごとづくり」「しごと探し」の場となる「ビジネスコンシェルジュセンター」として発展させることを検討します。</p>		

(4) ふるさと納税や企業版ふるさと納税制度の活用による資金調達の強化

施策の内容		
<p>○ふるさと納税や企業版ふるさと納税制度を活用し、資金調達の強化と座間味村のむらづくりを応援する関係人口の増加に取り組みます。</p>		
重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (2020 年度)	目標値 (2025 年度)
企業版ふるさと納税の件数	－件	5 件
主な事業		
<p>○ふるさと納税の返礼品開拓</p> <p>村内の事業者等と連携し、返礼品の開拓を行います。</p> <p>○企業版ふるさと納税の強化</p> <p>座間味村のむらづくりに共感し、ふるさと納税で応援してくれる企業を募集します。</p>		

2. 地域コミュニティの強化

(1) 元気なシニア世代が活躍できる仕組み・場を地域に創出

施策の内容		
○元気なシニア世代が村内で継続して活躍できる仕組みづくりや、シニア世代がもつ知恵やスキル、活力を次の世代のために活用できる仕組みづくりを進めます。		
重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (2020 年度)	目標値 (2025 年度)
人材登録数	0 人	30 人
主な事業		
○シニア世代活躍推進事業 シニアを含めた地域を支える人材の情報を調査・集積し、「人材バンク」を整備し、村の各施策や事業、観光ガイド、地域・学校の活動等において活躍していただける仕組みづくりを進めます。また、そのような取り組みを通じて、次世代への知恵・スキルの継承を図っていきます。		
○高齢者福祉の充実 村内で希望をもって安心・安全に老後を過ごせる環境づくりの一つとして、後見人制度の充実を図ります。		

(2) 世代を越えた村民交流による、村民のつながり強化

施策の内容		
○災害への備えや、平穏な島の暮らしを脅かす事柄から地域を守るためにも、村民のつながりを強化し、地域コミュニティを維持・強化していくことで、生活の質の向上、安全・安心な暮らし、幅広い世代の定住促進をはかります。		
重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (2020 年度)	目標値 (2025 年度)
コミュニケーション スペース整備数	0 件	1 件
主な事業		
○三島村民交流事業 村民の交流を活性化するために、座間味島、阿嘉島、慶留間島の三島から村民が集まる大運動会などのスポーツ大会を継続して開催します。		
○多世代コミュニケーションスペース整備事業 学校や民間福祉施設などの既存施設を活用しながら、官民が協働し、保育や学童保育、高齢者福祉も包含した多世代コミュニケーションスペースを整備します。特に若い I ターン者と古くからの在住者など、接点が生まれにくい層の間の交流をはかっていきます。 将来的には、学生インターンや実習の受け入れ、施設運営におけるシニア世代等の活用など、プレ移住・シニア世代を主とした雇用創出等の取り組みも拡充していきます。		

ま：「また訪れたい」「ここで頑張りたい」と思えるむらづくりを進め、賑わいを将来に渡って
 続けていく

【数値目標と基本的方向】

表 2 数値目標と基本的方向 「ま」

数値目標	○宿泊率 60%以上（2025 年時点） （2019 年 12 月末時点 56.15%）
基本的方向	○主要産業である観光を官民一体となって強化するとともに、座間味村の人材・自然・文化等を活かして「新たな価値」を提供することで、通年の観光需要と宿泊率の向上、雇用の創出・安定化を図る。 ○地域産業の販路拡大等を支援するとともに、若い世代への継承・人材育成を通じて産業を活性化させる。

【各施策の内容と重要業績評価指標（KPI）】

1. 観光振興による村の活性化

(1) 観光振興に向けた受入体制の強化

施策の内容		
<p>○観光庁の「日本版DMO形成・確立に係る手引き」においても、地域の多様な関係者が連携し、地域に息づく暮らし、自然、歴史、文化等に係る地域の幅広い資源の最大限の活用と「稼ぐ力」を引き出す明確なコンセプトづくりが重要視されています。</p> <p>○本村は、座間味村観光協会が日本版 DMO 候補として観光庁に登録されています。今後は観光地域づくりの中心的役割を果たすべく組織の強化と、観光客の受入環境の整備・拡充をはかっていきます。</p>		
重要業績評価指標（KPI）	基準値（2020 年度）	目標値（2025 年度）
座間味村版 DMO の実質的な運営開始	—	事業開始
主な事業		
<p>○座間味村版DMOの機能強化</p> <p>村全体の観光振興のプラットフォームである「座間味村版DMO」を中心として、個人客、法人・団体客の受入などを通じた地域一体で村の交流人口拡大を図ります。</p> <p>DMO を核とした観光振興が図れるよう、観光戦略（稼ぐコンセプトづくり）策定や人材育成、運営資金スキームの検討などを村及び観光協会、環境省の 3 者で連携して進めていきます。</p> <p>○受入環境の整備・拡充事業</p> <p>観光客のカスタマーエクスペリエンス向上を図るため、受入環境の整備・拡充を行います。具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊施設や飲食店、交通インフラ、社会インフラなどの受入環境や観光施策全体の継 		

続的改善に向けた観光客のニーズ・動向等の定期調査の実施、周遊性や安全確保に向けた案内看板の設置や観光危機管理マニュアルの整備、国際交流員（CIR）の継続配置。

- ・カスタマーエクスペリエンス向上に資するガイド人材の確保、育成の促進などを実施します。

○新型コロナウイルス対策支援事業

本村は観光産業をリーディング産業としており、with コロナ時代・after コロナ時代に向けた新たな受け入れ環境の構築が村の観光振興に欠かせません。

観光産業の不調は、村内のその他の産業へも大きな影響を与えるため、観光の復興を早めるために村独自の復興支援策を行ってまいります。

○世界的な新型コロナウイルスの状況に合わせた誘客事業の展開

外国人観光客が途絶えた状況が今後数年は続くと予想される中で、県内客や国内客をターゲットとした誘客や、世界的な新型コロナウイルスの状況を考慮した海外向けの誘客事業を行ってまいります。

そのためには、沖縄県や沖縄観光コンベンションビューロー、座間味村観光協会、環境省との連携や緊密な情報交換を行い、観光産業の復興に向けた取り組みを継続して行っていきます。

(2) 通年での観光需要の拡大に向けた、座間味村観光の「新たな価値」の創出

施策の内容		
○夏場に観光客が集中する季節偏重という課題を解消し、年間を通した誘客を実現し、安定した雇用を創出するため、座間味村観光の”次の一手”を創出します。		
重要業績評価指標（KPI）	基準値（2017年度）	目標値（2025年度）
法人誘客事業による誘致企業数（年間）	モニターツアー1件	ツアー30件以上
主な事業		
○法人誘客による交流人口拡大に向けての調査事業		
<p>村の交流人口拡大・産業活性化に向けた「法人誘客」メニューの1つとして、村の海・陸それぞれの自然資源や座間味村ならではの生活様式、またそれを支える人的資源などを活かして、「人材育成・再生」「研修」等をテーマとした法人向けのメニュー開発を行い、市場性検証を通じて、積極的にプロモーションしていきます。</p>		
○サンゴ保全・海浜環境保全事業		
<p>白砂に縁取られた島々が点在する内海はサンゴ礁が発達し、美しい海中景観でダイバーを魅了する海域となっています。</p> <p>これらはいつでも当たり前のように存在していますが、持続可能な環境保全と観光資源としての活用を図るために、これまでのサンゴ保全にかかる取り組みを発展させ、</p>		

サンゴそのものやサンゴ礁生物に対する見学・保全作業体験等をコンセプトにしたプログラムの開発・プロモーションを環境省やダイビング協会、観光協会等と連携して行います。

また、民間団体等と連携して、ビーチクリーンなどの清掃活動を推進し、海浜環境の保全を図るとともに、環境学習や保全活動自体を観光コンテンツの一つとして活用を図ります。

○世界的なトップアスリートを育てるスポーツキャンプ誘致事業

本村にはトレーニングフィールドとして優れた冬場の海を活かしセーリング日本代表チームのキャンプを支えてきた実績があります。座間味村ならではの海洋資源・自然環境を活かし、セーリングなどマリンスポーツをターゲットとしたナショナルチームや社会人・学生スポーツ団体のキャンプ誘致に向けたプロモーション・受入体制整備等を行います。

○修学旅行受入促進事業

村にある海・陸・座間味村ならではの生活様式や戦跡などの平和教育資源、環境省と連携した環境教育資源などを活かし、県外中学校・高等学校の修学旅行受入に向けた座間味村オリジナルのメニュー開発・プロモーションを座間味村観光協会と連携して行います。

2. 地域を支える様々な産業と人材の育成・展開

(1) 地域に根ざす産業の維持・活性化

施策の内容		
○観光地としての本村の魅力をさらに向上させるには、農水産業の振興が不可欠であり、従事者の支援や観光との連携強化をはかっていくとともに、新たな領域での産業振興も進めていきます。		
重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (2015 年度)	目標値 (2025 年度)
地域経済循環率	46.3%	50.0%
主な事業		
○農水産業活性化事業		
<p>村の生活を支える農水産業を村にとっての経済基盤として確立させるため、官民の連携により、販売所などの村内流通拠点を整備するとともに、流通に向けた生産者の意識改革を進めます。</p> <p>また地産農産物・海産物等の生産者・流通拠点等に対する助成措置を進めるとともに、認定農業者制度の整備や農地プランの策定も行います。</p>		
○農水観連携事業		
<p>観光と農水産業の一体化をはかるため、観光客の村内消費拡大も見据えた「座間味村ブランド」「座間味村独自商品」の開発・PR の推進や、農業・漁業体験プログラムの</p>		

開発を行います。

また、観光産業により地域内で消費された資金を、食材の仕入れや体験型観光等により地域内で循環させる仕組みづくりに取り組みます。

○農業基盤強化事業

村内の灌漑水路整備や堆肥仕入れの船賃助成などを通じて、村内の農業基盤強化の支援を行います。

○創業支援事業

村内事業者の創業や新規事業立ち上げの支援を目的として、金融機関と連携した低利での資金供給制度を設置するとともに、利子の補給などによるバックアップも行います。

(2) 若い世代への継承・人材育成

施策の内容		
○村の未来を担う若い世代や子どもたちは本村の宝であり、そのための人材育成を村一丸となって推進します。		
重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (2020 年度)	目標値 (2025 年度)
キャリア教育等のプログラムの実施	—	5 件 (年 1 回)
主な事業		
○次世代人材育成事業		
<p>本村は、ダイビングに牽引される観光の黄金期を築いた“第 1 期オーナー(経営者)”から後継者への事業継承期を迎えています。次世代の産業の担い手づくりと、観光と農水産業等を融合した地域づくりプロデューサーをはぐくむため、村の若い人材の発想力やリーダーシップ向上、チームワークづくりのための研修への派遣、また経営力向上、語学スキル向上、観光ガイドスキル向上などの実践的な講座を開催します。さらに、村の子どもたちが「世界」に目を向けられるよう、村外企業等と連携したキャリア教育等のプログラムの企画・実行を継続していきます。</p>		
○平和未来プロジェクト		
<p>平成 27 年度発足のプロジェクトを継承し、村の歴史・文化の伝承を目的として、戦争資料の収集等を引き続き行い、公共施設に展示し、平和学習に活用することで、村の子どもたちや修学旅行生への教育・伝承を図っていきます。</p>		
○外国人指導助手 (ALT) 配置事業		
<p>各学校に ALT を配置し、外国語教育の充実を図っていきます。</p>		
○孺恋村交流事業		
<p>姉妹村である群馬県孺恋村との中学生間交流を通じて、多様な社会に順応し、主体的に行動できる人材育成を図っていきます。</p>		

○地域国際交流事業

県及び県内企業と連携し、村内中学生の海外ホームステイを実施することで、村の将来を担うグローバル人材の育成を図ります。

み：みんなで子育てを支え、若い世代の出産・子育ての希望をかなえる

【数値目標と基本的方向】

表 3 数値目標と基本的方向 「み」

数値目標	○生産年齢人口比率：60%（国勢調査ベース） ※平成22年時点で59.6%
基本的方向	○「繁忙期である夏季を中心とした保育ニーズ」など、座間味村ならではの希望に沿った子育て環境をむら一体で整備し、座間味村を子育ての場を選んでもらう。

【各施策の内容と重要業績評価指標（KPI）】

1. 子育て環境の整備・支援

(1) 島の子育て環境の整備

施策の内容		
○村民の結婚・出産・子育ての希望をかなえるため、子育て環境や各種支援制度をより一層充実させます。		
重要業績評価指標（KPI）	基準値（2020年度）	目標値（2025年度）
阿嘉島でファミリーサポートセンターの実施	0	実施
主な事業		
○保育事業の充実 座間味幼稚園にてスタートした「預かり保育事業」の充実を図り、子育て世代の負担を軽減し、子育てしやすい環境づくりを推進します。 また、阿嘉島においては、預かり保育の実施に向けた検討を行うとともに、ファミリーサポートセンターの充実を図るため、子育て支援員の育成・確保を行い、地域による育児格差の解消に努めます。		
○妊婦健診助成事業 子育て世代の家計を支援するため、沖縄本島での妊婦健診受診時の渡航費や宿泊費を14回まで公費負担する事業を継続します。		
○出産祝い金事業 子育て世代の家計を支援するため、村内の新生児に対して、出産助成金10万円を給付する事業を継続します。		
○幼稚園入園料・保育料助成事業 子育て世代の家計を支援するため、入園料・保育料を無償化し、子育て世代の負担軽減を図ります。		
○離島高校生支援事業 村内の中学校を卒業し、高校に進学した生徒を対象に、家賃補助（24万円／年）及		

び里帰りのための船舶運賃を補助します。(4回/年)

○スポーツ大会派遣事業

子育て世代の家計を支援するため、スポーツ大会などへの小中学生派遣交通費を助成します。

○通院等支援事業

村内の 2 診療所では受けられない専門医療(不妊、がん、難病治療など)や、発達支援センター等の療育サービスを沖縄本島で受診する村民の経済的な負担を軽減するため、船舶運賃・宿泊費を補助します。

○沖縄県と連携した未来技術を活用した医療環境整備の検討

村内の医療環境を充実させるため、医療分野における未来技術を活用したオンライン診療(遠隔診療)の導入について検討します。

(2) 外部連携による活性化

施策の内容		
○村内部のリソースのみならず、外部人材との連携・交流を積極的におこなうことで、教育環境や子育て環境の活性化をはかります。		
重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (2020 年度)	目標値 (2025 年度)
県内外大学生との連携	—	連携した事業実施
主な事業		
○小中学校教育活性化事業 本村の未来を担う児童・生徒のコミュニケーションスキル等の様々なスキル向上を目的とし、県内外の大学生との連携・交流を推進します。また、受け入れる県内外の大学生の SNS 等を通じた本村の魅力発信効果も創出していきます。		
○大学連携による保育インターン受入事業 本村の夏の繁忙期に集中する保育ニーズに対応するために、保育インターンの受入を推進します。また、受け入れるインターンの SNS 等を通じた本村の魅力発信効果も創出していきます。		

(3) ICT を活用した先進的な学校教育の推進

施策の内容		
○Society 5.0 時代を生きるこれからの子供たちの学習環境を整備し、ICT を活用した先進的な学校教育に取り組みます。		
重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (2020 年度)	目標値 (2025 年度)
子供の居場所づくりに おける Wi-Fi 利用環境整備	—	整備実施
主な事業		
○国と連携した GIGA スクール構想の実現 Society 5.0 時代を生きるこれからの子供たちの学習環境に対応するため、国及び県と連携した GIGA スクール構想の実現を図ります。 小中学校では、ひとりに一台のモバイル端末の配置を完了しており、今後は家庭学習での活用や、子どもの居場所づくりの中で利用環境の整備を行ってまいります。		

7. 第 2 期総合戦略の主な事業と関連する SDGs の目標一覧

(1) 持続可能な開発目標(SDGs)とは

持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）は、2015 年 9 月の国連で採択されたもので、国連加盟 193 カ国が 2016 年から 2030 年までの 15 年間で達成するために掲げた目標であり、環境、経済、社会それぞれの側面を統合的に向上させるため、17 の目標と 169 のターゲットから構成されています。この目標の達成に向け、政府だけでなく、自治体や企業、諸団体、村民にも役割があり、それぞれが協力・連携しあうことが求められています。



SDGs（持続可能な開発目標）17の目標

- 目標1（貧困をなくそう）：あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる
- 目標2（飢餓をゼロに）：飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する
- 目標3（すべての人に健康と福祉を）：あらゆる年齢の全ての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する
- 目標4（質の高い教育をみんなに）：全ての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する
- 目標5（ジェンダー平等を実現しよう）：ジェンダー平等を達成し、全ての女性及び女児の能力強化を行う
- 目標6（安全な水とトイレを世界中に）：全ての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
- 目標7（エネルギーをみんなにそしてクリーンに）：全ての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する
- 目標8（働きがいも経済成長も）：包摂的かつ持続可能な経済成長及び全ての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する
- 目標9（産業と技術革新の基盤をつくろう）：強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る
- 目標10（人や国の不平等をなくそう）：各国内及び各国間の不平等を是正する
- 目標11（住み続けられるまちづくりを）：包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する
- 目標12（つくる責任つかう責任）：持続可能な生産消費形態を確保する
- 目標13（気候変動に具体的な対策を）：気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる
- 目標14（海の豊かさを守ろう）：持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
- 目標15（陸の豊かさも守ろう）：陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の促進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、並びに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する
- 目標16（平和と公正をすべての人に）：持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、全ての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する
- 目標17（パートナーシップで目標を達成しよう）：持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

(2) 第 2 期総合戦略の主な事業と関連のある SDGs の目標一覧

総合戦略では、個々の施策が世界レベルの目標達成に繋がっていることを認識するため、総合戦略で実施する主な事業を、SDGs の 17 の目標と関連性を示しています。

また、SDGs の理念を施策に反映させるためには、SDGs に対する村民の理解を深め、村内事業所の経済活動において 17 の目標達成に資する取組を促進することが必要であることから、広報活動等を行い SDGs に対する意識醸成と理解促進を図ります。

ざ：「座間味村ならではの」の個性を活かした取り組みで地域の活力を増大

1. U・I ターン移住の増加、定住の促進

(1) 留学制度や「座間味村アイランダーズネットワーク」などを通じた村の魅力発信

主な事業	関連する SDGs の目標		
村・島の魅力発信事業	11 住み続けられるまちづくりを 	17 パートナリプで目標を達成しよう 	11 住み続けられるまちづくりを 17 パートナリプで目標を達成しよう
慶留間島留学制度支援事業	4 質の高い教育をみんなに 	11 住み続けられるまちづくりを 	4 質の高い教育をみんなに 11 住み続けられるまちづくりを

(2) 座間味村へ移住する人の医療や住居などの「くらし」の支援

主な事業	関連する SDGs の目標		
U ターン向け医療学費 給付事業	11 住み続けられるまちづくりを 	17 パートナリプで目標を達成しよう 	11 住み続けられるまちづくりを 17 パートナリプで目標を達成しよう
U・I ターン向け住宅取得 支援事業	11 住み続けられるまちづくりを 		11 住み続けられるまちづくりを

(3) ICT の整備・利活用などを通じた、新たな働き方の実現

主な事業	関連する SDGs の目標		
コワーキングスペース 整備事業	8 働きがいも経済成長も 	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 	8 働きがいも経済成長も 9 産業と技術革新の基盤をつくろう

(4) ふるさと納税や企業版ふるさと納税制度の活用による資金調達の強化

主な事業	関連する SDGs の目標		
ふるさと納税の返礼品開拓	11 住み続けられるまちづくりを 	17 パートナリプで目標を達成しよう 	11 住み続けられるまちづくりを 17 パートナリプで目標を達成しよう
企業版ふるさと納税の強化	11 住み続けられるまちづくりを 	17 パートナリプで目標を達成しよう 	11 住み続けられるまちづくりを 17 パートナリプで目標を達成しよう

2. 地域コミュニティの強化

(1) 元気なシニア世代が活躍できる仕組み・場を地域に創出

主な事業	関連する SDGs の目標	
シニア世代活躍推進事業	 1 貧困をなくそう	 8 働きがいも経済成長も
高齢者福祉の充実	 1 貧困をなくそう	 3 すべての人に健康と福祉を

(2) 世代を越えた村民交流による、村民のつながり強化

主な事業	関連する SDGs の目標	
三島村民交流事業	 11 住み続けられるまちづくりを	 17 パートナシップで目標を達成しよう
多世代コミュニケーション スペース整備事業	 11 住み続けられるまちづくりを	11 住み続けられるまちづくりを

第 2 期座間味村総合戦略

ま：「また訪れたい」「ここで頑張りたい」と思えるまちづくりを進め、賑わいを将来に渡って続けていく

1. 観光振興による村の活性化

(1) 観光振興に向けた受入体制の強化

主な事業	関連する SDGs の目標		
座間味村版DMO の機能強化			8 働きがいも経済成長も 17 パートナシップで目標を達成しよう
受入環境の整備・拡充事業			8 働きがいも経済成長も 17 パートナシップで目標を達成しよう
新型コロナウイルス 対策支援事業			8 働きがいも経済成長も 11 住み続けられるまちづくりを
世界的な 新型コロナウイルスの状況 に合わせた誘客事業の展開			8 働きがいも経済成長も

(2) 通年での観光需要の拡大に向けた、座間味村観光の「新たな価値」の創出

主な事業	関連する SDGs の目標		
法人誘客による交流人口 拡大に向けての調査事業			8 働きがいも経済成長も 17 パートナシップで目標を達成しよう
サンゴ保全・海浜環境保全 事業			8 働きがいも経済成長も 14 海の豊かさを守ろう
世界的なトップアスリート を育てるスポーツキャンプ 誘致事業			8 働きがいも経済成長も 17 パートナシップで目標を達成しよう
修学旅行受入促進事業			16 平和と公正をすべての人に 17 パートナシップで目標を達成しよう

2. 地域を支える様々な産業と人材の育成・展開

(1) 地域に根ざす産業の維持・活性化

主な事業	関連する SDGs の目標			
農水産業活性化事業				8 働きがいも経済成長も 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさを守ろう
農水観連携事業				8 働きがいも経済成長も 11 住み続けられるまちづくりを
農業基盤強化事業				11 住み続けられるまちづくりを 15 陸の豊かさを守ろう
創業支援事業				11 住み続けられるまちづくりを

(2) 若い世代への継承・人材育成

主な事業	関連する SDGs の目標	
次世代人材育成事業	 8 働きがいも経済成長も	 11 住み続けられるまちづくりを
平和未来プロジェクト	 4 質の高い教育をみんなに	 16 平和と公正をすべての人に
外国人指導助手（ALT） 配置事業	 4 質の高い教育をみんなに	
孺恋村交流事業	 4 質の高い教育をみんなに	 17 パートナシップで目標を達成しよう
地域国際交流事業	 4 質の高い教育をみんなに	 17 パートナシップで目標を達成しよう

第 2 期座間味村総合戦略

み：みんなで子育てを支え、若い世代の出産・子育ての希望をかなえる

1. 子育て環境の整備・支援

(1) 島の子育て環境の整備

主な事業	関連する SDGs の目標	
保育事業の充実	 1 貧困をなくそう	 4 質の高い教育をみんなに
妊婦健診助成事業	 1 貧困をなくそう	 3 すべての人に健康と福祉を
出産祝い金事業	 1 貧困をなくそう	 3 すべての人に健康と福祉を
幼稚園入園料・保育料助成事業	 1 貧困をなくそう	 4 質の高い教育をみんなに
離島高校生支援事業	 1 貧困をなくそう	 4 質の高い教育をみんなに
スポーツ大会派遣事業	 4 質の高い教育をみんなに	 17 パートナリシップで目標を達成しよう
通院等支援事業	 3 すべての人に健康と福祉を	 11 住み続けられるまちづくりを
沖縄県と連携した未来技術を活用した医療環境整備の検討	 3 すべての人に健康と福祉を	 17 パートナリシップで目標を達成しよう

(2) 外部連携による活性化

主な事業	関連する SDGs の目標	
小中学校教育活性化事業	 1 貧困をなくそう	 4 質の高い教育をみんなに
大学連携による保育インターン受入事業	 4 質の高い教育をみんなに	 17 パートナリシップで目標を達成しよう

(3) ICT を活用した先進的な学校教育の推進

主な事業	関連する SDGs の目標	
国と連携した GIGA スクール構想の実現	 4 質の高い教育をみんなに	4 質の高い教育をみんなに

8. PDCA サイクルに基づく継続的改善の仕組み

(1) 基本的な考え方

総合戦略に示す各施策を効果的なものとしていくために、基本目標として掲げた各種数値目標及び各施策における KPI（重要業績評価指標）を用いて、施策成果の評価・改善を行う PDCA サイクルを確立します。

なお、施策成果の評価・改善においては、本村において現在も実施している行政評価の取り組みとも連携し、総合計画との整合性を図ります。また、地方創生の成果を継続的に高めていくため、評価・改善の内容に応じて本総合戦略の改訂も適宜実施します。

(2) 評価(Check)・改善(Action)に係る実施方法

5 ヶ年という限られた計画期間の中で各施策の効果を最大化するために、評価・改善のプロセスについては毎年度実施することを基本とします。

また、評価結果を踏まえた各施策の改善に際しては、担当課や事務局等村役場内の組織を基本的な実施主体としたうえで、適宜外部からの助言・提言等を取り込み、外部からの有効な知見等を織り込めるプロセスとします。

(3) 継続的改善に向けた PDCA サイクル上の考慮事項

① データに基づく地域特性・地域課題の抽出

「自己評価」「内部評価」や「外部評価」においては、国が提供する「地域経済分析システム（RESAS）」や沖縄県など外部機関の統計情報から把握できる各種データ（人口動態や交流人口等の人口データ、創業や消費等経済動向に関する定量データなど）、また各施策・事業を通じて観測・蓄積される本村独自の定量データを活用することを基本指針とします。

また各施策・事業の計画（Plan）及び実行（Do）段階では、評価プロセスにおいて活用できるような独自データの観測・蓄積を可能とするよう留意します。

② 地域間の連携促進

本総合戦略に示した各施策・事業の効果最大化に向けては、人口や産業・インフラ等の規模等に鑑みても、すべてを本村単独で実施することは難しい現状にあります。

このため、施策・事業の内容に応じて、近隣を含めた各関連自治体（沖縄県、渡嘉敷村、那覇市など）との連携による効果創出を、PDCA サイクル全体を通じて十分に考慮します。

③ 外部からのアイデアの取り込み

本総合戦略策定に当たっては、有識者会議やアンケート等を通じて、村内外から広範かつ有用なアイデアを数多くご提案いただいています。

今後の実行（Do）段階及び評価・改善（Check・Action）段階を通じて、施策・事業の取り組み成果を高めていくため、総合戦略策定時と同様に有識者会議やアンケートなど

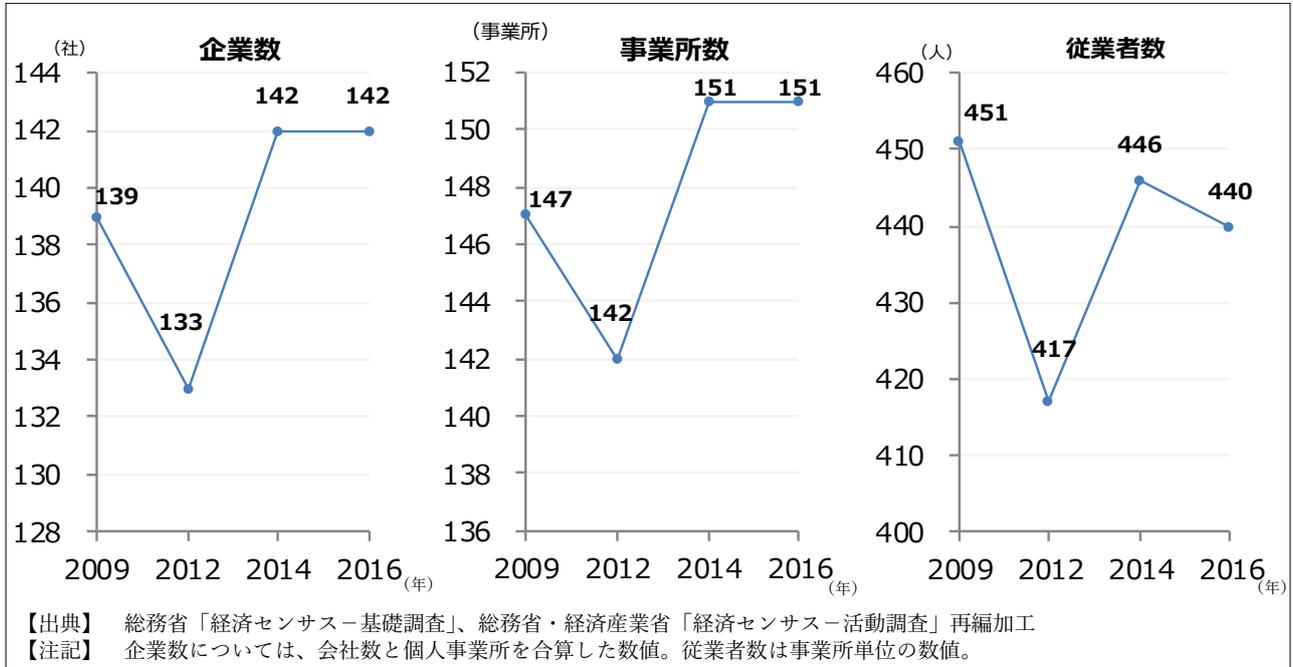
を定期的に行うなど、外部からのアイデアを継続して取り込んでいけるような仕組みづくりも考慮します。

資料編

1. 統計データからみる産業の状況

(1) 企業数・事業者数・従業者数の推移

本村の産業全体の推移を、企業数、事業所数、従業者数の推移により概観すると、2014年は「企業数」「事業所数」は共に増加に転じていますが、2014年から2016年にかけては横ばいとなっています。「従業者数」は、2009年から2016年にかけて増減を繰り返しています。

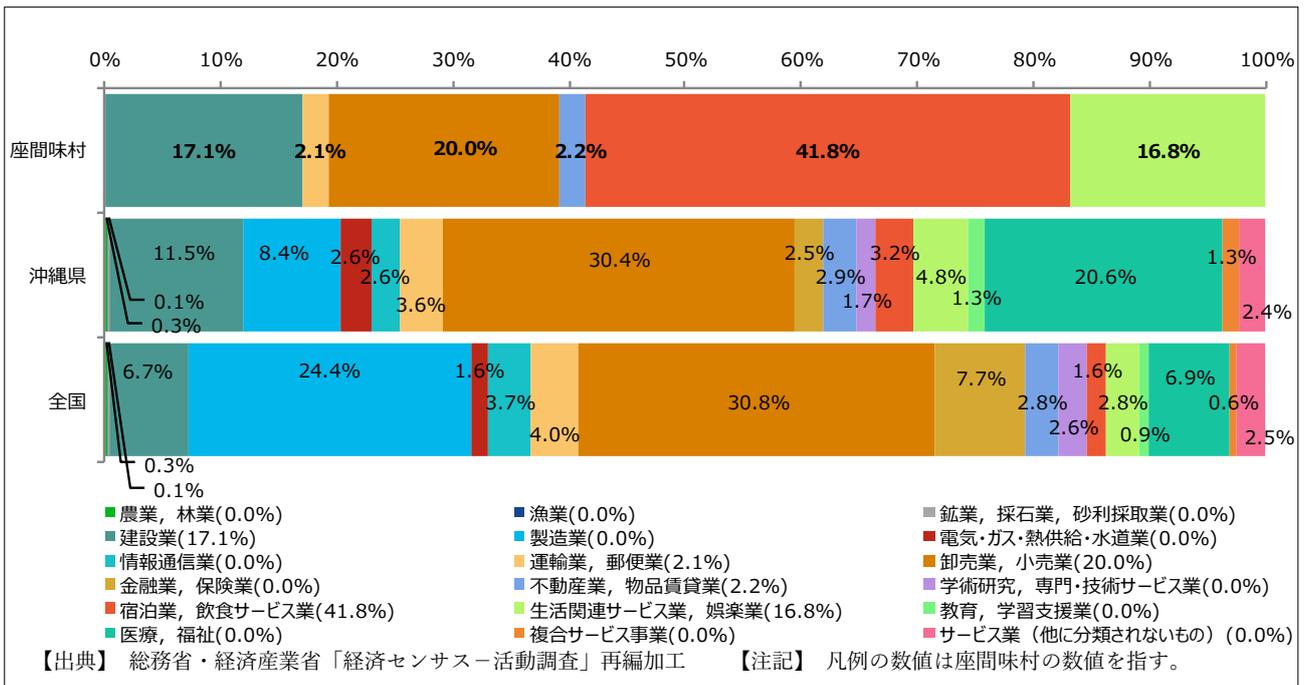


資料：地域経済分析システム (RESAS (リーラス))

図1 企業数・事業所数・従業者数の推移

(2) 産業大分類別に見た売上高(企業単位)の構成比

全国や沖縄県と比較して本村は「宿泊業、飲食サービス業」が、構成比を大きく占めています。

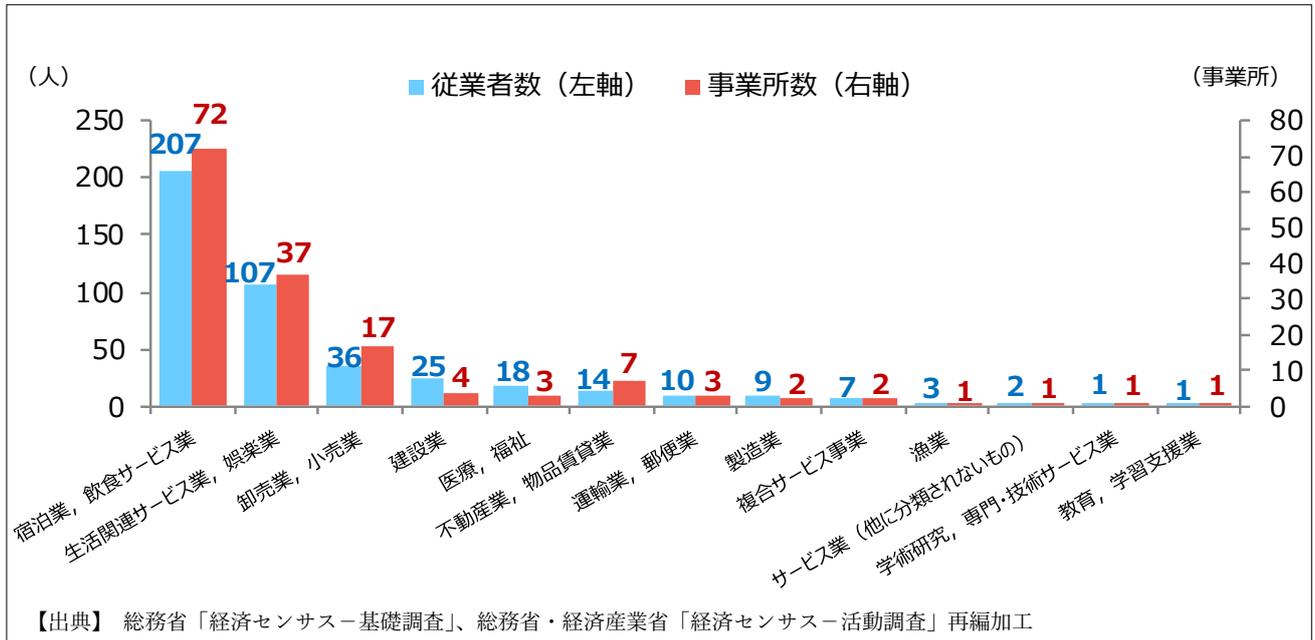


資料：地域経済分析システム (RESAS (リーラス))

図2 産業大分類別に見た売上高(企業単位)の構成比(2016年)

(3) 産業大分類別に見た従業者数(事業所単位)と事業所数

本村の主要産業を産業大分類別の従業者数(事業所単位)および事業所数の観点から概観すると、「従業者数」「事業所数」とともに「宿泊、飲食サービス業」が最も多く、観光産業による雇用効果がみられます。

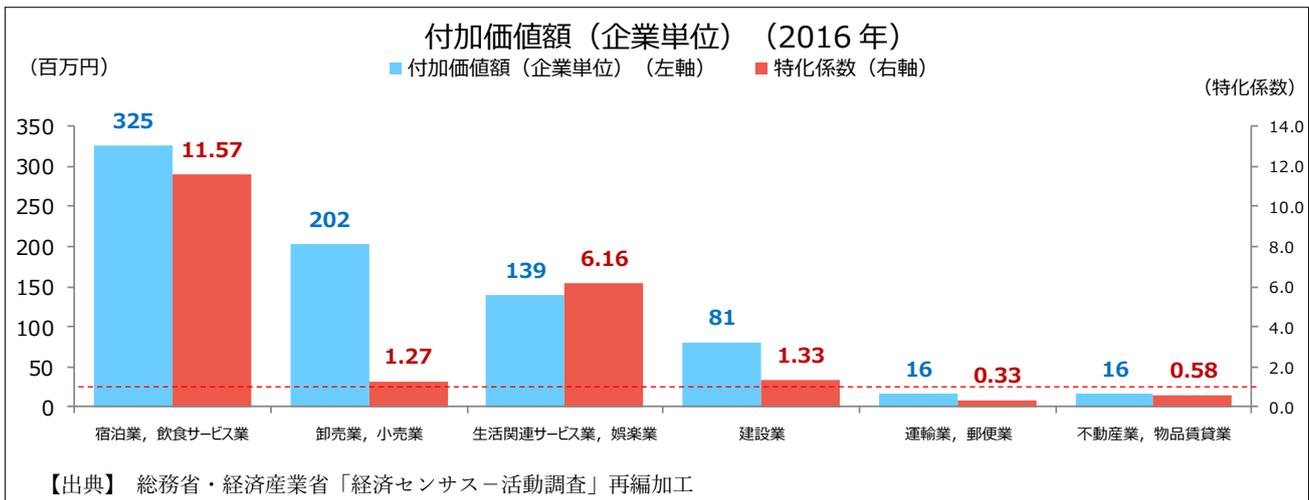


資料：地域経済分析システム (RESAS (リーサス))

図3 産業大分類別に見た従業者数(事業所単位)と事業所数(2016年)

(4) 産業大分類別に見た付加価値額(企業単位)

本村において「付加価値額」の面からみた稼ぐ力の大きな産業としては、「宿泊業、飲食サービス業」が最も高く3億2千5百万円(特化係数11.57)となっています。



資料：地域経済分析システム (RESAS (リーサス))

図4 産業大分類別に見た付加価値額(企業単位)(2016年)

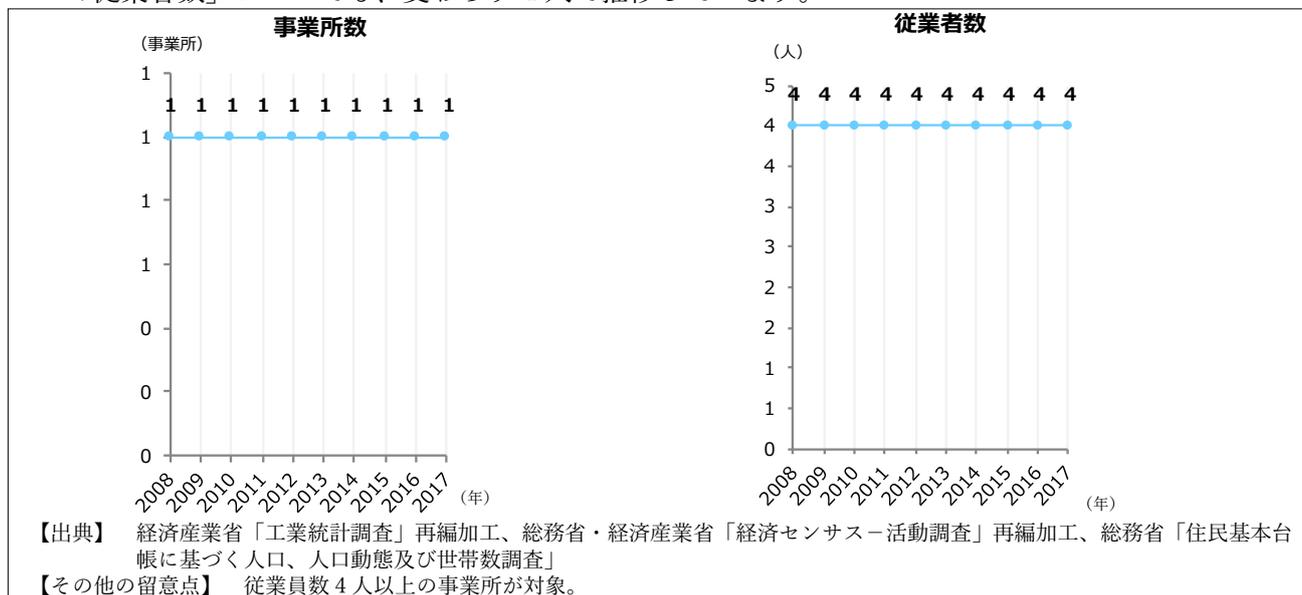
【用語の説明】

- ※ 特化係数が1よりも大きな産業は、全国傾向よりも構成比が大きくなっており、特徴的な産業と言えます。
- ※ 付加価値額とは、企業が事業活動によって生み出した価値を数値で表したものです。基本的には、売上から原価を差し引いた額で、利益とほぼ同義語として扱われます。

(5) 製造業の特性

① 製造所数・従業者数・製造品出荷額等の推移

本村の製造業全体の「事業所数」は、2008年から2011年にかけて、1事業所で推移しています。「従業者数」についても、変わらず4人で推移しています。



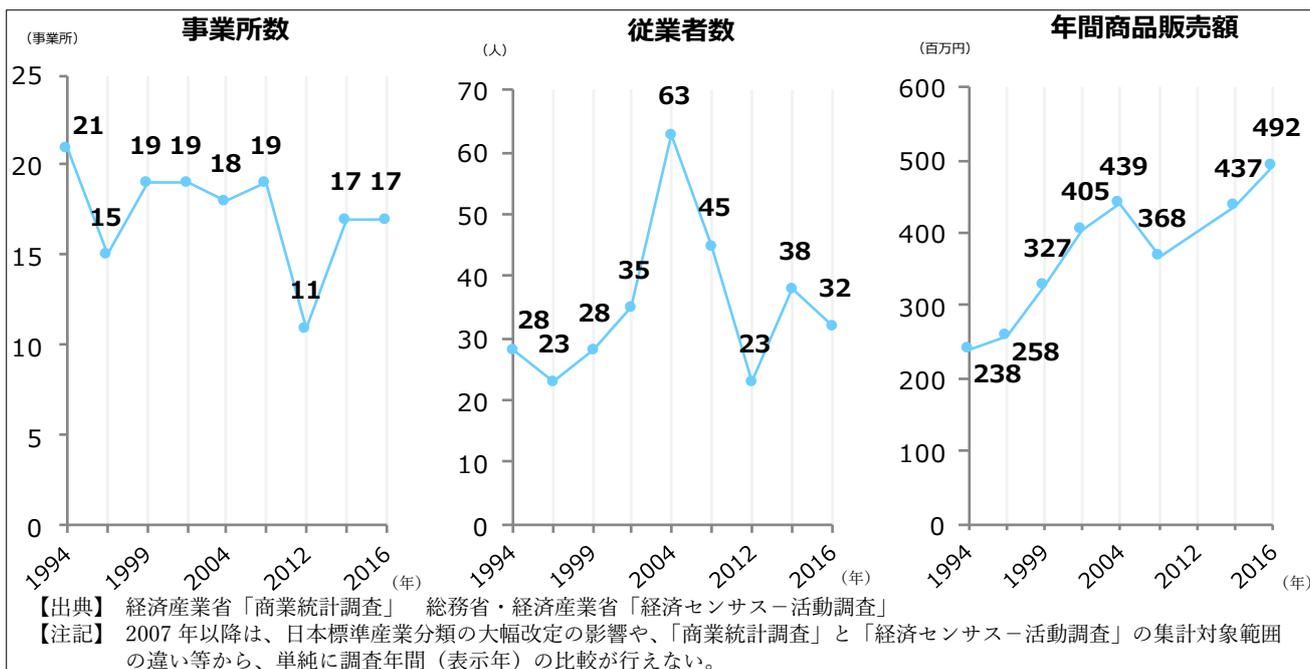
資料：地域経済分析システム (RESAS (リーサス))

図5 事業者数・従業者数の推移

(6) 小売業の特性

① 事業所数・従業者数・製造品出荷額等の推移

小売業者の「事業所数」は、2012年に11事業所と減少しましたが、2014年、2016年は共に17事業所まで増加しています。「従業者数」は2004年に63人まで増えましたが、2012年に23人に減少し、2016年は32人となっています。「年間商品販売額」は2008年に減少したものの、全体的には増加傾向にあります。

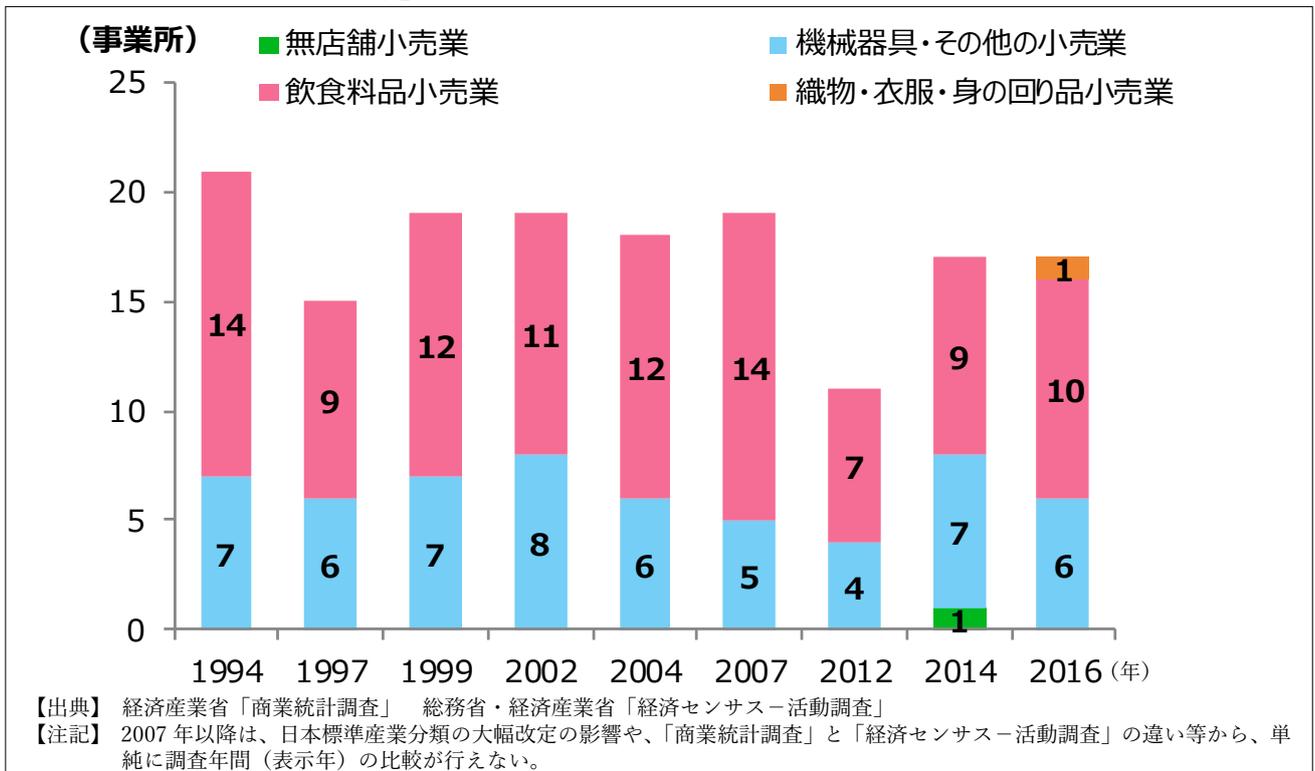


資料：地域経済分析システム (RESAS (リーサス))

図6 事業者数・従業者数・年間商品販売額の推移

② 産業別小売事業所数の変化

本村の小売業の産業中分類別事業所数推移で、事業所数の最も多い産業は「飲食小売業」です。次いで「機械器具・その他小売業」が続いています。

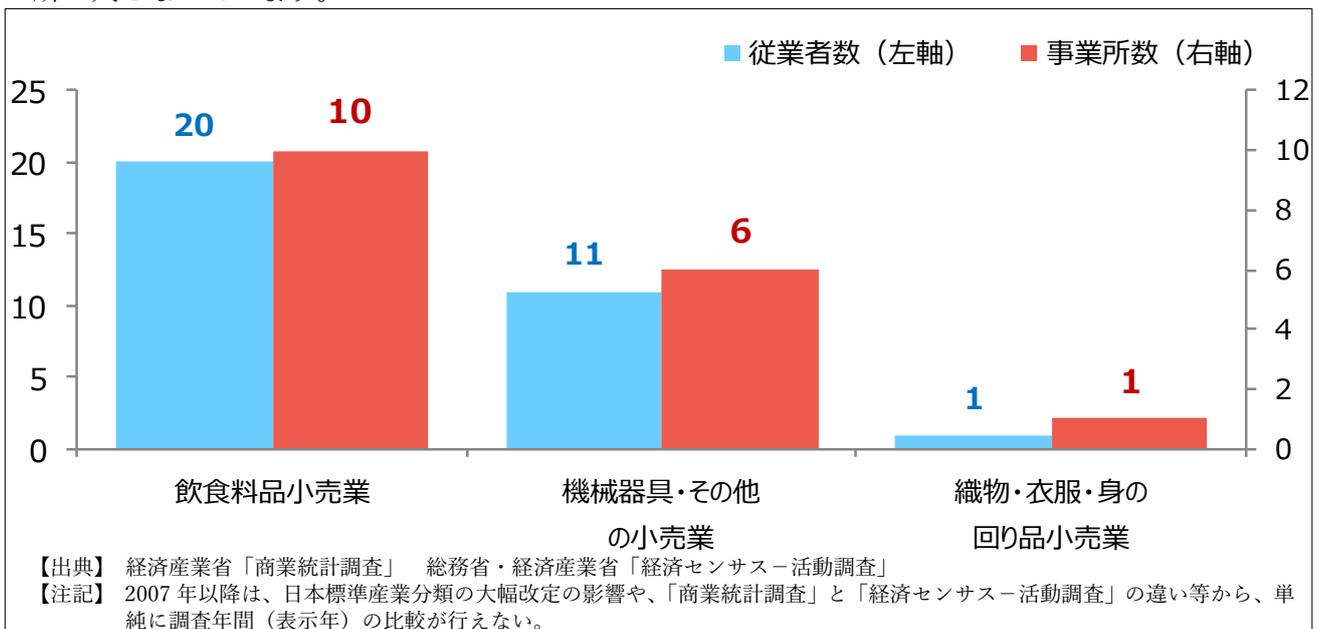


資料：地域経済分析システム（RESAS（リーサス））

図7 産業別小売業事業所数の変化

③ 産業中分類別従業者数・事業所規模

本村の小売業の産業中分類別従業者数からみた、事業所規模として「飲食料品小売業」が10事業所で20人、「機械器具・その他の小売業」が6事業所で11人、「織物・衣服・身の回り品小売業」が1事業所1人となっています。



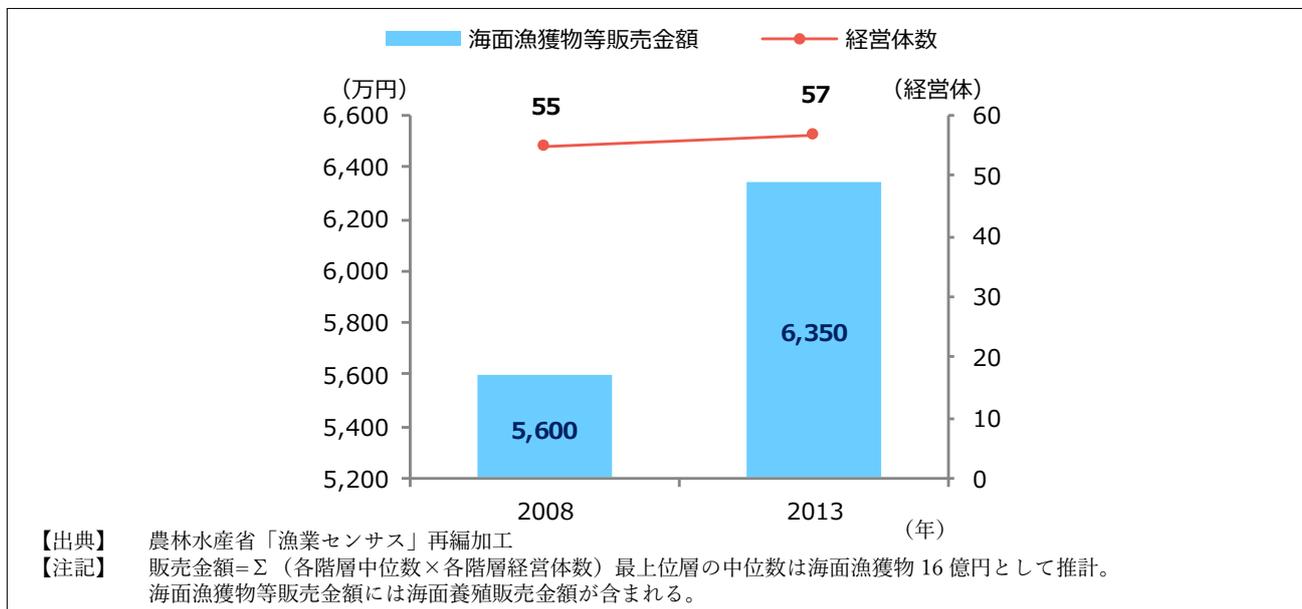
資料：地域経済分析システム（RESAS（リーサス））

図8 産業中分類別に従業者・事業所数（2016年）

(7) 水産業の特性

① 漁獲物等販売金額・漁業経営体数の推移

本村の海面漁業の「経営体数」は、2008年の55経営体から2013年の57経営体と2経営体増加しています。「海面漁獲物等販売金額」も2008年の5,600万円から2013年は6,350万円と増加しています。



資料：地域経済分析システム (RESAS (リーサス))

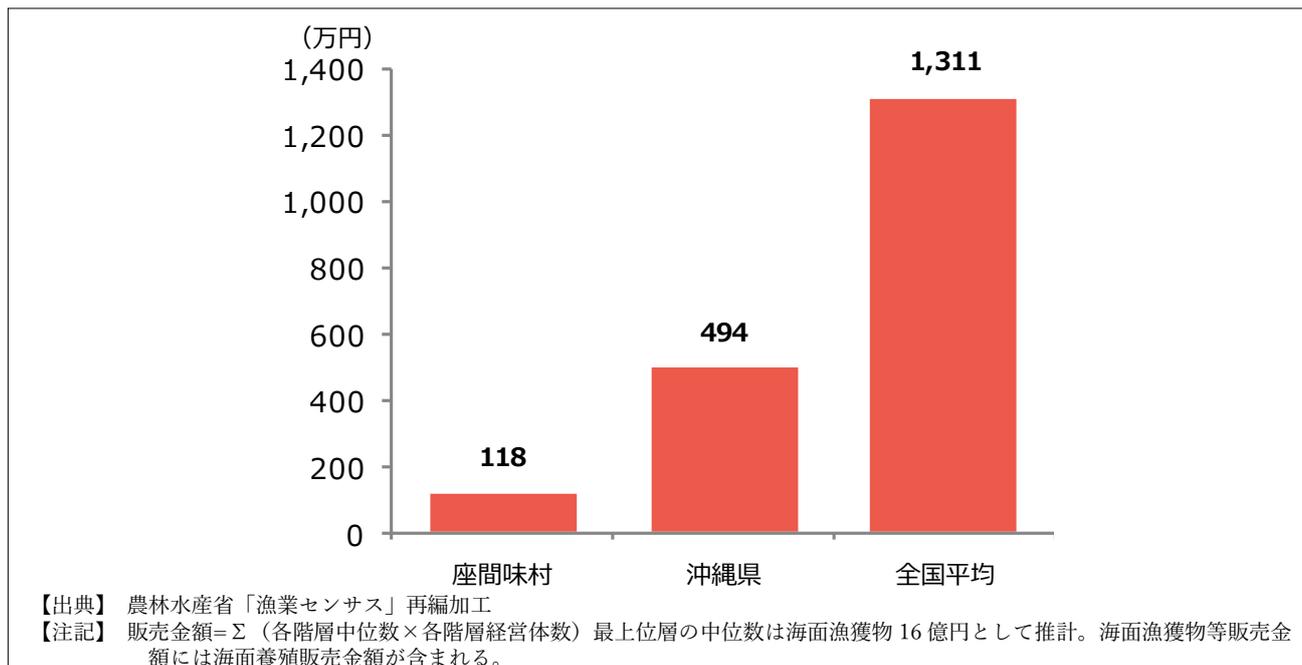
図9 漁獲物等販売金額・漁業経営体数の推移

【用語の説明】

※海面漁業とは海で行われる漁業。沿岸漁業・沖合漁業・遠洋漁業・海面養殖など。

② 経営体あたり漁獲物等平均販売金額

本村の海面漁業、経営体あたりの漁獲物等平均販売金額では、海面漁業は約118万円と小規模になっており、全国平均とは約1/11倍、沖縄県とは約1/4倍の差があります。

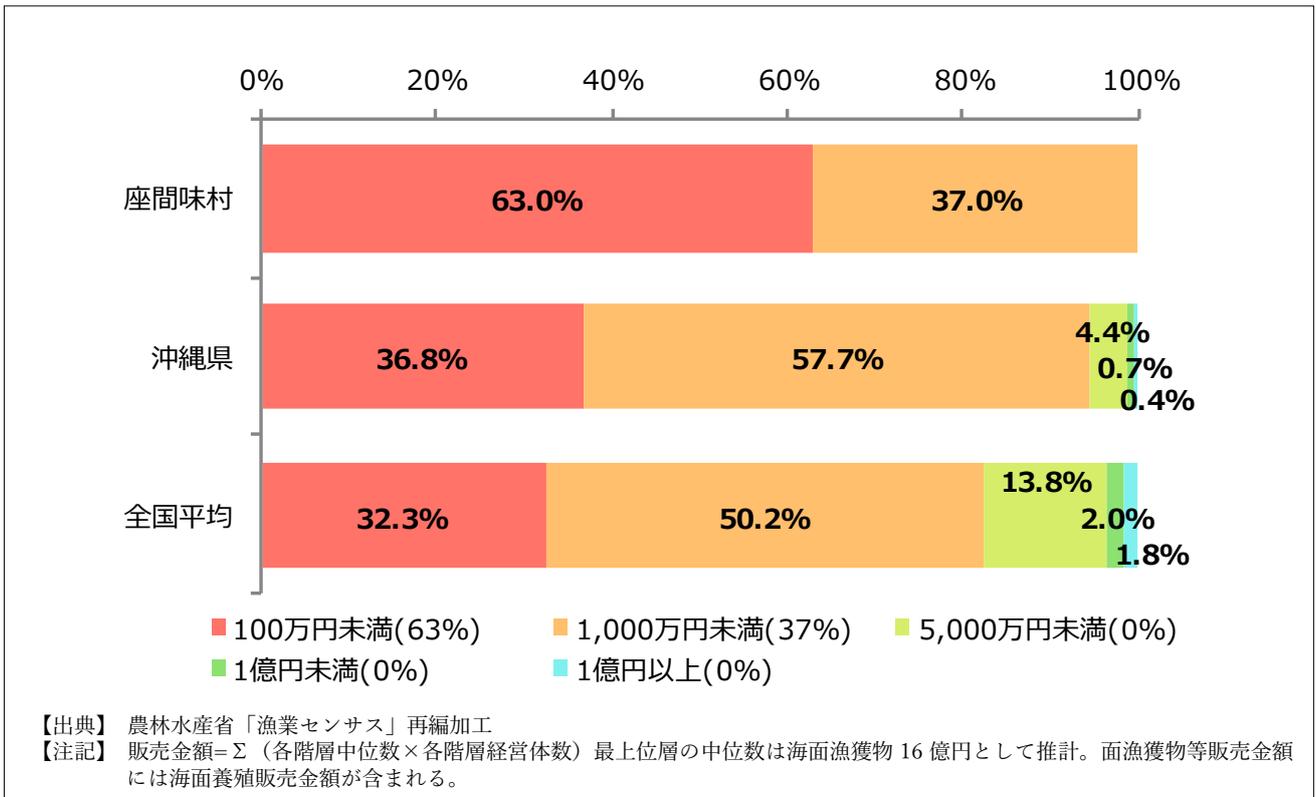


資料：地域経済分析システム (RESAS (リーサス))

図10 経営体あたり漁獲物等平均販売金額 (2013年)

③ 漁獲物等販売金額帯別経営体割合

本村の2013年の海面漁業は100万円未満63.0%、1,000万円未満37.0%となっています。漁獲販売金額を全国平均、沖縄県と比較すると、100万円未満の比率が大きく2倍弱となっています。

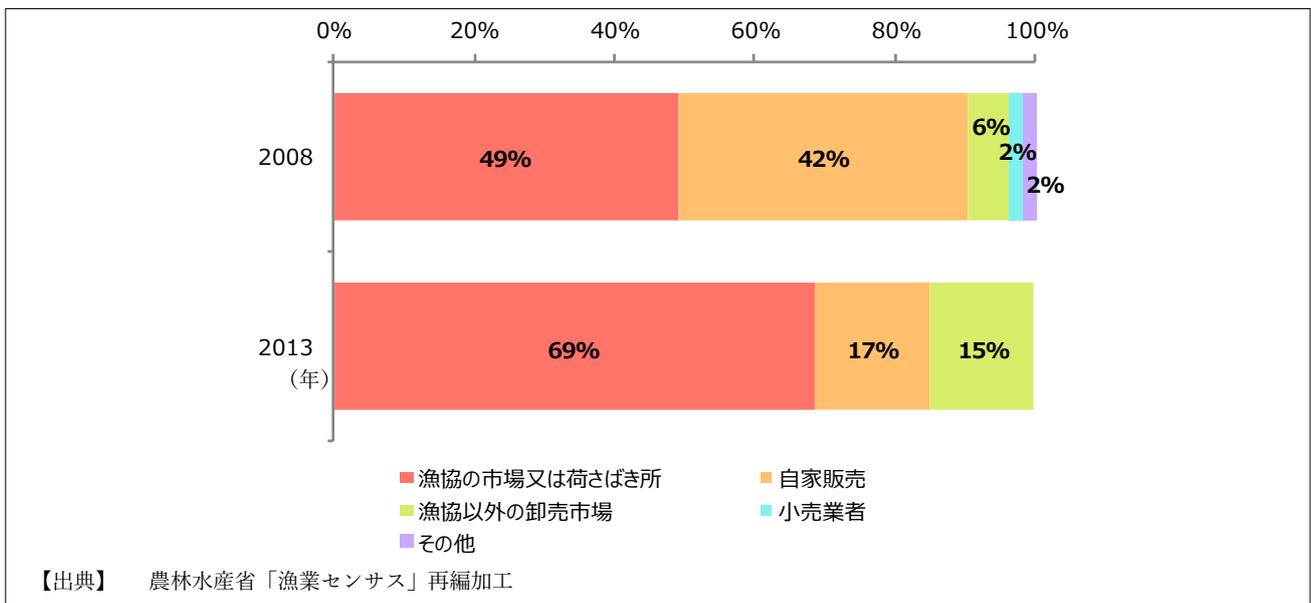


資料：地域経済分析システム (RESAS (リーサス))

図11 漁獲物等販売金額帯別経営体割合 (2013年)

④ 漁獲物等出荷先別経営体割合

本村の海面漁獲物の出荷先別経営体数割合は「漁協の市場又は荷捌き所」が2008年の49%から2013年は69%と増え、「自家販売」は42%から17%へ減少しています。「漁協以外の卸売市場」は6%から15%に増加しています。



資料：地域経済分析システム (RESAS (リーサス))

図12 漁獲物等出荷先別経営体数の割合

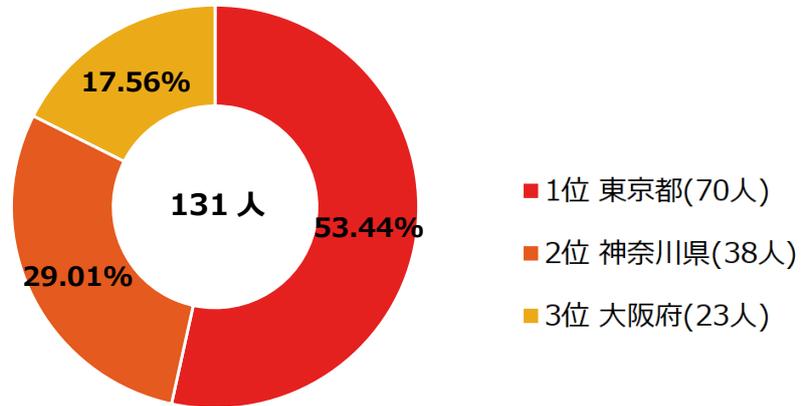
(8) 観光産業の特性

① (日本人)休日 14 時に座間味村内に滞在した人口の居住都道府県別割合

休日の 14 時に本村に滞在した方の居住都道府県は、「東京都」が 70 人と最も多くなっています。次いで、「神奈川県」38 人、「大阪府」23 人と続いています。

滞在人口合計：1,030 人（うち県外居住者：131 人 県外割合：12.72%）（2020 年 6 月・休日 14 時）

県外居住者の地域別構成割合



【出典】株式会社NTTドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計®」

【注記】滞在人口とは、指定地域の指定時間（4時、10時、14時、20時）に滞在していた人数の月間平均値（平日・休日別）を表している。

滞在人口率は、滞在人口（株式会社NTTドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計®」）÷国勢調査人口（総務省「国勢調査」夜間人口）で表される。15歳以上90歳未満の人口を対象。

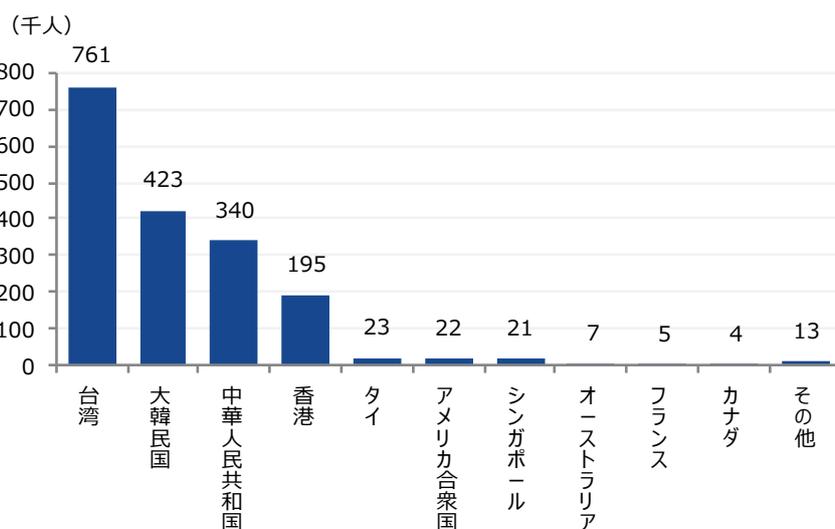
資料：地域経済分析システム（RESAS（リーサス））

図 13 本村に滞在した人口の居住都道府県別割合

② (外国人)沖縄県への国・地域別外国人訪問客数【都道府県単位】

2019年に沖縄県を訪れた外国人訪問客は「台湾」からの76万1千人が最も多くなっています。

次いで、「大韓民国」「中華人民共和国」「香港」と続いております、アジア圏からの来訪が大きな割合を占めている状況です。



【出典】観光庁「訪日外国人消費動向調査」、日本政府観光局（JNTO）「訪日外客数」

【注記】「地域別の訪日外客数＝地域別の訪問率【観光・レジャー目的】×訪日外客数×旅行目的別構成比【観光・レジャー目的】」により推計している。

資料：地域経済分析システム（RESAS（リーサス））

図 14 沖縄県を訪れる外国人の国・地域別順位（2019 年）

(9) 座間味村の地域経済循環

座間味村の地域経済循環を2010年と2015年で比較すると、「分配（所得）」のうち「地域外からの流入」が大きく増加しています。

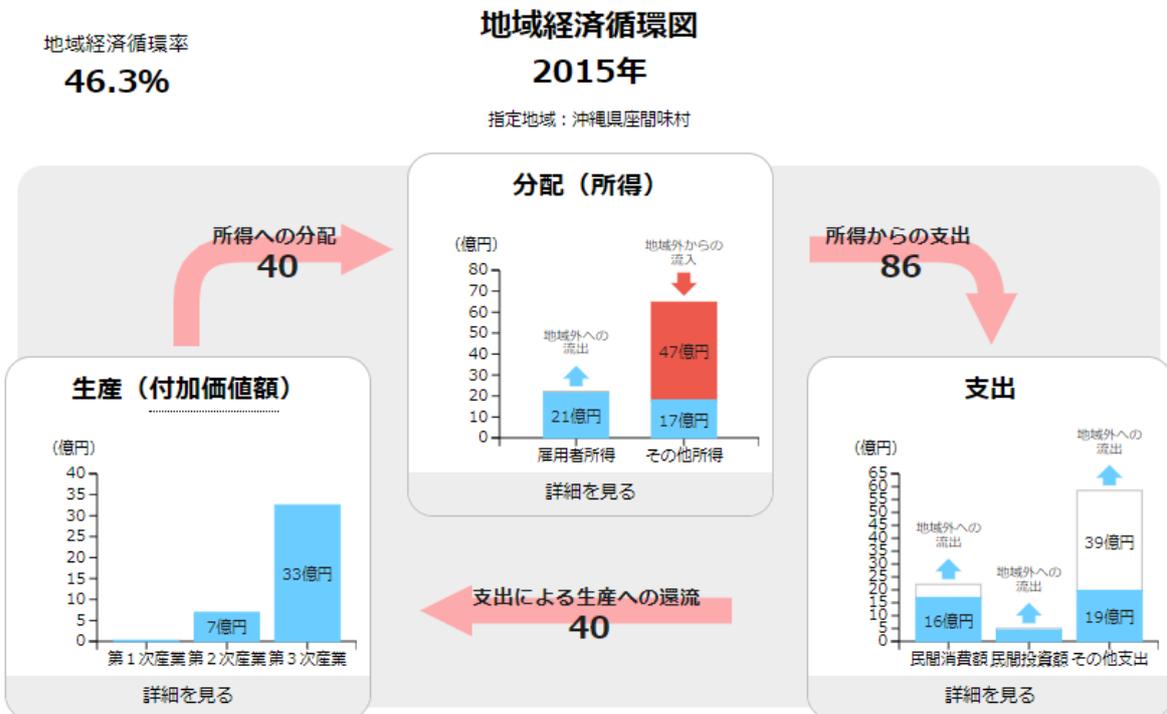
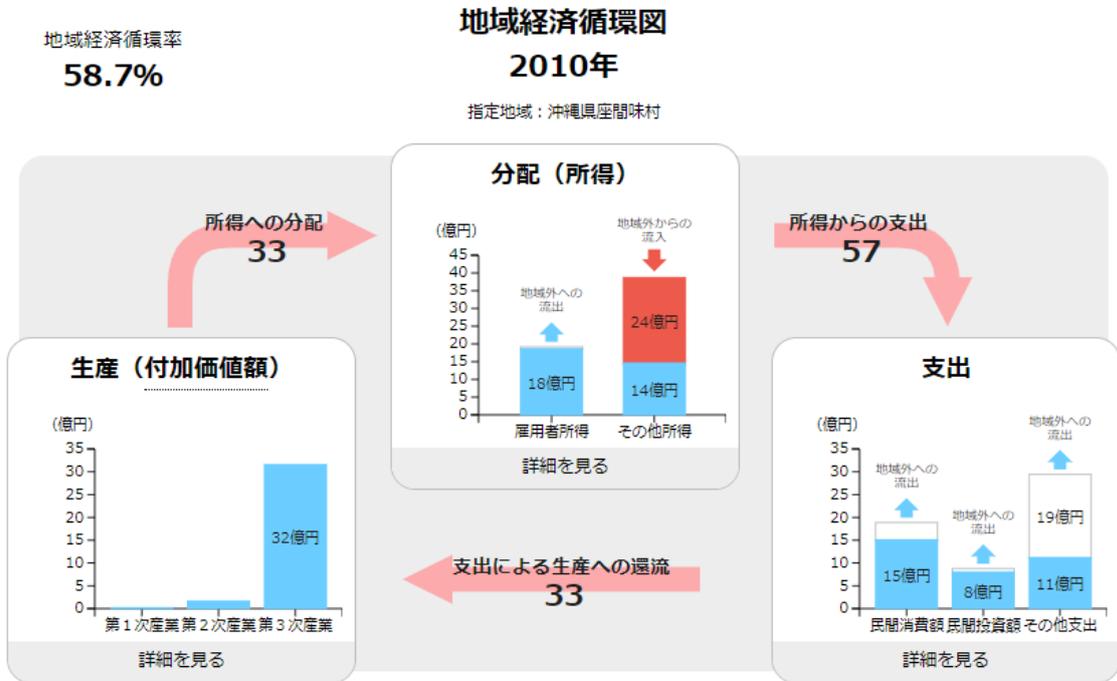
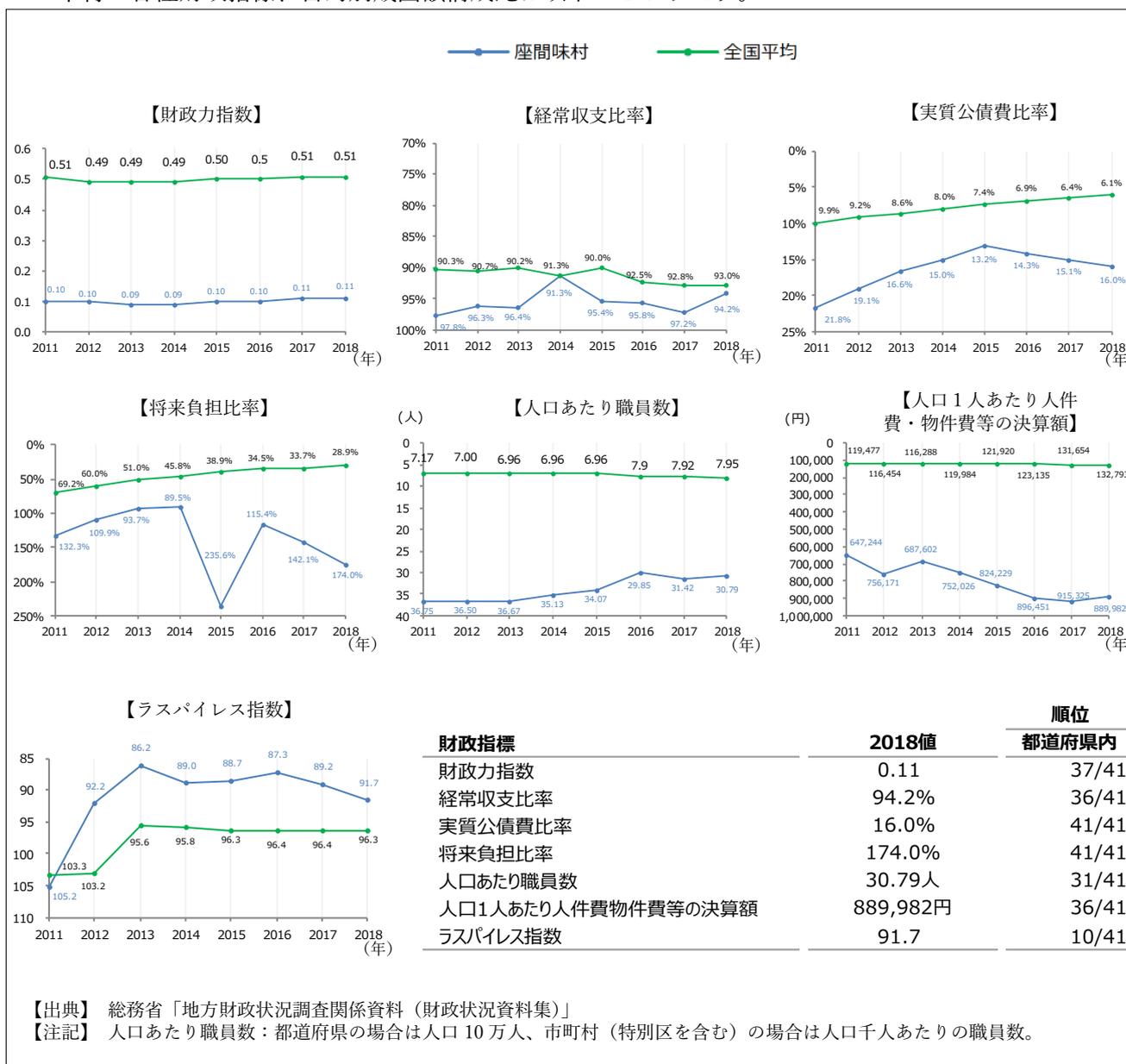


図 15 地域経済循環図

(10) 財政の概況

① 各種財政指標の分析

本村の各種財政指標、目的別歳出額構成比は以下のとおりです。



資料：地域経済分析システム（RESAS（リーサス））

図 16 各種財政指標・目的別歳出額構成比

【用語の説明】

※財政力指数

地方公共団体の財政力を示す指数で、基準財政収入額を基準財政需要額で除して得た数値の過去3年間の平均値。財政力指数が高いほど、普通交付税算定上の留保財源が大きいことになり、財源に余裕があるといえます。

※経常収支比率

地方税、普通交付税のように使途が特定されておらず、毎年度経常的に収入される一般財源（経常一般財源）のうち、人件費、扶助費、公債費のように毎年度経常的に支出される経費（経常的経費）に充当されたものが占める割合。

$$\text{経常収支比率} = \frac{\text{人件費、扶助費、公債費等に充当した一般財源等}}{\text{経常一般財源等（地方税+普通交付税等）} + \text{減収補填債特例分} + \text{臨時財政対策債}} \times 100$$

※実質公債費比率

当該地方公共団体の一般会計等が負担する元利償還金及び準元利償還金の標準財政規模に対する比率の過去3年間の平均値で、借入金（地方債）の返済額及びこれに準じる額の大きさを指標化し、資金繰りの程度を表す指標のこと。「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」における早期健全化基準については、市町村・都道府県とも25%とし、財政再生基準については、市町村・都道府県とも35%としています。

$$\text{実質公債費比率} = \frac{(A+B) - (C+D)}{E-D}$$

A：地方債の元利償還金 B：準元利償還金 C：特定財源
D：元利償還金・準元利償還金に係る基準財政需要額算入額
E：標準財政規模

※将来負担比率

地方公社や損失補償を行っている出資法人等に係るものも含め、当該地方公共団体の一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の標準財政規模に対する比率のことです。

地方公共団体の一般会計等の借入金（地方債）や将来支払っていく可能性のある負担等の現時点での残高を指標化し、将来財政を圧迫する可能性の度合いを示す指標ともいえます。

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」における早期健全化基準については、実質公債費比率の早期健全化基準に相当する将来負担額の水準と平均的な地方債の償還年数を勘案し、市町村（政令指定都市は除く）は350%、都道府県及び政令指定都市は400%としています。

$$\text{将来負担比率} = \frac{A - (B+C+D)}{E-F}$$

A：将来負担額 B：充当可能基金額 C：特定財源見込額
D：地方債現在高等に係る基準財政需要額算入見込額
E：標準財政規模
F：元利償還金・準元利償還金に係る基準財政需要額算入額

※ラスパイレス指数

国家公務員行政職俸給表（一）の適用者の俸給月額を100とした場合の地方公務員一般行政職の給与水準。職員構成を学歴別、経験年数別に区分し、地方公共団体の職員構成が国の職員構成と同一と仮定して算出するものであり、地方公共団体の仮定給料総額（地方公共団体の学歴別、経験年数別の平均給料月額に国の職員数を乗じて得た総和）を国の実俸給総額で除して得る加重平均。

② 目的別歳出決算額の比較

本村の歳出額を目的別に示しています。構成比および人口あたり水準の面から、村の歳出構成の特徴を概観することができます。

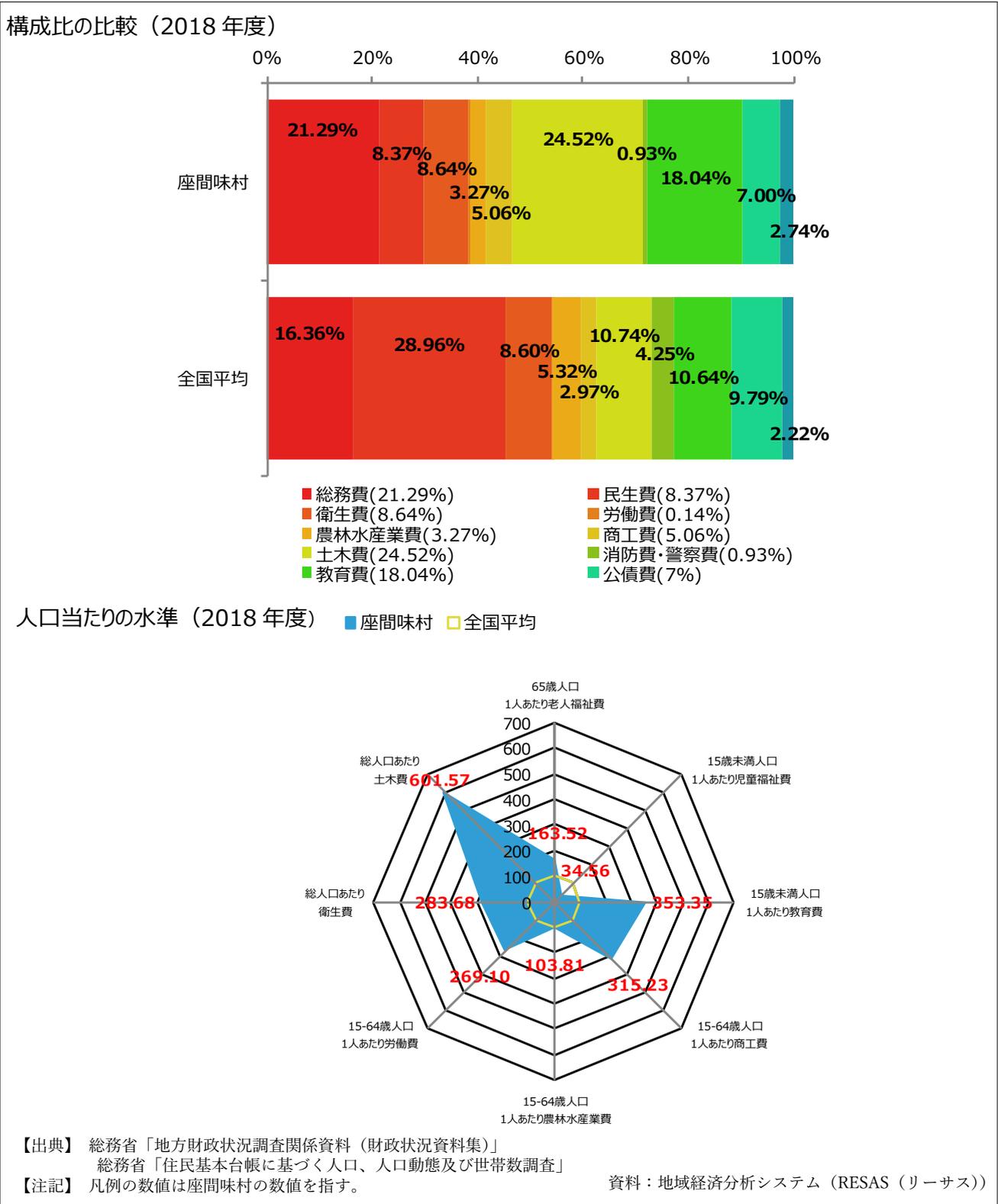


図 17 目的別歳出決算額の構成比・人口当たりの水準 (2018 年度)

2. アンケート結果

(1) アンケートの概要

アンケート対象者：村内在住の18歳以上の方を対象とし、字別の男女の人口をもとに744人に対してアンケートを送付した。

アンケート実施期間：令和3年1月18日（月）～2月5日（金）

回収数と回収率：

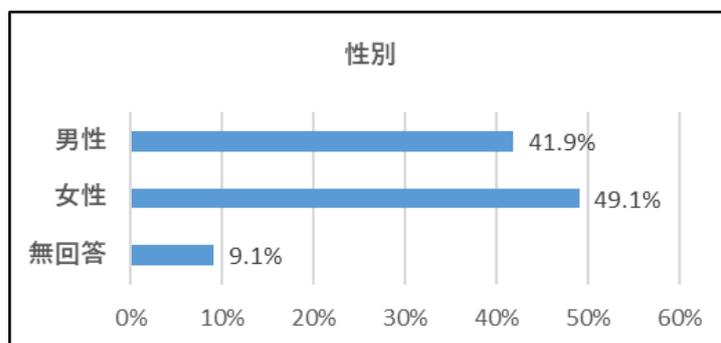
配布数	回収数	回収率
744 票	265 票	35.6%

(2) 回答者の属性

① 性別

アンケート回答者の性別は、男性が 41.9%、女性が 49.1%と女性の割合がやや多くなっている。

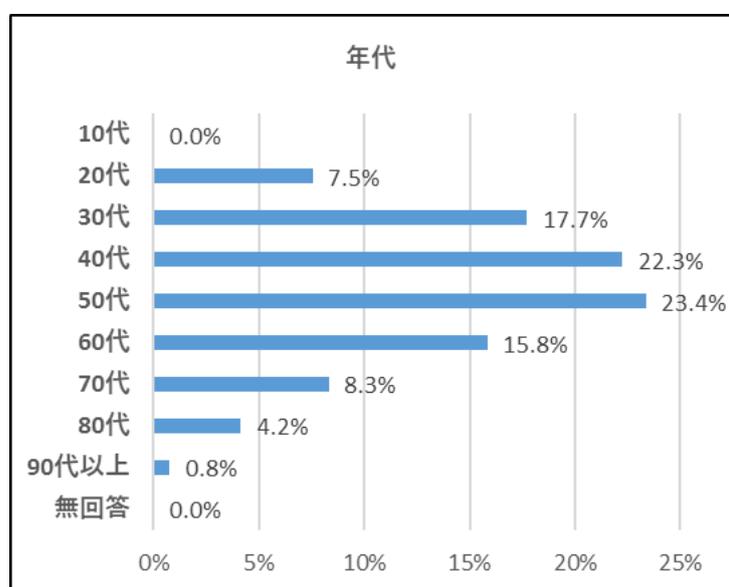
選択肢	実数	割合
男性	111	41.9%
女性	130	49.1%
無回答	24	9.1%
合計	265	100.0%



② 年代

アンケート回答者の年代は、30代から60代が主であり、50代の23.4%が最も多くなっている。

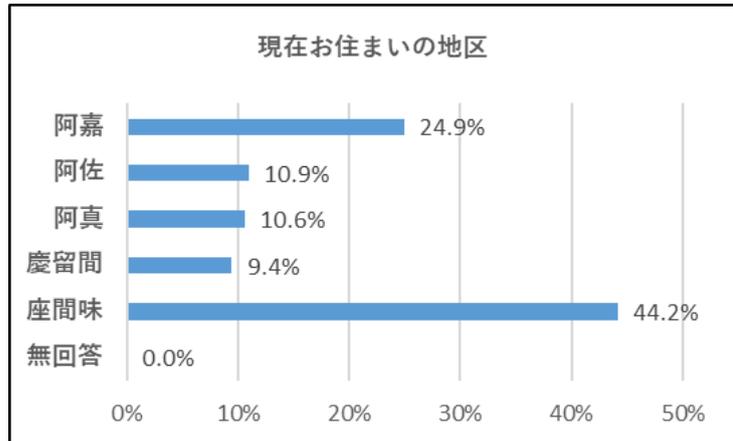
選択肢	実数	割合
10代	0	0.0%
20代	20	7.5%
30代	47	17.7%
40代	59	22.3%
50代	62	23.4%
60代	42	15.8%
70代	22	8.3%
80代	11	4.2%
90代以上	2	0.8%
無回答	0	0.0%
合計	265	100.0%



③ 現在のお住いの地区

アンケート回答者のお住いの地区については、座間味が44.2%と最も多く、次いで、阿嘉が24.9%、阿佐10.9%、阿真10.6%、慶留間9.4%となっている。

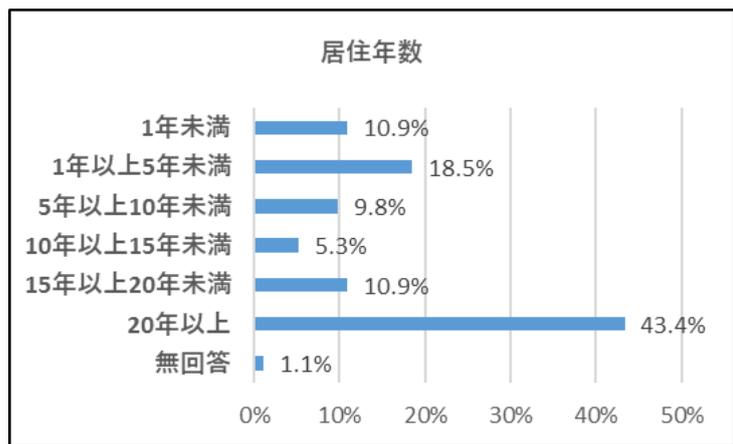
選択肢	実数	割合
阿嘉	66	24.9%
阿佐	29	10.9%
阿真	28	10.6%
慶留間	25	9.4%
座間味	117	44.2%
無回答	0	0.0%
合計	265	100.0%



④ 居住年数

座間味村での居住年数は、「20年以上」お住いの方が43.4%で最も多くなっている。「1年未満」は10.9%、「1年以上5年未満」は18.5%となっており、比較的居住年数の短い方も多くみられる。

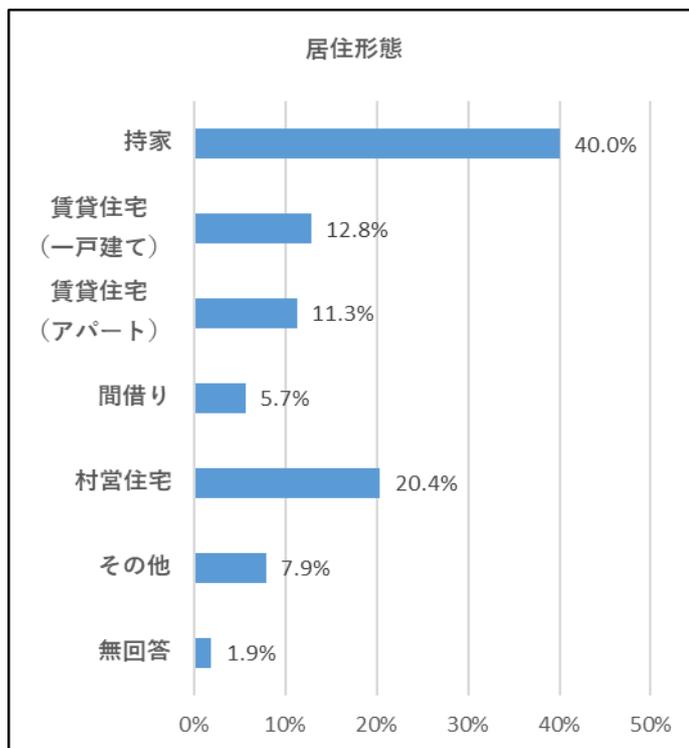
選択肢	実数	割合
1年未満	29	10.9%
1年以上5年未満	49	18.5%
5年以上10年未満	26	9.8%
10年以上15年未満	14	5.3%
15年以上20年未満	29	10.9%
20年以上	115	43.4%
無回答	3	1.1%
合計	265	100.0%



⑤ 居住形態

居住形態では「持家」が、40.0%と最も多く4割を占めている。
次いで「村営住宅」が20.4%、「賃貸住宅（一戸建て）」が12.8%、「賃貸住宅（アパート）」が11.3%となっている。

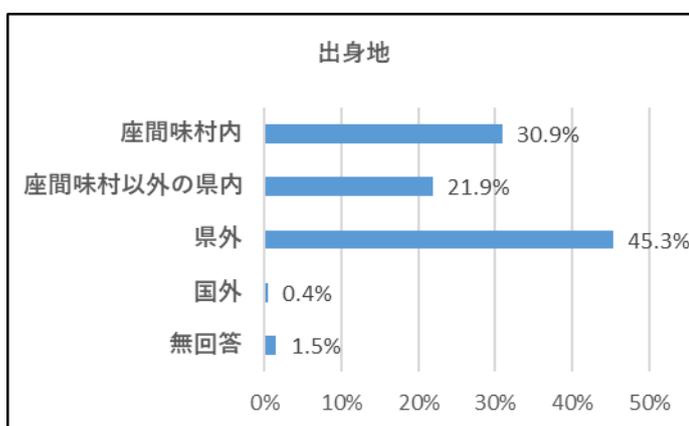
選択肢	実数	割合
持家	106	40.0%
賃貸住宅 （一戸建て）	34	12.8%
賃貸住宅 （アパート）	30	11.3%
間借り	15	5.7%
村営住宅	54	20.4%
その他	21	7.9%
無回答	5	1.9%
合計	265	100.0%



⑥ 出身地

回答者の出身地については、「座間味村内」と回答した方が30.9%となっているが、「県外」と回答した方が45.3%と最も多くなっており、「座間味村以外の県内」は21.9%と、「村外出身者」は約7割を占めている。

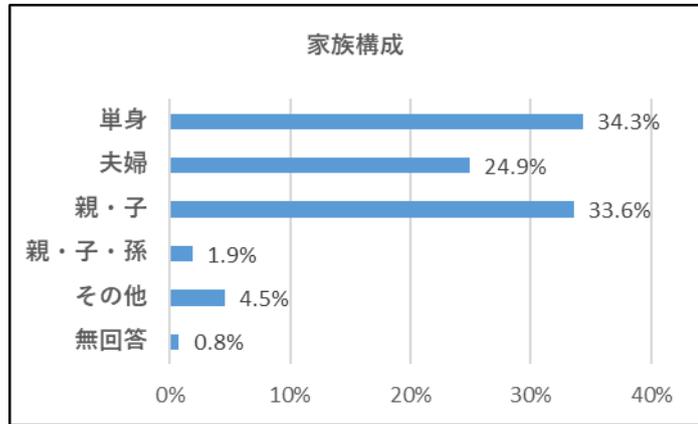
選択肢	実数	割合
座間味村内	82	30.9%
座間味村 以外の県内	58	21.9%
県外	120	45.3%
国外	1	0.4%
無回答	4	1.5%
合計	265	100.0%



⑦ 家族構成

回答者の家族構成では、「単身」が34.3%と最も多くなっている。次いで、「親と子」33.6%、「夫婦」24.9%、「親・子・孫」の三世代世帯は1.9%となっている。

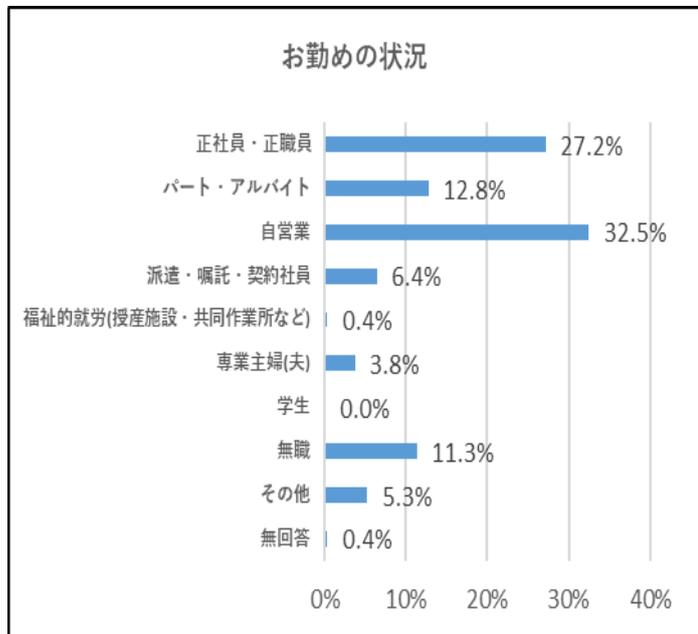
選択肢	実数	割合
単身	91	34.3%
夫婦	66	24.9%
親・子	89	33.6%
親・子・孫	5	1.9%
その他	12	4.5%
無回答	2	0.8%
合計	265	100.0%



⑧ お勤めの状況

回答者のお勤めの状況では、「自営業」が32.5%と最も多くなっている。次いで、「正社員・正職員」と答えた方が27.2%、「パート・アルバイト」12.8%、「無職」11.3%となっている。

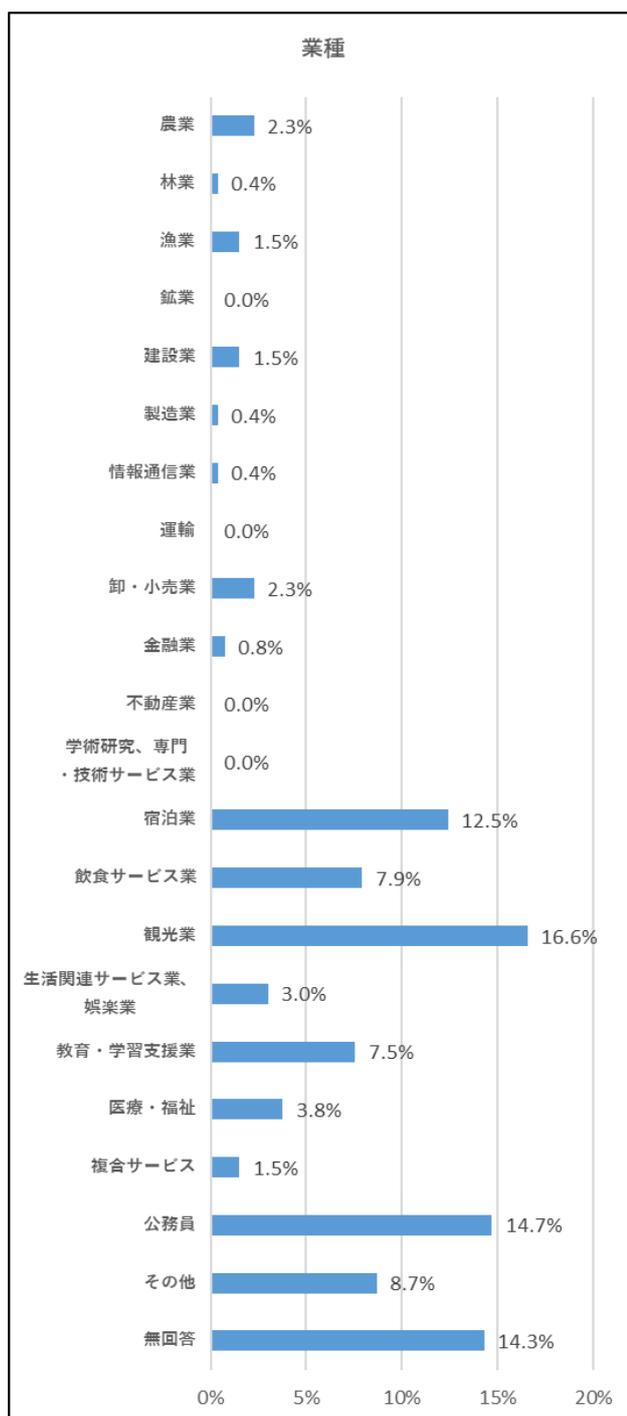
選択肢	実数	割合
正社員・正職員	72	27.2%
パート・アルバイト	34	12.8%
自営業	86	32.5%
派遣・嘱託・契約社員	17	6.4%
福祉的就労(授産施設・共同作業所など)	1	0.4%
専業主婦(夫)	10	3.8%
学生	0	0.0%
無職	30	11.3%
その他	14	5.3%
無回答	1	0.4%
合計	265	100.0%



⑨ お勤めの業種

回答者のお勤めの業種では、「観光業」が最も多く16.6%、次いで、「公務員」が14.7%、「宿泊業」が12.5%となっている。「宿泊業」と「観光業」を観光関連産業とすると、29.1%となっており、「観光関連産業」は座間味村の勤め先の大きな柱となっている。

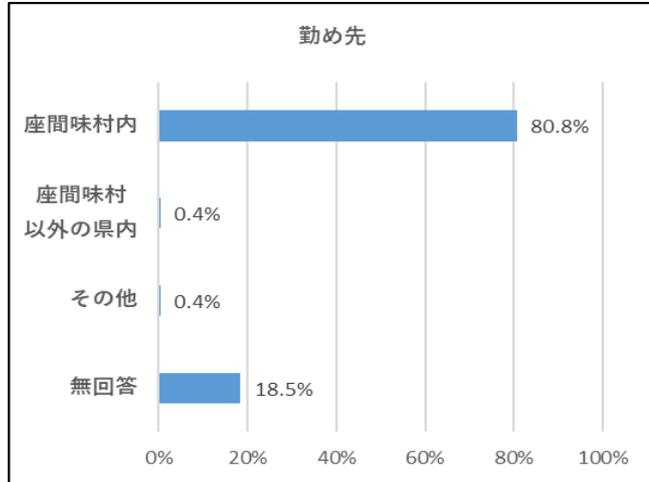
選択肢	実数	割合
農業	6	2.3%
林業	1	0.4%
漁業	4	1.5%
鉱業	0	0.0%
建設業	4	1.5%
製造業	1	0.4%
情報通信業	1	0.4%
運輸	0	0.0%
卸・小売業	6	2.3%
金融業	2	0.8%
不動産業	0	0.0%
学術研究、専門・技術サービス業	0	0.0%
宿泊業	33	12.5%
飲食サービス業	21	7.9%
観光業	44	16.6%
生活関連サービス業、娯楽業	8	3.0%
教育・学習支援業	20	7.5%
医療・福祉	10	3.8%
複合サービス	4	1.5%
公務員	39	14.7%
その他	23	8.7%
無回答	38	14.3%
合計	265	100.0%



⑩ お勤め先(事業所所在地)又は就学先の所在市町村

勤め先の場所については、80.8%の方が「座間味村内」と回答している。

選択肢	実数	割合
座間味村内	214	80.8%
座間味村 以外の県内	1	0.4%
その他	1	0.4%
無回答	49	18.5%
合計	265	100.0%

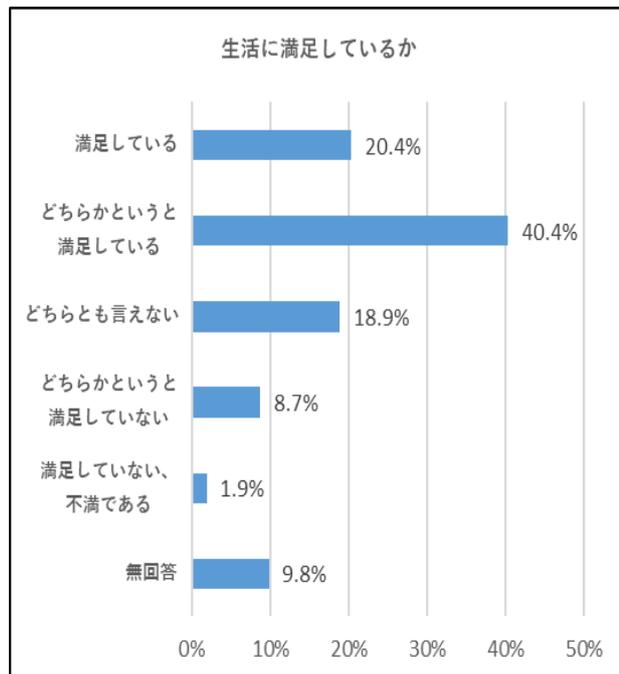


(3) 座間味村の生活についての質問

① 現在お住まいの座間味村での生活について満足していますか。

「満足している」20.4%、「どちらかという満足している」40.4%と肯定的な回答が6割を占めているが、「どちらかという満足していない」8.7%、「満足していない、不満である」1.9%と否定的な回答も1割あり、何らかの不満を抱えながら生活している状況も窺える。

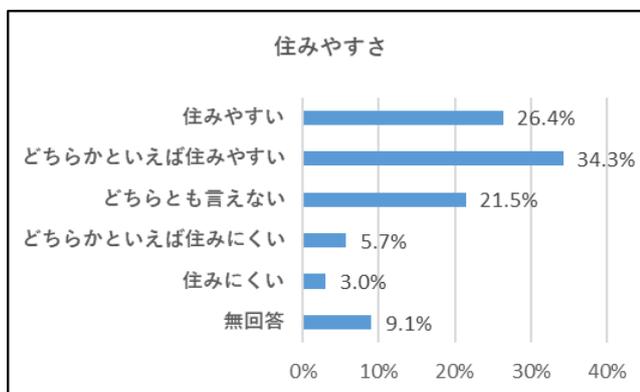
選択肢	実数	割合
満足している	54	20.4%
どちらかという満足している	107	40.4%
どちらとも言えない	50	18.9%
どちらかという満足していない	23	8.7%
満足していない、不満である	5	1.9%
無回答	26	9.8%
合計	265	100.0%



② 座間味村は住みやすいところだと感じていますか。

座間味村の住みやすさについては、「住みやすい」が26.4%、「どちらかといえば住みやすい」が34.3%と、肯定的な回答が6割を占めている。

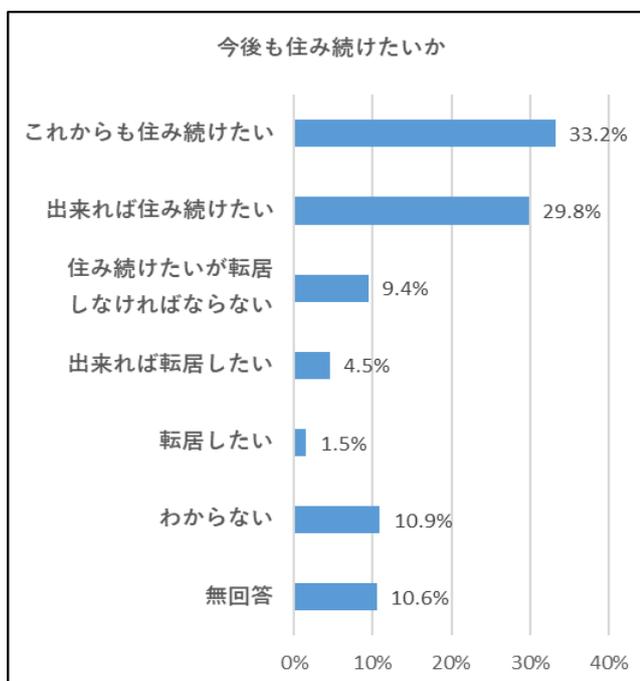
選択肢	実数	割合
住みやすい	70	26.4%
どちらかといえば住みやすい	91	34.3%
どちらとも言えない	57	21.5%
どちらかといえば住みにくい	15	5.7%
住みにくい	8	3.0%
無回答	24	9.1%
合計	265	100.0%



③ 今後も座間味村に住み続けたいですか。

「これからも住み続けたい」33.2%、「出来れば住み続けたい」29.8%と、住み続けたいと回答した方が6割を占めている。対して、「できれば転居したい」4.5%、「転居したい」1.5%と、「転居したい」方は1割未満となっている。

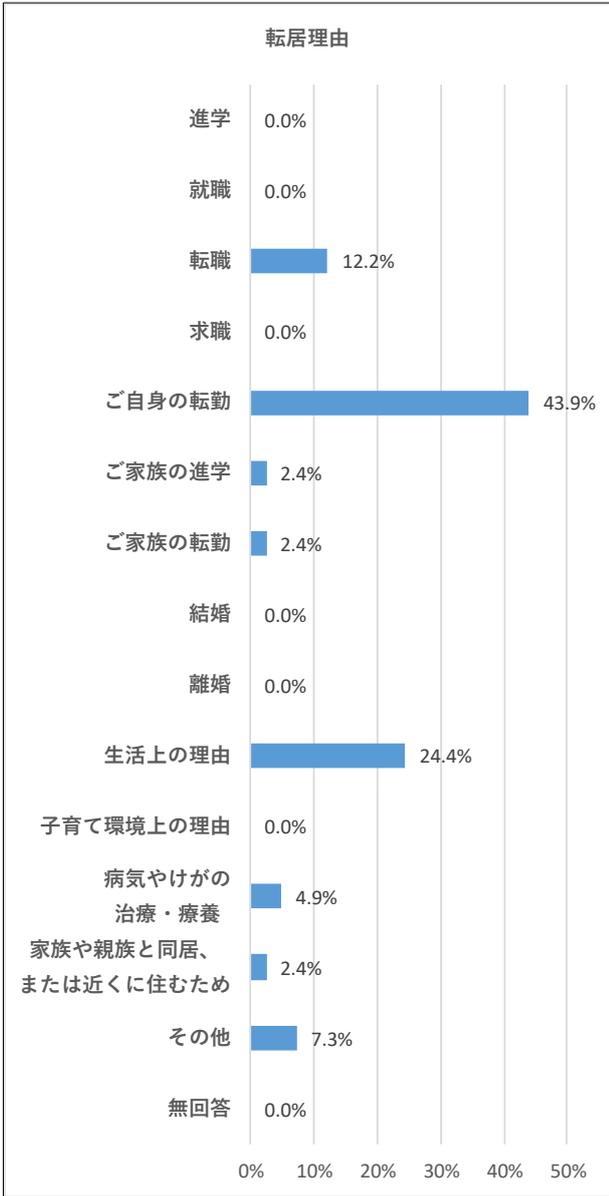
選択肢	実数	割合
これからも住み続けたい	88	33.2%
出来れば住み続けたい	79	29.8%
住み続けたいが転居しなければならない	25	9.4%
出来れば転居したい	12	4.5%
転居したい	4	1.5%
わからない	29	10.9%
無回答	28	10.6%
合計	265	100.0%



④ ③で「住み続けたいが転居しなければならない」、「出来れば転居したい」、「転居したい」とお考えになる理由は何ですか。

転居理由では、「ご自身の転勤」が43.9%と最も多く、次いで「生活上の理由」24.4%、「転職」12.2%と続いている。

選択肢	実数	割合
進学	0	0.0%
就職	0	0.0%
転職	5	12.2%
求職	0	0.0%
ご自身の転勤	18	43.9%
ご家族の進学	1	2.4%
ご家族の転勤	1	2.4%
結婚	0	0.0%
離婚	0	0.0%
生活上の理由	10	24.4%
子育て環境上の理由	0	0.0%
病気やけがの 治療・療養	2	4.9%
家族や親族と同居、 または近くに住むため	1	2.4%
その他	3	7.3%
無回答	0	0.0%
合計	41	100.0%

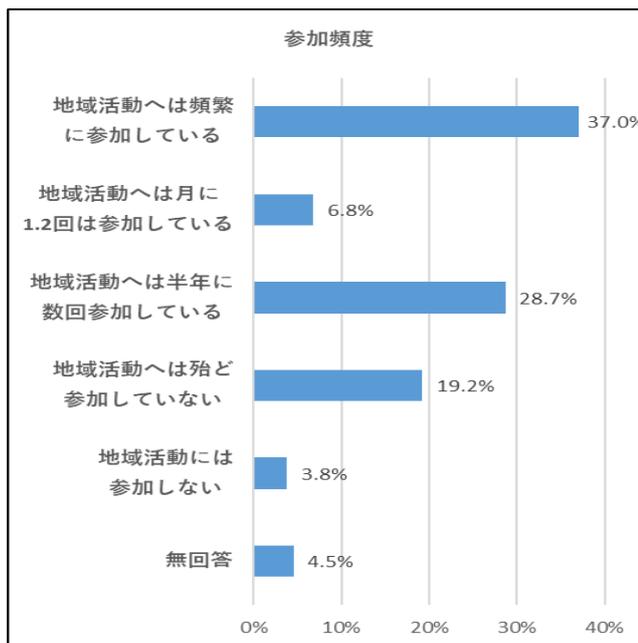


⑤ あなたは島内やお住まいの地域の活動へ参加する機会がございますか。

参加頻度

「地域の活動への参加する機会」について、「頻繁に参加している」は37.0%、「月に1.2回は参加している」6.8%、「半年に数回参加している」28.7%と地域行事への参加頻度は7割を占めており、地域のコミュニケーションの高さが窺える。

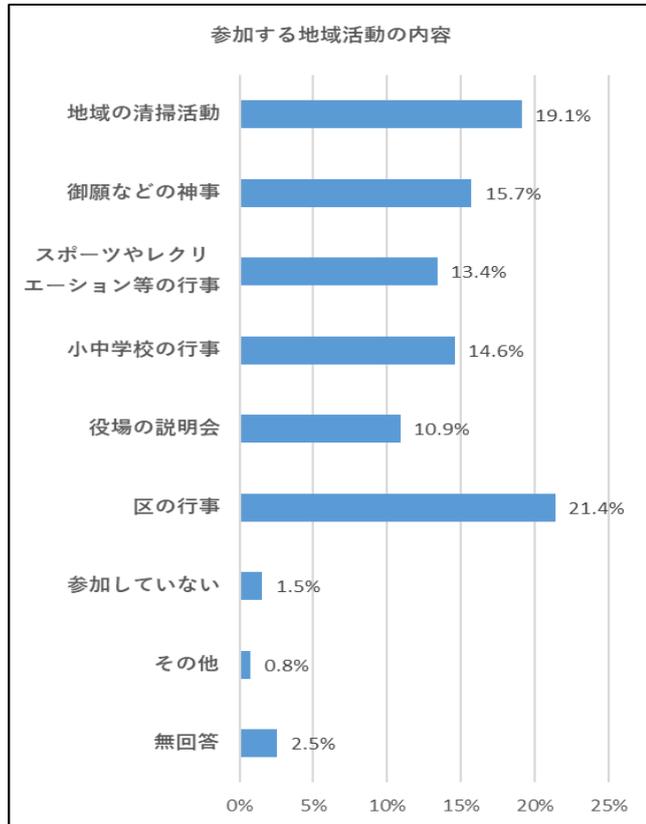
選択肢	実数	割合
地域活動へは頻繁に参加している	98	37.0%
地域活動へは月に1.2回は参加している	18	6.8%
地域活動へは半年に数回参加している	76	28.7%
地域活動へは殆ど参加していない	51	19.2%
地域活動には参加しない	10	3.8%
無回答	12	4.5%
合計	265	100.0%



参加する地域の活動内容

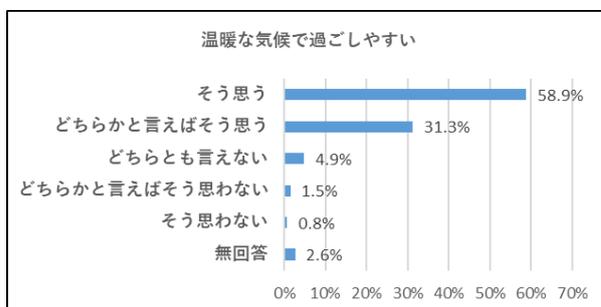
参加する地域の活動内容では、「区の行事」が21.4%と最も多く、次いで「地域の清掃活動」19.1%、「御願などの神事」15.7%、「小中学校の行事」14.6%、「スポーツやレクリエーションの行事」13.4%、「役場の説明会」10.9%と続いている。

選択肢	実数	割合
地域の清掃活動	151	19.1%
御願などの神事	124	15.7%
スポーツやレクリエーション等の行事	106	13.4%
小中学校の行事	115	14.6%
役場の説明会	86	10.9%
区の行事	169	21.4%
参加していない	12	1.5%
その他	6	0.8%
無回答	20	2.5%
合計	789	100.0%



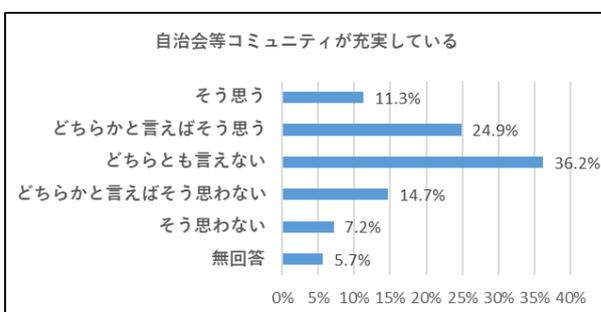
(4) 座間味村の現状について、どう感じているか。

① 温暖な気候で過ごしやすい



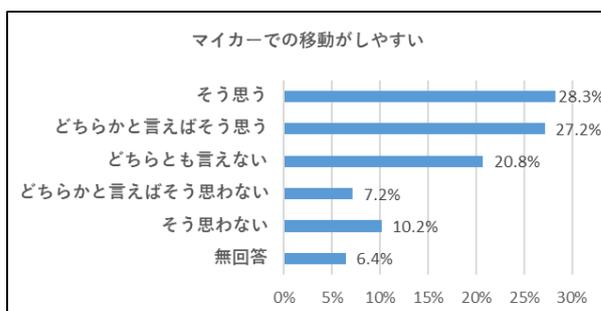
「そう思う」58.9%
「どちらかと言えばそう思う」31.3%
と、約9割の方が過ごしやすいと回答している。

② 自治会等コミュニティが充実している



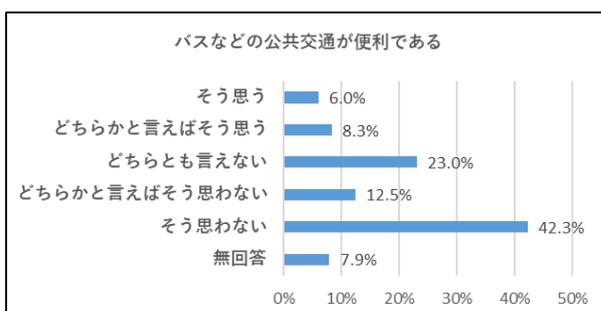
「どちらとも言えない」が36.2%と最も多くなっており、全体としては、「肯定的」な回答が多くなっている。
「肯定的」な回答は約36%
「否定的」な回答は約22%である。

③ マイカーでの移動がしやすい



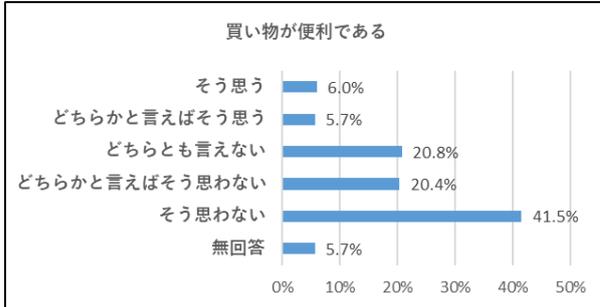
「そう思う」が28.3%と最も多くなっており、全体としては、「肯定的」な回答が多くなっている。
「肯定的」な回答は約55%
「否定的」な回答が約17%である。

④ バスなどの公共交通が便利である



「そう思わない」が42.3%と最も多くなっており、全体としては、「否定的」な回答が多くなっている。
「肯定的」な回答は約14%
「否定的」な回答は約55%である。
公共交通機関の整備を検討する必要がある。

⑤ 買い物が便利である

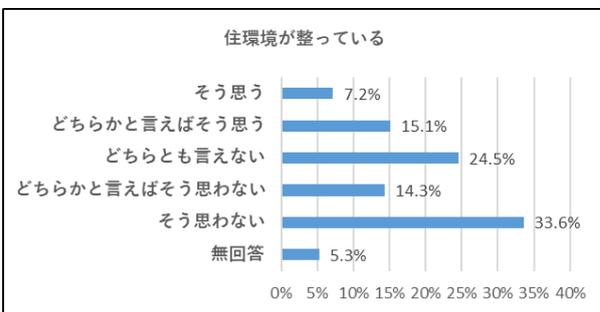


「そう思わない」が41.5%と最も多くなっており、全体としては、「否定的」な回答が多くなっている。

「肯定的」な回答は約12%

「否定的」な回答は約62%である。

⑥ 住環境が整っている

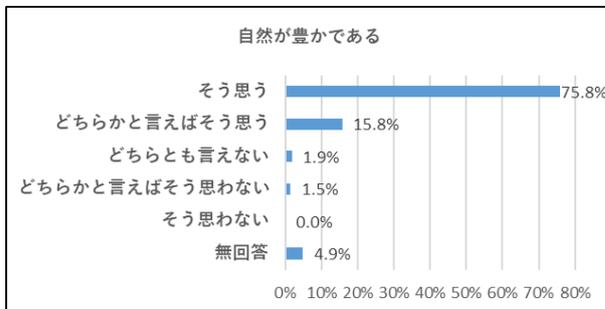


「そう思わない」が33.6%と最も多くなっており、全体としては、「否定的」な回答が多くなっている。

「肯定的」な回答は約22%

「否定的」な回答は約48%である。

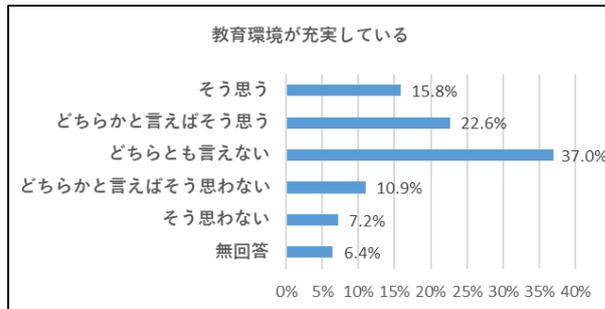
⑦ 自然が豊かである



「そう思う」が75.8%

「どちらかと言えばそう思う」15.8%と、9割以上の方が、自然が豊かであると回答している。

⑧ 教育環境が充実している

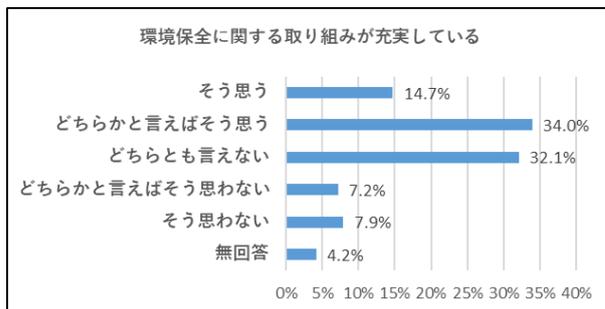


「どちらとも言えない」が37.0%と最も多くなっており、全体としては、「肯定的」な回答が多くなっている。

「肯定的」な回答は約39%

「否定的」な回答は約18%である。

⑨ 環境保全に関する取り組みが充実している

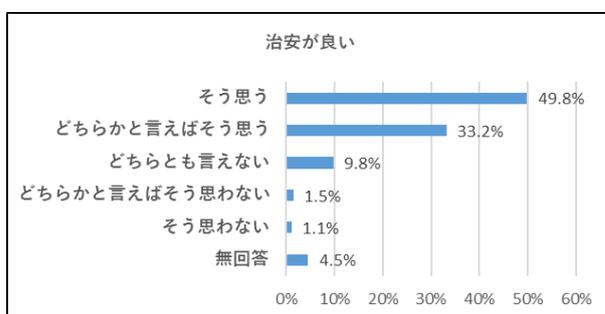


「どちらかと言えばそう思う」が34.0%と最も多くなっており、全体としては、「肯定的」な回答が多くなっている。

「肯定的」な回答は約49%

「否定的」な回答は約15%である。

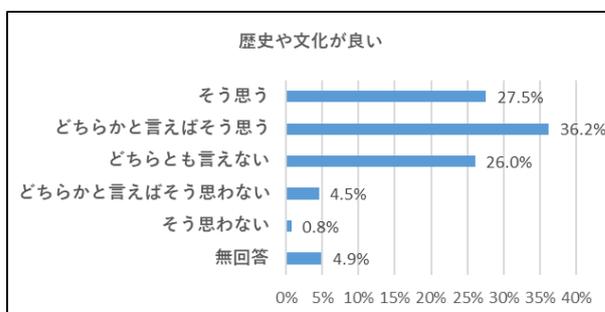
⑩ 治安が良い



「そう思う」が49.8%

「どちらかと言えばそう思う」33.2%と、8割以上の方が、治安が良いと回答している。

⑪ 歴史や文化が良い

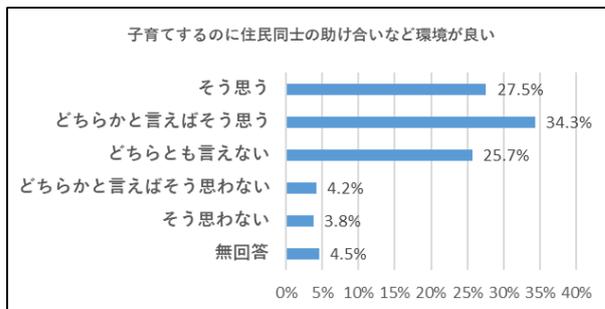


「どちらかと言えばそう思う」が36.2%と最も多くなっており、全体としては、「肯定的」な回答が多くなっている。

「肯定的」な回答は約64%

「否定的」な回答は約5%である。

⑫ 子育てするのに住民同士の助け合いなど環境が良い

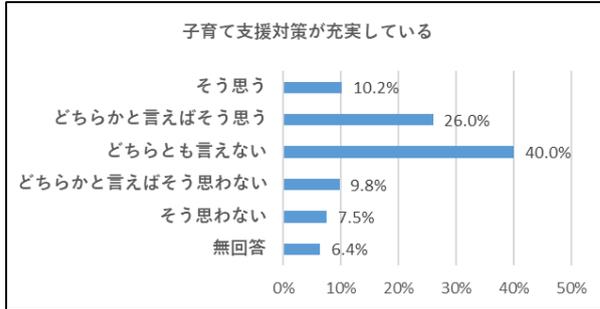


「どちらかと言えばそう思う」が34.3%と最も多くなっており、全体としては、「肯定的」な回答が多くなっている。

「肯定的」な回答は約62%

「否定的」な回答は約8%である。

⑬子育て支援対策が充実している

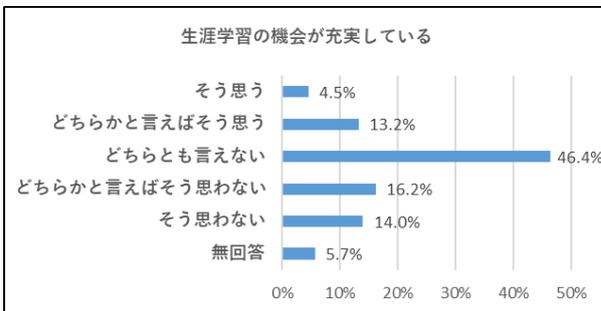


「どちらとも言えない」が40.0%と最も多くなっており、全体としては、「肯定的」な回答が多くなっている。

「肯定的」な回答は約36%

「否定的」な回答は約17%である。

⑭生涯学習の機会が充実している

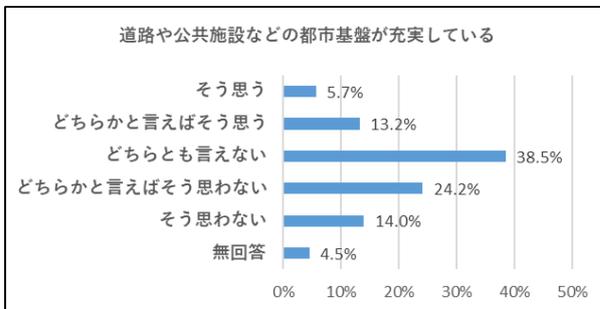


「どちらとも言えない」が46.4%と最も多くなっており、全体としては、「否定的」な回答がやや多くなっている。

「肯定的」な回答は約18%

「否定的」な回答は約30%である。

⑮道路や公共施設などの都市基盤が充実している

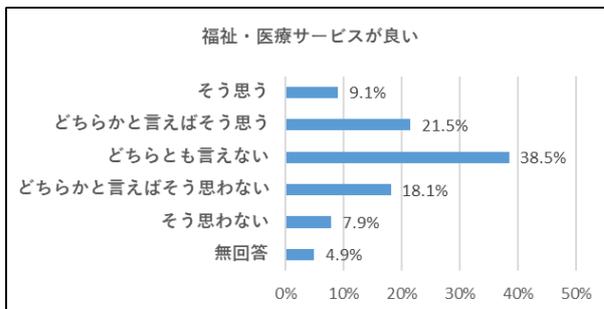


「どちらとも言えない」が38.5%と最も多くなっており、全体としては、「否定的」な回答が多くなっている。

「肯定的」な回答は19%

「否定的」な回答は約38%である。

⑯福祉・医療サービスが良い

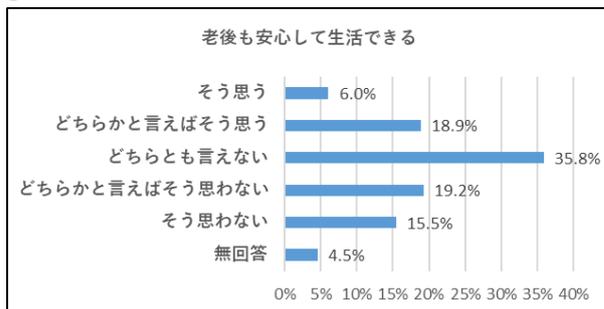


「どちらとも言えない」が38.5%と最も多くなっており、全体としては、「肯定的」な回答がやや多くなっている。

「肯定的」な回答は約31%

「否定的」な回答は26%である。

⑪ 老後も安心して生活できる

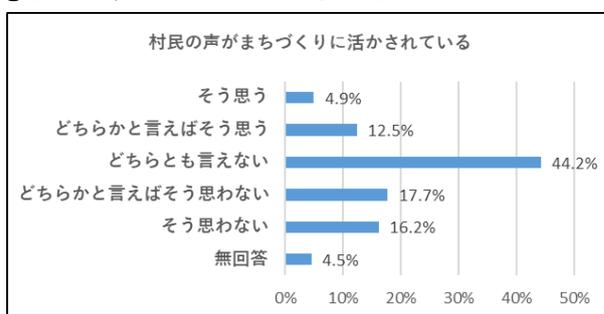


「どちらとも言えない」が35.8%と最も多くなっており、全体としては、「否定的」な回答が多くなっている。

「肯定的」な回答は約25%

「否定的」な回答は約35%である。

⑩ 村民の声がまちづくりに活かされている

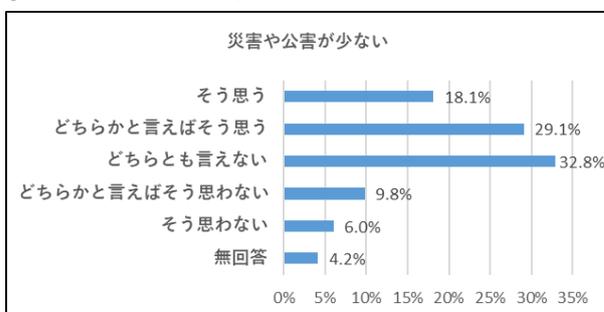


「どちらとも言えない」が44.2%と最も多くなっており、全体としては、「否定的」な回答が多くなっている。

「肯定的」な回答は約18%

「否定的」な回答は約34%である。

⑨ 災害や公害が少ない

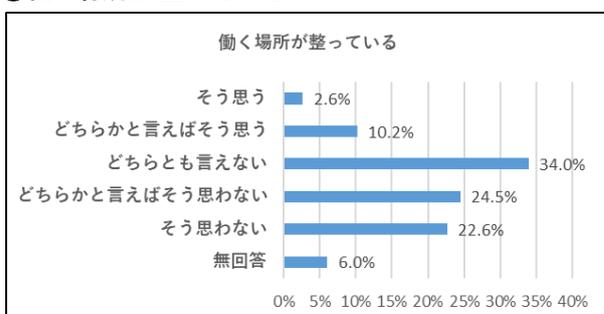


「どちらとも言えない」が32.8%と最も多くなっており、全体としては、「肯定的」な回答が多くなっている。

「肯定的」な回答は約47%

「否定的」な回答は約16%である。

⑩ 働く場所が整っている

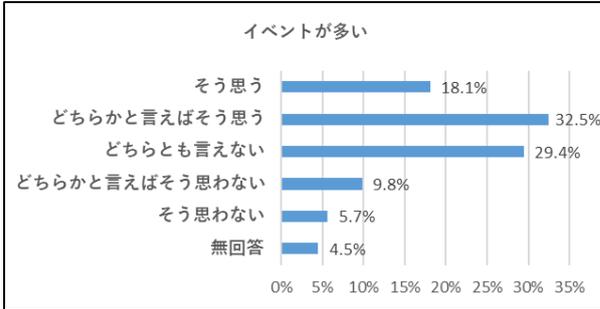


「どちらとも言えない」が34.0%と最も多くなっており、全体としては、「否定的」な回答が多くなっている。

「肯定的」な回答は約13%

「否定的」な回答は約47%である。

⑳ イベントが多い

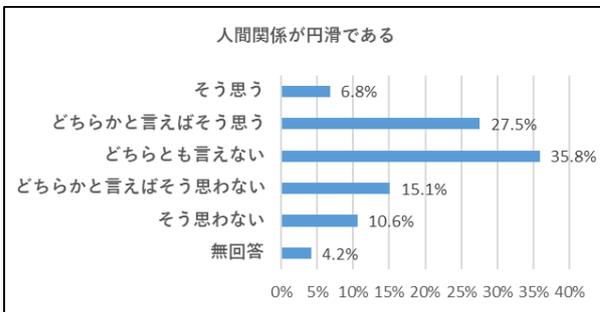


「どちらかと言えばそう思う」が32.5%と最も多くなっており、全体としては、「肯定的」な回答が多くなっている。

「肯定的」な回答は約51%

「否定的」な回答は約16%である。

㉑ 人間関係が円滑である



「どちらとも言えない」が35.8%と最も多くなっており、全体としては、「肯定的」な回答が多くなっている。

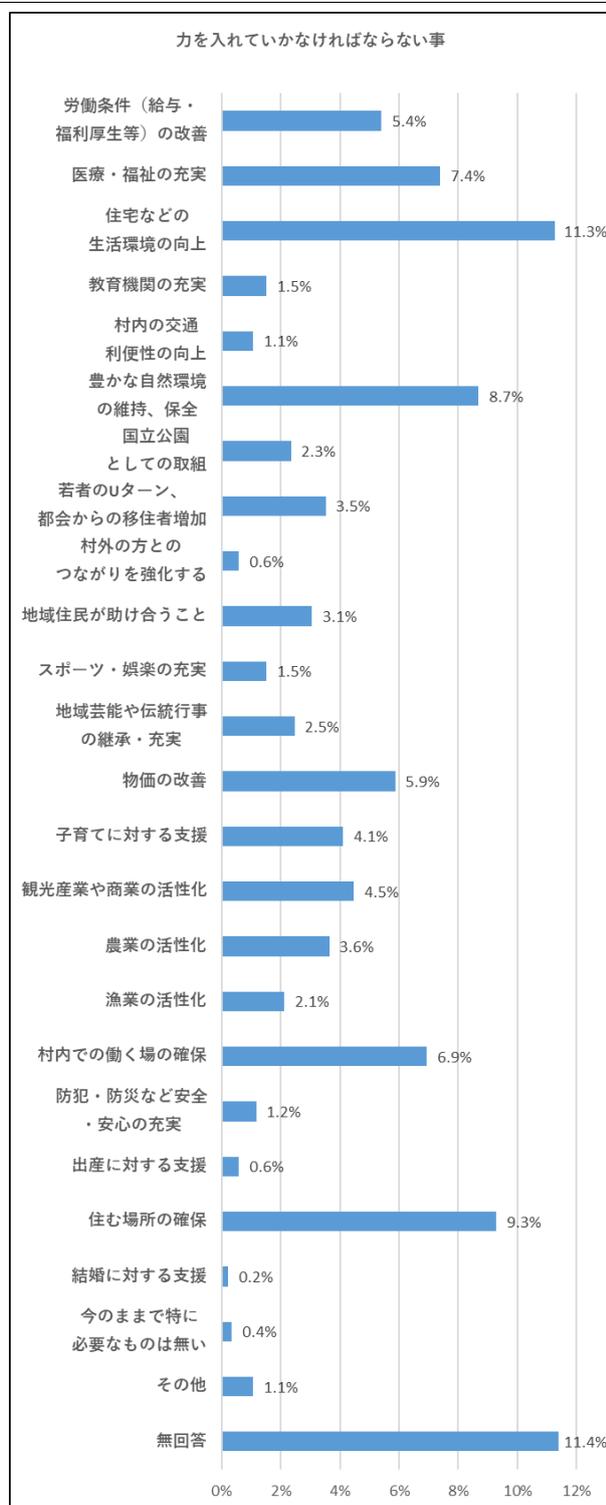
「肯定的」な回答は約35%

「否定的」な回答は約26%である。

(5) 座間味村で暮らして行くために特に「必要な事」、「力を入れなければならない事」は何か。

「住宅などの生活環境の向上」が11.3%と最も多く、次いで「住む場所の確保」9.3%、「豊かな自然環境の維持、保全」8.7%、「村内での働く場所の確保」6.9%と続いている。座間味村で暮らして行くため、住宅などの整備を検討する必要がある。

選択肢	実数	割合
労働条件（給与・福利厚生等）の改善	46	5.4%
医療・福祉の充実	63	7.4%
住宅などの生活環境の向上	96	11.3%
教育機関の充実	13	1.5%
村内の交通利便性の向上	9	1.1%
豊かな自然環境の維持、保全	74	8.7%
国立公園としての取組	20	2.3%
若者のUターン、都会からの移住者増加	30	3.5%
村外の方とのつながりを強化する	5	0.6%
地域住民が助け合うこと	26	3.1%
スポーツ・娯楽の充実	13	1.5%
地域芸能や伝統行事の継承・充実	21	2.5%
物価の改善	50	5.9%
子育てに対する支援	35	4.1%
観光産業や商業の活性化	38	4.5%
農業の活性化	31	3.6%
漁業の活性化	18	2.1%
村内での働く場の確保	59	6.9%
防犯・防災など安全・安心の充実	10	1.2%
出産に対する支援	5	0.6%
住む場所の確保	79	9.3%
結婚に対する支援	2	0.2%
今のままで特に必要なものは無い	3	0.4%
その他	9	1.1%
無回答	97	11.4%
合計	852	100.0%



(6) 座間味村で暮らして行くために必要と考える、具体的な取り組みのご意見やアイデア等。

20代 男性	<ul style="list-style-type: none"> ・圧倒的に住む所が無いです。若者はいますが、実家から出られずに結局離れていってしまう。 ・教員宿舎も少ないので子どもが減少してしまう。 ・県からの予算を使って物価を抑えているにしても 2ℓ 水が 300 円は高すぎる。レタス 1 つ 700 円も出せない。 ・夜など勉強などができるスペースが欲しい。
20代 女性	<ul style="list-style-type: none"> ・都会からの移住者は年々増加しているが、地元出身者の若者の U ターンは住む場所や村内で働く場の確保が難しく断念することが多いように感じる。また、既存の住環境の改善（住居の老朽化や水道等の設備）がされないのに新しい施設が次々と建築されるのを見ると、村民の生活の向上が後回しにされているように思ってしまう。 ・観光が第一産業であるため、村外へアピールできる施設が必要であることは理解できるが、まずは村内にいる人の生活を最優先として、村民の意見を取り入れる機会を増やして必要な事業を見極め、優先順位を決めた上でより良いまちづくりに取り組んでほしい。
30代 女性	<ul style="list-style-type: none"> ・人がいるからこそ課題も出てくる。まず、その人達が住む環境が整っていない。座間味の良さに引きつけられても住む場所がなければ、戻ってくる事も生活する事も出来ないかと思う。村営住宅や道の整備などから考えて欲しいと思います。
50代 男性	<ul style="list-style-type: none"> ・IT、ワーケーションに対応した居住区・施設の確保 ・AI 企業の誘致 ・里親制度の設立、留学制度の支援、給食の無償化
50代 男性	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園の設置 ・阿嘉～慶留間の公共交通機関が必要 バス、タクシー（船舶運航時間に合わせてもしくは 1 日〇往復）（将来は無人バス?） ・慶留間に共同売店が必要
60代 女性	<ul style="list-style-type: none"> ・座間味、阿嘉、慶留間の村営アパートの格差。子育ての格差。とにかく 3 島の格差が大きいと感じる。同じ座間味村なのに。
40代 男性	<ul style="list-style-type: none"> ・居住施設の確保が必要。 ・阿嘉、慶留間両校の統合が必要。統合する事でどちらかの教員住宅があくので、居住希望者をかなり受け入れる事が可能に。学校跡地は宅地化する。阿嘉、慶留間どちらを残すかはどちらでも構わない。無くした島にはスクールバスを導入。公営バスと兼ねる事で 2 島間の往来増も見込める。子供たちの教育環境の事を考えても統合は早期に実現すべき。阿嘉校に統合する場合、慶留間校は公営の宿泊施設化するのも有り（ロケーションがとても良いので）。そこでの雇用もうまれる。2 島ともに過疎化が進んでいる中で、いくつかの問題解決の糸口になる学校の統合は早急に行うべき。
50代 女性	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家の利用をすすめてほしい。
50代 女性	<ul style="list-style-type: none"> ・島に長く住みたいと思っている人が居住できる住宅がなく、阿嘉島ですでに子供がかなり減ってきている（現在の 0～5 才児）。今後も増える兆しは見られない（条件付住居では入れない人が多すぎる）。過疎化により学校では「人数が少ない事」による弊害が生まれている（中学教員の数が減らされる。体育ではできる内容に偏りがある等）。慶留間校との統合は近年中に必須だと思う。 ・住宅が確保されたら仕事が必要。その後は子育て支援も必要だと思う。座間味村の一番の魅力は大自然（特に海）なのでそこを守る事は当たり前だと思う。自然が失われれば観光客も来なくなるので仕事もなくなると思う。
30代 女性	<ul style="list-style-type: none"> ・島根県海士町の町おこしが参考になると思います。
20代	<ul style="list-style-type: none"> ・村営の住宅をもっと増やしていかないと U ターン I ターンはこれから増えて

男性	<p>いかないと思います。家賃が東京くらいの値段で物価が高いが賃金が安い。新事業をやりにくい。若者がもっと独立をしやすくないと難しいと思う。基本9割くらいが2~4で島を出る。</p>
30代女性	<ul style="list-style-type: none"> ・③独身や他県からの移住で住む場所に困っている人が多いと思う。間借りもいつまで借りられるのかといつも心配になる。仕事はあるが、住む場所がない。空き家など、住んでいないお家も目立っている。家に風を通す意味でも、空き家を活用していけるように村と持ち主が話し合ってくれたらと思うことがある。住む場所は個人で探すにも限界を感じる。
30代女性	<ul style="list-style-type: none"> ・村営住宅を増やしていただいているが、まだ足りていないのでさらに増やしてほしい。
50代男性	<ul style="list-style-type: none"> ・村営住宅や教職員住宅の改善等、村当局は本気を出して改善に取り組みないと座間味村はそのうちすたれてしまうのではないかと危惧する。私達は仕事で2~3年勤務して本島に戻る立場なので何とも言えないが、島の人のストレスはとても高いことを感じる。もっと住民の生活環境改善のために税金を使うか、国とのパイプを生かして高額な交付金を獲得して区民の生活基盤を改善してほしい。 ・現状は村当局が何もしないから区民は自分達で協力して楽しみを企画し内々で楽しんでいるように見える。区民、村民が区のために村のために島のためにやる気をもてるような政策を打ち出してほしいと願います。
30代男性	<ul style="list-style-type: none"> ・③空き家を有効活用してほしい。私が住んでいる宿舎は老朽化が進んでいて、いたるところが壊れてきている。いつまで住めるか心配である。早急に整備してほしい。 ・⑥豊かな自然をもっと守ってほしい。海岸のゴミなどを拾っているが、ゴミが多過ぎる。 ・⑭子育て支援センターを作る。 ・公園を作る。 ・子育て世代への情報提供 ・子どもを預けられる施設 ・サービスや移住者向け情報など
60代女性	<ul style="list-style-type: none"> ・国立公園としての意識を持ち行動すること。 ・自然環境を維持するための清掃の充実と個人個人の気持ちの持ち方の教育(我が身におきかえて何事も行動することなど) ・自給自足を基準にできることは自分から動き出すことをモットーにしたいものです。
30代女性	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援センターのような未就園児が遊べたり交流できる施設が欲しい(夏場は暑いので屋内で遊べると嬉しい)。 ・公園が欲しい(幅広い年齢の子供が遊べるようなアスレチック)。 ・国立公園に指定されている割にはビーチ(無人)が汚い。 ・大家族が住めるような間取りの住居が少ない。 ・親の病気や急用などの時、子供を預かってもらえる一時保育のようなものがあると助かる。
30代女性	<ul style="list-style-type: none"> ・③老朽化した建物が多すぎる。定期的な点検及び修繕が必要であると感じます。ダメになってから対処するのではなく、ダメになる前に動きだしてほしい。 ・⑭教員免許更新制度のせいで、今後幼稚園の免許保持者はどんどん減っていくはず。女性は特に結婚や出産で働けなくなることもあるので座間味と阿嘉で最低4名は本務で確保してほしい。特に若い人材を確保し、育成する必要があると思うので。 ・⑮の住む場所の確保もあわせて考えてもらいたい。子どもたちのために。
30代男性	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家の有効活用を図る必要がある。若い世代は実家から出たくとも出られない。移住者の受け入れが困難である。役場を通しての空き家の活用なら貸す側も安心するのではないのでしょうか。
50代女性	<ul style="list-style-type: none"> ・座間味は観光業を営む島です。しかしながら他の離島とは違い国立公園そしてもっと村民が自覚すべきと考えています。なぜならば観光業として営む事業者が利益だけを考え自然環境の大事さを忘れてるふしを感じられています。

	<p>す。その為、本来あるべき姿の国立公園の島が、マリンレジャーをする島になりつつある現状、マリンレジャーをすれば若者がそれを目的に来島する為、ゴミのポイ捨て、派手な格好が目につく様になり、本来自然豊かな環境を楽しむ観光客が座間味島(国立公園)の島が違うイメージをもってしまっている事です。国立公園として自然環境の維持、保全に力を注いでいければ来島税も高くしても観光客は喜んで払うと思います。なぜなら国立公園の素晴らしさに貢献できるからです。今、世界はそんな取組をしています。</p>
70代男性	<ul style="list-style-type: none"> ・座間味の財産は豊かで美しい自然です。後世に残し未来に繋げる為の方策 ・コミュニケーションをよくとること=島(住)民の一人一人は素朴で良い方たちです。年長者の経験、知恵を若い人に伝える場を提供すること。 ・観光だけに(?)頼らず、年間を通して出来る事を。果物、野菜等独自の研究、開発する=生産できる物
40代男性	<ul style="list-style-type: none"> ・島の環境は良いが、何故若い人が戻ってこないのか?→仕事がないという話で終わるので、仕事はもちろん住環境の整備が必要。 ・観光業中心で那覇からのアクセスも良いが、国立公園という部分をブランディングできていない気がするので、地元の価値を上げるべき。→山や海を見ているだけで宝だと思いますが、村民があまり気付いていない(というより当たり前すぎて宝と思ってない)。
60代女性	<ul style="list-style-type: none"> ・慶留間は住みたくても空いている所がないので人が入ってきづらいから、村営住宅を増やすといいのでは。
60代女性	<ul style="list-style-type: none"> ・島内は買い物とか交通とか不便はありますが、この不便が自然とか治安が守られている。 ・農業を活性化して働く場の確保を考えてUターンできるようにする。 ・防犯・防災は避難する時、お年寄りに声を掛ける人を決めておくとか、避難済みの札を出すとか住民の中での連携を決めて訓練しておく。 ・阿嘉は避難場所に施設が無いので(高台に)、天気の悪い時は居場所が無い。シークワサーの木を育て、阿嘉島オリジナルのシークワサー果汁、ジュース、ジャムの工場を作って出荷。お土産にもなる。地産地消(民泊で提供)→雇用につながる。
40代男性	<ul style="list-style-type: none"> ・⑥の為に村のガイド認定制度を設け、悪質ガイドを無くし、質の向上⇒自然環境の保全に配慮したガイドのみにする。
40代男性	<ul style="list-style-type: none"> ・離島のハンデを感じさせないぐらい、豊かな自然環境が魅力の島。そのまま自然環境を守るとおのずと若者が島に戻ってくると思う。ただ今は住む家やアパートが少なく、苦勞している。借家をふやし、若者が帰って来やすい環境を作らないといけない。 ・漁業や観光業にくらべて、農業がよわい。農業を活性化する事により、島の産業や特産品も増える可能性が高い。
20代男性	<ul style="list-style-type: none"> ・島出身の若者に帰って来てほしい。現代の若者にとっても魅力的な島にしてほしい。仕事、住居、アクティビティ等、安心して楽しく暮らせる環境があれば良いと思われる。 ・島には使われていない農地が多くあるように見える。マリンアクティビティのように農業だけでも稼げて暮らせたら農業する人も増えると思う。 ・観光客が多いので、心肺蘇生の講習を定期的に行ってほしい。
40代女性	<ul style="list-style-type: none"> ・ファミリーが住める住宅(アパート、一戸建てが少ない)住みたくても住めない状況。 ・海岸清掃等自然をもっと残してほしい。海に暮らす生物の保護。 ・子供達が遊べる公園の充実。遊具、図書館など
60代女性	<ul style="list-style-type: none"> ・座間味に住みたくても住宅がなく住めない人がいるとよく聞く(特に若い人達)ので村営住宅をもっと小さく区切って多くの所帯が住めるようにした方がいい。今の村営住宅は1世帯にしては広すぎて数が少ない。2DKくらいのあまり広くなくてもいいので数を増やした方が多くの人住めると思う。 ・小さな子を多く預かってくれるように保育園の拡充をした方がいい。子供が小さくて働きたくても働けない若い母親が多いと思う。 ・農業用水がないのでせっかくの農地も利用できず山野化している。

	・観光業以外にも目を向けるべきではないか？
40代男性	・村内に 投棄されている車、ゴミ屋敷のような家 など行政で対応すべき。美化を図ってほしい。
40代女性	・ 年配の方々の暮らしやその方たちの率直な気持ちを今よりももっと聞きとったり、尊重 しても良いのではないのでしょうか。自然がいつまでもこのままとは限らないのだから、ただただ人を呼んで島へ受け入れても廃棄されるゴミが増えていくだけだと思います。この島に違和感を感じる観光客の方々にも何人かお会いしました。疲れた大人が癒しを求めてくるとあまりよい結果は出ないと思います。「人が暮らす島」として必要なことは何なのか、私自身は余計なことをせず、今後も静かに丁寧に暮らしていこうと思っています。
60代	・観光産業を中心にした 特産品の生産、農林水産業の活性化
40代女性	・ゴミの仕分けの段階で袋の指定が複雑にしているし、ゴミを捨てるのにさらに袋ゴミを出すやり方がナンセンスと思う。 例えば、 ステーションに仕分けカゴを作って 、アルミ缶はここ、スチール缶はここ、金属ゴミはここ、家電ゴミはここ（コードを切るハサミも置いておく）などするとか。 元々、仕分けの習慣がない方々に、各自自分達で仕分けて下さい、ちゃんと表にしていますよと言っても、そもそも仕分ける意味も大切さも理解していない方が、調べてまで仕分けに協力するはずないと思う。ステーションへ行けば大して考えなくても 捨てるべき場所に捨てれる仕組 にしてみたらどうかと思う。回収作業員の方も楽だと思う。習慣化していくのに言いましたけどは努力不足とも感じます。仕分けはただでさえ面倒なことです。やってこなかった人には、 産業ゴミ は村では一切受け付けないはちょっと投げやり過ぎだとも感じる。せめて 相談窓口くらいは作ってもらえないか と思う。
50代女性	・ 農業地帯を宅地に切り替えて土地の確保 に取り組まないと若い世代がUターンしたり都会からの移住者の住む場所がないと事業も展開出来ない。もっと家にいる お年寄達 を先生として 地域芸能や伝統行事の講師 として勉強会をした方が良い。
50代女性	・若い世代に 社会保険等 の知識が無い方が多いので早い頃から 実務的な学習 をさせてあげて欲しいです。 ・ オンライン診療等 ができると便利（人間も動物も）
30代女性	・ 歯医者 があれば嬉しい。 ・仕事と家がセットになっていると思うので仕事（働かなくても）がなくても 住める家 があれば良いと思う。
30代女性	・座間味村、島内で作られた 野菜などの直売 があれば良いなと思う。台風や海上時化が続き食材等が少なくなった時も助かるし その地域にしかないものやできないものを知るきっかけにもなる と思う。
40代女性	・ 船便の欠航が多く 、那覇への計画も立てられない。予定よりも前後泊が必要になり、 出費がかさむ 。学校もやすまざるをえない為進学を考える親、子共に 離島の不便さを考えさせられる 。
50代男性	・船舶の補助金の充実
60代女性	・年輩の人への配慮が足りない。 ・船の無料化等
30代男性	・住める家を増やしてほしい。
20代女性	・村営の住宅をつくる。 ・使われていない 誰も住んでいない家の利用 （役場が家主に賃貸をすすめるなど）
20代女性	・ アパート等 をつくるなど住宅環境がもう少し良くなれば、もっと住人が増えるのでは？と思います。きっと座間味に住みたいと思う人はいっぱいいると思うので、 ホームページ等で住宅等（値段等含め）アピール してはどうでしょうか？
20代女性	・ 空き家の改築 を行い、住居となる場所をつくる。 ・ 古民家カフェ を作る。観光客が慶留間にも来るように。

	<ul style="list-style-type: none"> ・特産物を作る。(名産)お菓子や野菜など、地域を上げた特産物があれば観光もより盛んになると思う。→雇用も増え、地域活性化につながる。
30代男性	<ul style="list-style-type: none"> ・阿嘉に住んでいるので、阿嘉島での意見ですが、 ・⑧に関しては、座間味島と比べて、若者が魅力をもつような職業の選択肢が少ないと感じる。ダイビング、宿など昔からあまり変化がない。 ・⑫は、神人も1人しかおらず、また高齢の為、神事もままならないときく。今後、なくなってしまうのではないかと心配。 ・⑭は、座間味はファミサポ、保育園、預り保育を行っているか、阿嘉島では、全く行われていない。同じ村内で格差を感じる。→優先順位が①座間味②③阿嘉、慶留間
20代女性	<ul style="list-style-type: none"> ・村営住宅の応募条件が厳しすぎると思います。定住したくても住居を確保する為のハードルが高いので、もっと単身者でも住みやすいような住宅を増やしてほしいです。また村営住宅に限らずアパートなどの物件情報の発信に力を入れてほしいです。
50代男性	<ul style="list-style-type: none"> ・①労働条件について、村内各地区における勤務場所の確保が必要である。(各島ごとに確実に定住できる勤務場所の確保、整備が必要。又、多様な業種で高齢者でも仕事ができる体制づくり) ・②医療・福祉の充実について、離島ということで、本島などのような病院がなく、急患対応が大変であり、又専門的な受診も本島への利用が多いので、今後将来的には必要である。 ・③住宅など生活環境の向上については、②の住む場所と同様、勤務場所の改善も行いつつ、各地区における村営住宅の設置が必要である。特に住人が少ない地区への整備(設置)は必要であり、整備による地域住人の増加を図り、地域の活性化を図ることは不可欠である。
60代男性	<ul style="list-style-type: none"> ・これ以上海岸線や山、平地等に建築物を作らないでほしい。それって本当に必要なの?と思う物があります。特に海岸線の変化が伴うような物は海の環境が激変する可能性がある。豊かな自然と生活環境がある程度整ってれば人は住みたがるものではないでしょうか?
60代女性	<ul style="list-style-type: none"> ・②医療・福祉の充実:離島なので病状の悪化となると救急でへり等で本島へ行く事となる。その前に島民が健康を維持出来る様、体操であったりスポーツであったりの取り組みがもっとほしいと思う。 ・⑥自然環境の維持・保全:これは島にとって大きな財産。どうしたら観光資源として利用しつつ守っていくか。法的に規制(条令等でルールを作る。利用者資源利用代金を求める)方策をとるべき。 ・⑫伝統行事の継承:近年、島外からの住人も増加し、伝統行事への関心がうすれていく様に思える。座間味の自然を愛する様に文化も大事にしなければ座間味の歴史が変わってしまう気がする。
30代女性	<ul style="list-style-type: none"> ・両親共に自営業の方が多く中で、子供を預けられないというのが円滑にまわらない。親子共にストレスが大きい。
60代女性	<ul style="list-style-type: none"> ・観光業(特にマリレジャーや宿泊業)が多い割には飲食店が少ないので増やして欲しい。 ・保育園や遊び場が少ない。
60代男性	<ul style="list-style-type: none"> ・⑥豊かな自然環境の維持・保持⑩地域住民が助け合う事 ・集落内の美化について住民が高い意識をもって身の廻りの事をしっかりやる事が前提である。一部には公共の場を私用に使っている事業者が居るが慎んでもらいたい。例:河川の手スリに布団を干したりノボリを立てたりするのは考えものである。 ・国立公園としての座間味村であり、環境省〇〇各界団体のこれまでの取り組みは素晴らしいと思う。情報連携を基に今後ともしっかりとした取り組みを期待したい。 ・環境保全への意識を高めてもらうよう内外の観光客の啓発も継続して行なう必要があると思います。 ・⑯農業の活性化 ・現在の所、農業の基盤整備が出来ていないのが残念であり、村として”農業”を

	観光立村としてという位置づけのような取組を今後して行くのか先ずその ビジョンを示して欲しい 。
20代女性	・ 教員住宅の不足や村営住宅の老朽化 など住宅安定が難しいのと若者のリターンが望めないのだと感じています。働ける場合の住宅、就職先が確保できれば1つの方法だと思います。
50代男性	・役場の人間のクビを切り、村長以下全て国からの人間を入れないと無理。村の人間では村は絶対に変わらない。
40代女性	・間12にも記入していますが、島特有の土地問題などもあると思うので 土地購入 出来る出来ないについてはむずかしい現実はあると思うし、誰でも購入出来ると思うとなると、それもまた問題が起きると思うので購入するには 一定の定住期間（在住歴〇〇年以上の方とか）が必要だとルールを決めて 、行えるのであればしても良いのではと思う。それにしてもそもそもの土地が少ない。増→自然に影響が出るとなると、これも問題。なかなか答えは出ない。 ・①は 給与の引き上げ →国や県の問題 ・④⑭は、 子供達の学校以外の学びの場。保護者、地域の方々においても講習会などの充実、一時預かりの保育園や学童など人材不足でもあるが、給与、住居 など島内において課題は多く、なかなか実現とまではいかない。いけない背景がある。やっと介護施設や保育園が出来たのだ。この先を求めるとなると更に年月が経つのであろう。どんな風な策があるのか教えて欲しいものだ。
40代女性	・ 家を借りたり購入したいと思ってもどうしたらいいかわからない 。村外の方が購入したりして空き家になっている家多い気がする。
50代女性	・特に⑭ 船の運航がかなり不安定 なため、島での生活をより不便にしていると感じている。例えば、病院に行くにしても欠航により行けない、帰島できない等。帰島できずに那覇に拠点がない人間にとってはホテル代もかさんでくる。 ・⑱ 住居問題も含め、人口の減少が島の生活を窮屈にしている と思われる。もう少し人口増加のための取り組みが必要ではないか。
30代男性	・役場職員と学校教員に対しての住宅の環境の差をご理解頂きたい。（ 生活環境の中での雨漏り、劣化が気になる ） ・子育てに対しての充実化を求めたい（くじら文庫での活用、くじら公園以外にも 保育園に通えない子ども達に対しての過ごしやすい場所が欲しい ） ・上下水道代、ガス、電気が高い。 ◎燃やせるゴミ袋が本島の2倍。高すぎるよ。 ・一つでも改善お願いします。
30代女性	・子ども達の個を伸ばすことのできる環境を整えてほしい。 習い事のできる居場所作り、雨の日でも楽しめる場所の提供 など。 ・ ゴミ袋の物価を下げてほしい 。
30代男性	・ 教育機関、子育て支援を充実 することで、子どものいる家庭の移住者の増加につながる。 ・子どもが豊かに育つまちは良いまち、教育・子育てから、まちの雰囲気づくりまで広がり、住民一人一人とのつながりも良くなる。子どもが健やかに育つまちなど、 観光客等にとっても魅力のあるまちになるのではない か。 ・大人を良い大人にするのは不可能に近いが、子育てにより子どもを良い大人に育てることは決して不可能ではない。島から育った子が大人になり、島に戻って来やすい様に、島の良さ等を子どものうちから伝えていき、故郷に愛情を持ち、誇りを持ってくれば、たとえ島に戻って来なくとも、どこかで関わりをもつことが出来、島外からの島への支援につながるかもしれない。 座間味村の未来のために、子育てや教育の充実が必要。もしかすると、島出身者で偉人・著名人が誕生するかもしれないので、それにより観光も充実するのでは。
30代男性	・ 空き家 をどうにかしなければいけない。 活用 できる何かを考える必要がある。
30代女性	・医療機関が診療所しかない為、 医療体制（人材・医療機）の充実 が必要である。 ・ 乳幼児 がいる家庭における 相談機関の確保、託児所の設立 。 ・ 台風等、災害時における迅速な対応 を希望する。

40代女性	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちがかわいそう。学年1人とか2人だとかわいそう。子どものために中学は3校いっしょにすべきだと思う（1校にまとめる）。教育予算も少ないから那覇の学校に比べたら教材の充実具合が悪い。小学校も2校にすべき。教育のためにお金かけないと就学時に引っ越す家庭が多くなると思う。実際そんな例もある。大人の都合より子どもたちのことをちゃんと考えるべきだと思う。
30代女性	<ul style="list-style-type: none"> アパート等、賃貸住宅があれば外部からの移住もしやすいのかなと思います。あとは幼児の学童保育等充実していたら母親も働きやすいと思います。
70代男性	<ul style="list-style-type: none"> 実行できるのか。
40代男性	<ul style="list-style-type: none"> 村として外部からの有能な人材を誘致したいが、住む場所民間、村営共に無く、村としてのレベルアップが無い。現在、村に住んでいる人材も家賃の高騰などで〇〇があり、不安である。
40代男性	<ul style="list-style-type: none"> 団地がダイビングのスタッフでほほうまってる。賃貸が少なく老後の住居の当てがない。
20代女性	<ul style="list-style-type: none"> 土地や建物を簡単に島外の人に手渡さない方がいいと思う。子どもが遊べたり、親同士のコミュニケーションがとれるような、児童支援センターみたいな簡易的なのでいいから、室内で遊べるスペースがほしい。 国立公園としてのアピールとか座間味のこともっとアピールしないと観光客ももっともっと減っていくと思う。
70代	<ul style="list-style-type: none"> 村の歳入財源を島出身者で、村役場職員、村議員、村長や村の出先機関の職員として親戚の数で安定した収入先を確保された現状を島外から移住して来た者が気づいたら一日も早く那覇市に吸収合併して他の市町村の様な健全な町になってほしいと訴えたい。
40代女性	<ul style="list-style-type: none"> 出るものはたたかれる島なので、どんなに良好な案があっても無理。あきらめて生活しているし、今までもそうしてきた。離島へき地の現実。
70代男性	<ul style="list-style-type: none"> 15才未満の児童、学生に対する医療費窓口負担を公費にしてほしい。 診療所の医師、看護師を二人体制になるように県に要望してほしい。
40代女性	<ul style="list-style-type: none"> 住宅などの整備がもっと充実していたらいいと思う。若い子が帰って来て、仕事も住まいもなければ戻ってこないと思う。県北部の地域で空き家を貸し出す取り組みを行っている所もある。行政がもっと工夫していく必要があると思う。 歯医者・耳鼻科など診療所でみれないものには那覇に通わなければならない。助成してほしい。（例えば船代半額とか） 保育園の見直し。渡嘉敷とかは充実して若いお母さんがバリバリ子ども預けて働いている。預ける先がないと働けない。ファミリーサポートや一時預かりでは限界がある。 村の取り組みで資格をとっても実際に働けないのなら、とった意味はあるのか？ちゃんと資格を活用できる人を。
50代女性	<ul style="list-style-type: none"> 観光産業やマリンスポーツ等のイメージが強調されているが、農・水産業等の活性化を促すことも必要だと思います。農産物等物価的に高く、生活に不自由さを感じる。
70代女性	<ul style="list-style-type: none"> ②保育園を充実させる（預かる人数が少ないので、もっと働く家庭の子供を安心して預けられるようにする）。中学生まで（出来れば学生まで）の医療の一部負担金を無料にする（村内の診療のは特に）。高齢者の一部負担金も無料にする。保育所完備、医療費一部負担金無料にする等福祉を充実すると若い人達が移住にくる。歯科医院も作って一部負担なしにすると村内での治療が増えて赤字経営でなくなり、子供の虫歯、お年寄りの入れ歯などが改善され健康につながる。 ⑥島民の意識の改革、ゴミひろい、海の生物を大切にするなど日頃からもっと気をつけて村内のゴミ、放置車等をなくす。 ⑪空き家、古民家の活用
40代女性	<ul style="list-style-type: none"> 住居問題をクリアさせていく。村営アパートを増やすには時間がかかりすぎるので、現在ある民家（空き家）を村が運営する「空き家バンク」のようなことをしてもらえると良い。

	<ul style="list-style-type: none"> 島内には歯科医院がないので、船舶補助をしてもらえると非常に助かる（他のも同様、皮膚科、眼科など）
50代男性	<ul style="list-style-type: none"> 物価の改善。高すぎる。フェリーの運賃無料にして！！
30代女性	<ul style="list-style-type: none"> 交通利便性の向上について（船の便を増やす）（車をのせる時の料金の見直し→他の離島フェリーと比べて少し高い）など力を入れていただけるとありがたいです。
70代	<ul style="list-style-type: none"> 空港があるのに定期便がない！富裕層を呼び込む為には飛行機が必要！台風接近時にはフェリー、QZが数日間欠航になるが、飛行機なら欠航は通常1日だけで済むケースが大半。 ザマミ、アカに分譲宅地1区画50～80坪宿泊事業用として100～300坪坪単価10万円で販売して定住者を増やす。
30代女性	<ul style="list-style-type: none"> 歯医者があると良い。 コロナ禍でムズかしいと思いますが、スポーツイベントが増えると良い。
40代女性	<ul style="list-style-type: none"> 活性化の為に漁協で魚を売る時には、放送を流してほしいです。（おばあさん達が分からなく買いそびれるそうです）
30代女性	<ul style="list-style-type: none"> まだまだ知名度が低いと思うので、SNS等で毎日UPする。 インフルエンサーをよぶ。 ドローンなどで撮影。
50代女性	<ul style="list-style-type: none"> あき家利用。 安定した働く場がないと定住に結びつかない。 コロナ禍で観光産業だけでは生活できない事がわかった。
30代女性	<ul style="list-style-type: none"> 生活に必要な不可欠な食品、日用品が高すぎるので、せめて那覇で買う値段くらいには。 長く住み続けられる住宅が少なく、また村営など対象者が限定されすぎている。
30代男性	<ul style="list-style-type: none"> 保育園の定員を10名まで増やして欲しい。 旧幼稚園に保育所を作って欲しい。 だれも使用していないor住んでいない土地を村で管理して土地を使えるようにして欲しい。
40代男性	<ul style="list-style-type: none"> 年配の方に農業をされている方が多いのですが、島でとれた農作物が島内に流通する仕組みがほとんどないように思います。地産地消を推進する仕組みをつくって、農業でもお金が得られるようになれば、年配の方の農業に対するやる気も大きくなり、それが健康寿命を伸ばすことにもつながると思います。農業を仕事にできる仕組みができれば、その分、若者の選択肢も増え、若者の人口も増えると思います。
80代男性	<ul style="list-style-type: none"> 郷友会の充実 漁師の育成 遊休地の開発（行政が中心になって取組む）
50代女性	<ul style="list-style-type: none"> 空いている住宅を村が借り上げて村民に貸すような制度があるといいと思う。
60代女性	<ul style="list-style-type: none"> 若者のUターンも大事ですが、シニアのUターンも必要かと思う。定年退職後にもどってこれるような意識づくり ①空き家をなくし、別荘感覚で身内が使用すること②海が好き、山が好きなどの自然の素晴らしさを小さい時から教育すること（都会の便利さだけにあこがれないように）人生設計の中にUターンを組み入れることができるようにする。 ⑦の国立公園としての取組を強化すること。いつ、何時、人が訪れても公園であるという意識を持つようにする（道端の雑草取り、修理が必要なカ所の整備、ビーチの清掃、鹿との共存など）来島して良かったと思われるように環境整備、おもてなしの心を意識する。
50代男性	<ul style="list-style-type: none"> 村内に住む人々の運命共同体である意識。 移住者の方は商売だけの意識をもっては、いい村は出来ない。 転入する時に意識付（区がやるか？） 地産地消の推進（村の人は村の人の作った物（とくに農作物）を買うという意

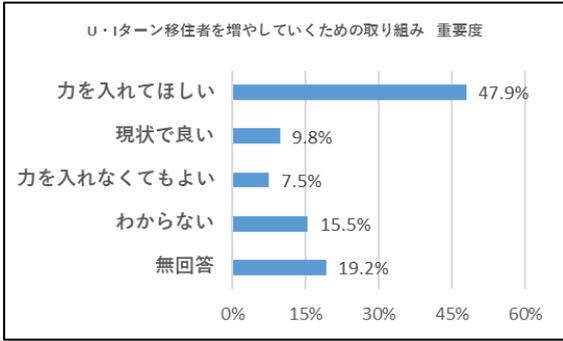
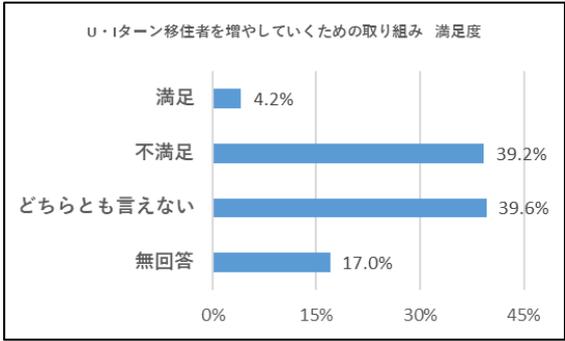
	識がない) ・ある程度 企業誘致 も必要（観光以外）
30代女性	漁業・農業 について 個人で完結しているものを関わる人を増やし 産業 として成立させる。 歴史・文化の継承 誰もが見ることのできる充実した 資料館 が欲しい。内地からの移住者が多くなり、実際の歴史を知る人たちも高齢になってきている。今が最後のチャンスだと思う。
60代男性	国立公園 でありながら、箱物建設が多すぎて 景観を損ねている 。 行政や住民が 都会化 を目指している様な気がして 不安 である。 最近移住者が増えすぎて 住民間の連帯感に欠けている 。
40代女性	座間味村は夏場と冬時期での状況が大きく異なる。それは観光地として”海”を満喫する場として定着していることで 冬の楽しみを提供できない 。冬は 仕事 がなくなり、生活のために 外での仕事 を探すことになる。それは、 第一産業が衰退 してしまったため 観光一本で生計 をたてているがゆえのこと。また、 夏場はシーズンを支えるバイト が沢山来る。その方たちはここに住んでいるという感覚はなく 税金 も しかり座間味の将来 を考えるに いたらない 。座間味を一過性のものとしている。それは 座間味村側の問題 でもある。 シーズン中だけで良い とすることは 人の使い捨ての意識 があるため、 来る方も同様な気持ち 。座間味をどうしていくか 将来を見据えて いくか、 10年先、20年先 を想う 気持ちが分散 しているのか 実情 を感じている。 美しい自然を保全しつつ、観光プラス座間味独自の産業 が座間味村民の生活、暮らしにつながっていくのではないかと思う。 また、 Uターン され ない島民の方の空いた家 を 活用する手だて を村で まとめてほしい と願う。

(7) 「第1期座間味村人口ビジョン・総合戦略」に基づき進めている施策に関して、現在の状況・満足度と今後、村が行う取り組みに対する重要度についての考え。

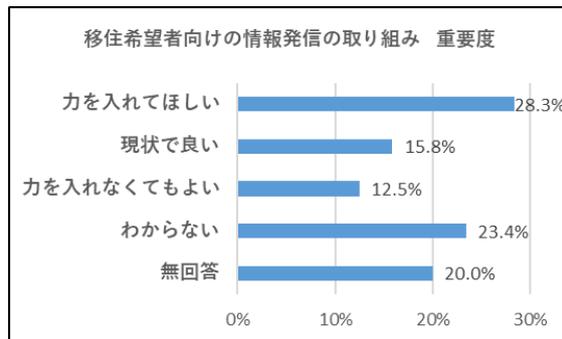
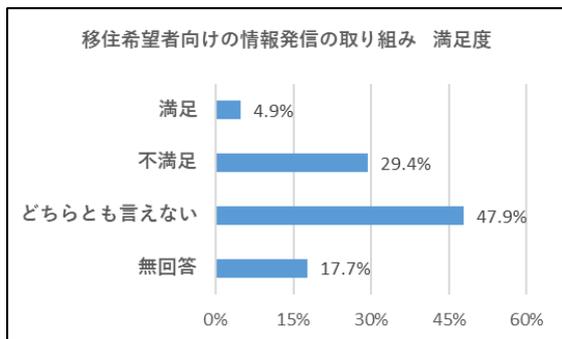
「第1期座間味村人口ビジョン・総合戦略」に基づき進めている施策に関しては、全体的に満足度は「どちらとも言えない」と「不満足」が「満足」を上回る意見が多く、重要度は「力を入れてほしい」と答えた割合が高くなっている。

村民との総合戦略の共有に問題もあったと考えられるが、施策の内容については、今後も力を入れていくべきものとしてとらえられているため、施策の方向性や継続すべき施策は第2期総合戦略でも概ね踏襲する。

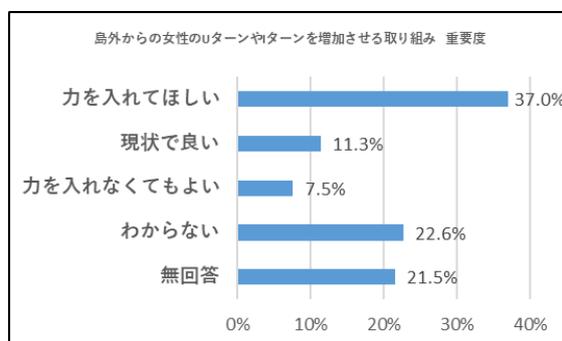
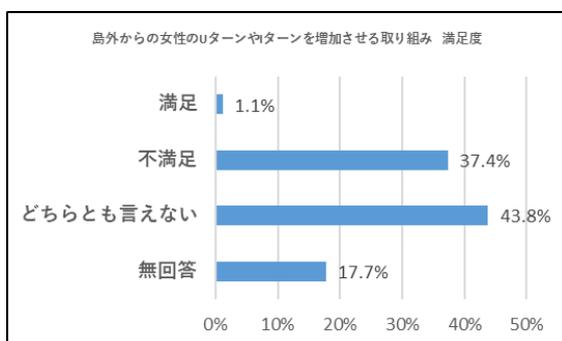
① U・Iターン移住者を増やしていくための取り組み



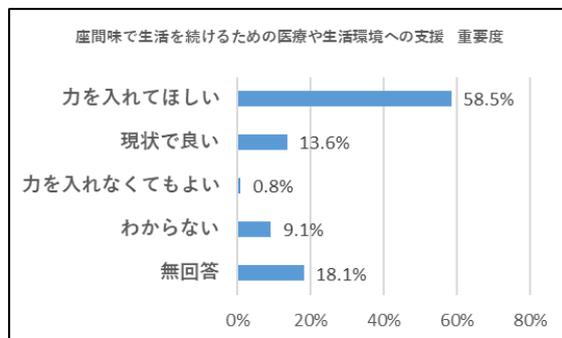
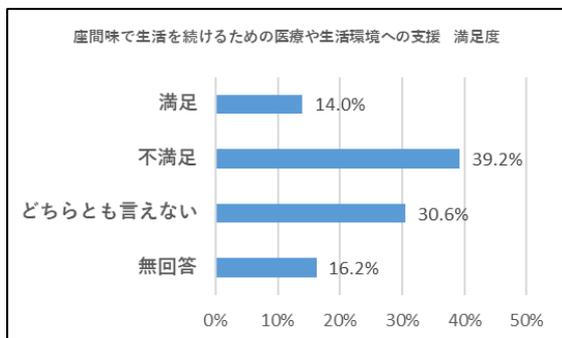
② 移住希望者向けの情報発信の取り組み



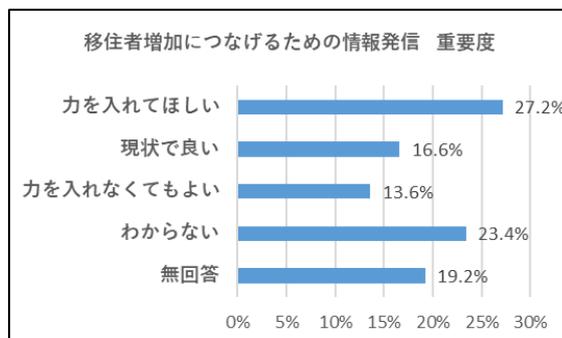
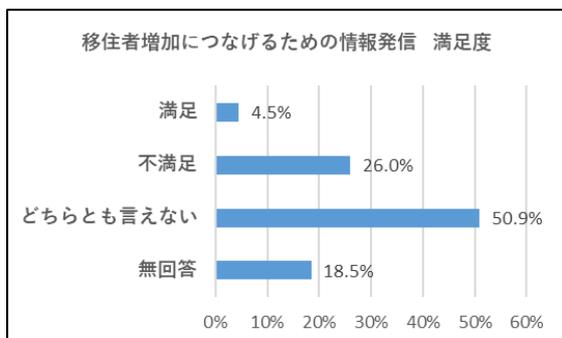
③ 島外からの女性のUターンやIターンを増加させる取り組み



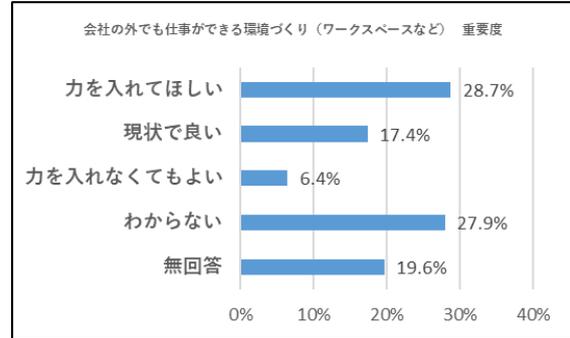
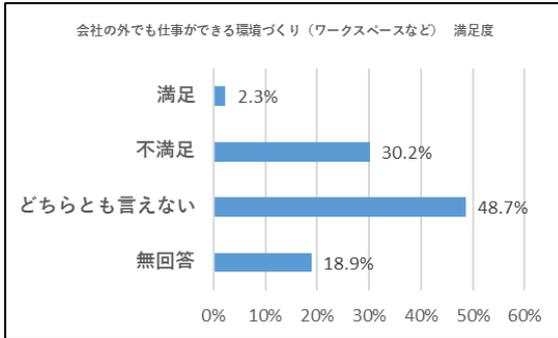
④ 座間味で生活するための医療や生活環境への支援



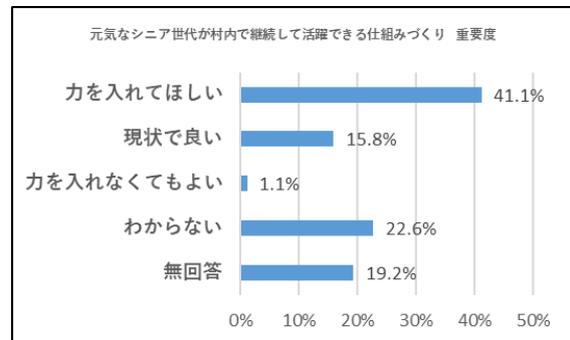
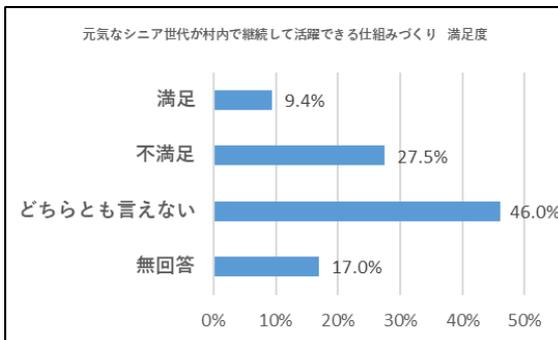
⑤ 移住者増加につなげるための情報発信



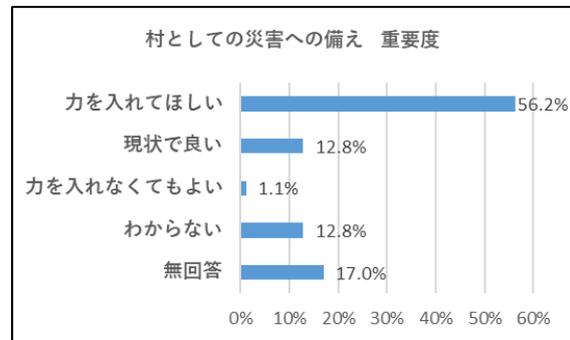
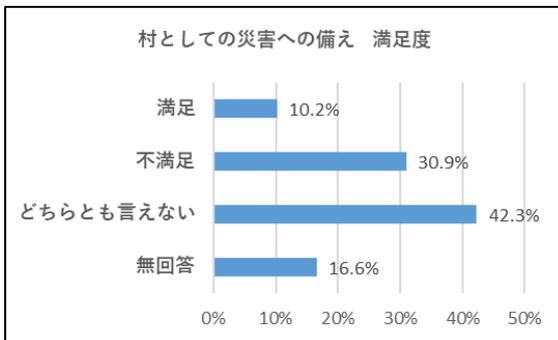
⑥ 会社の外でも仕事ができる環境づくり(ワークスペースなど)



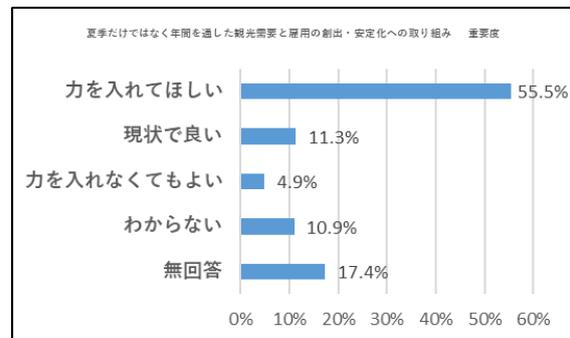
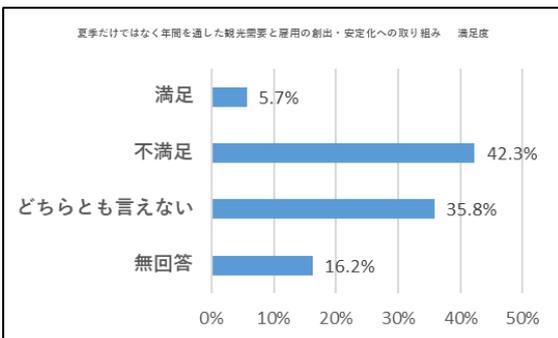
⑦ 元気なシニア世代が村内で継続して活躍できる仕組みづくり



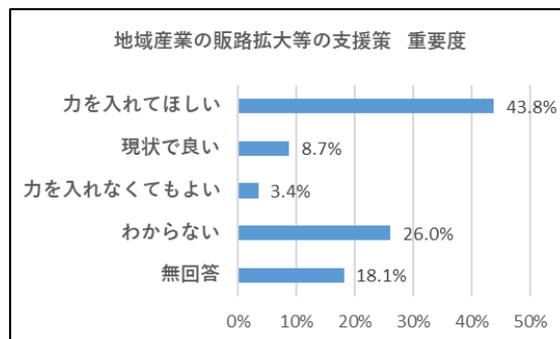
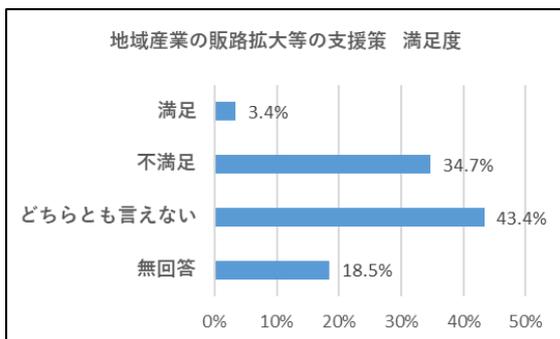
⑧ 村としての災害への備え



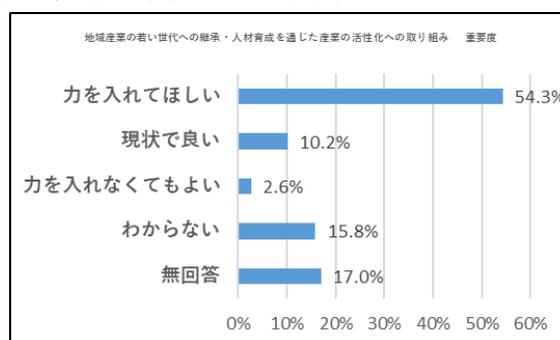
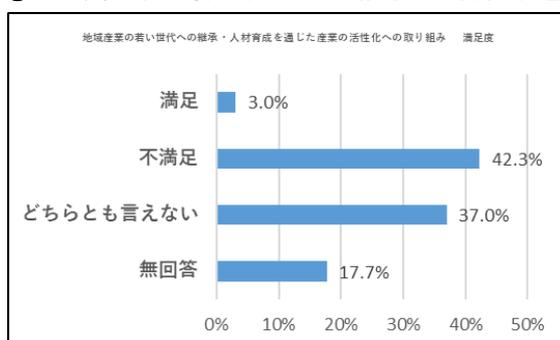
⑨ 夏季だけではなく年間を通した観光需要と雇用の創出・安定化への取り組み



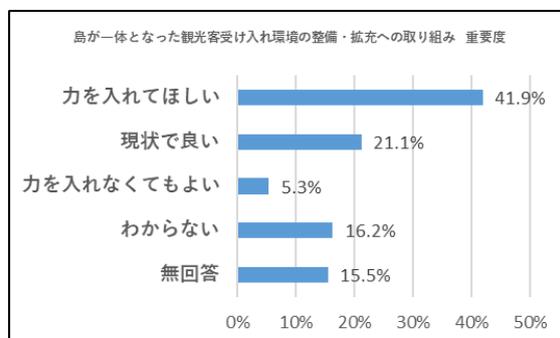
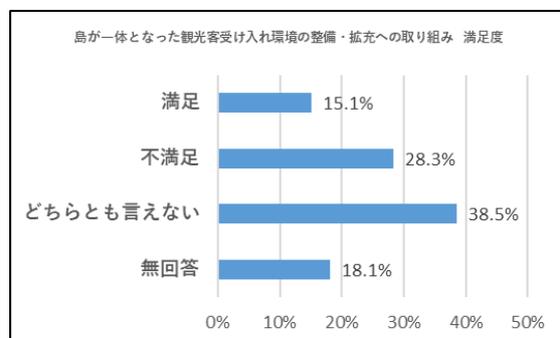
⑩ 地域産業の販路拡大等の支援策



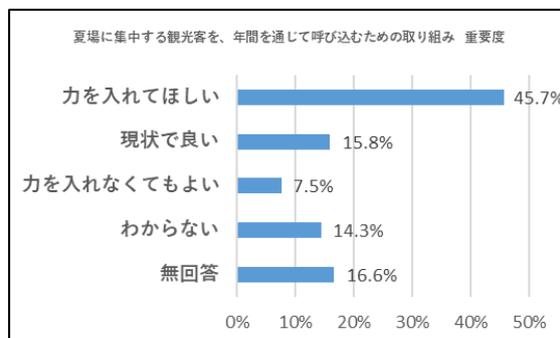
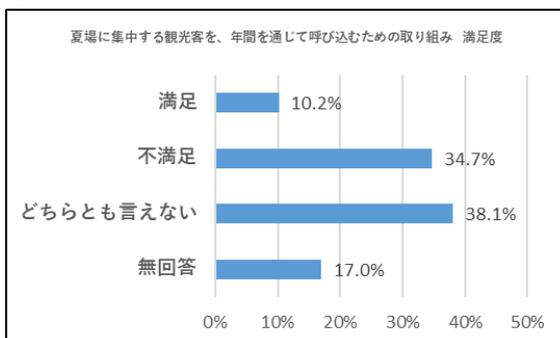
⑪ 地域産業の若い世代への継承・人材育成を通じた産業の活性化への取り組み



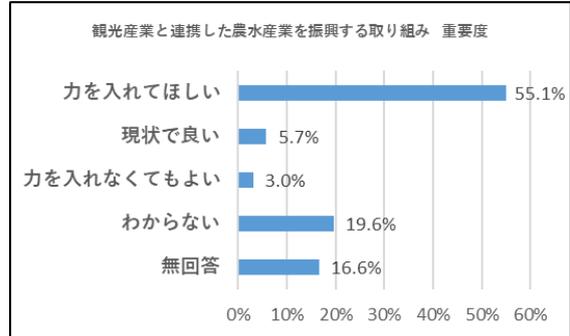
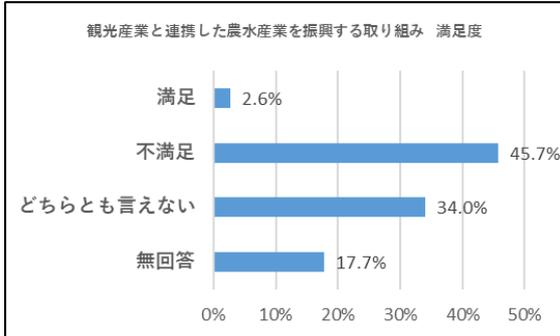
⑫ 島が一体となった観光客受け入れ環境の整備・拡充への取り組み



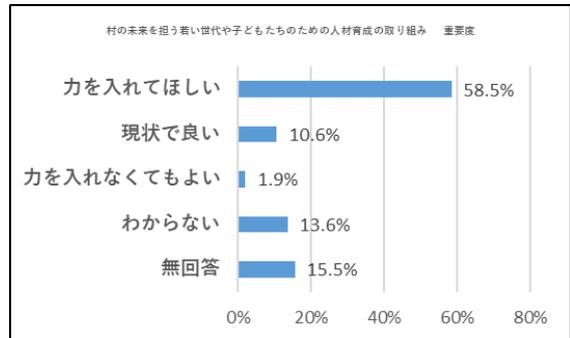
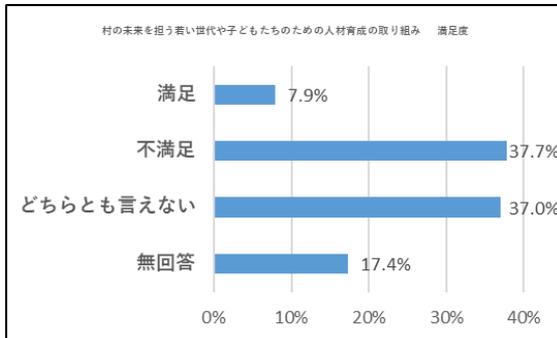
⑬ 夏場に集中する観光客を、年間を通じて呼び込むための取り組み



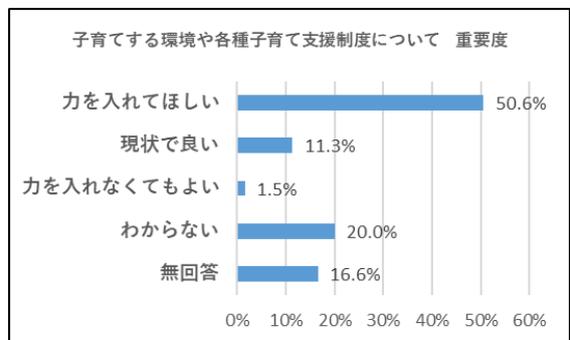
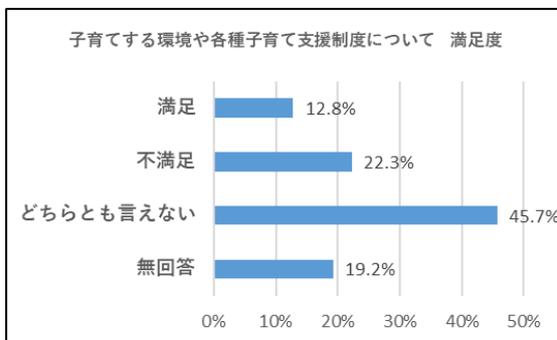
⑭ 観光産業と連携した農水産業を振興する取り組み



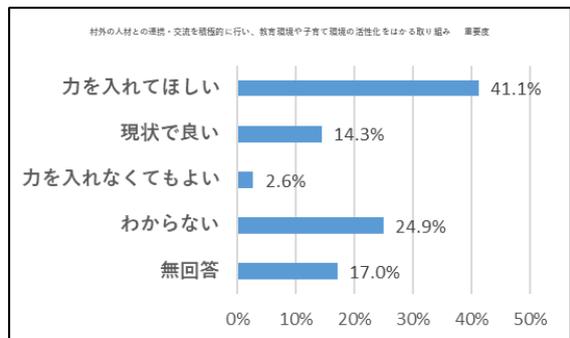
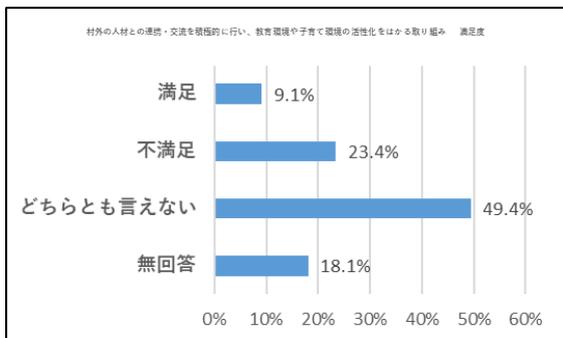
⑮ 村の未来を担う若い世代や子どもたちのための人材育成の取り組み



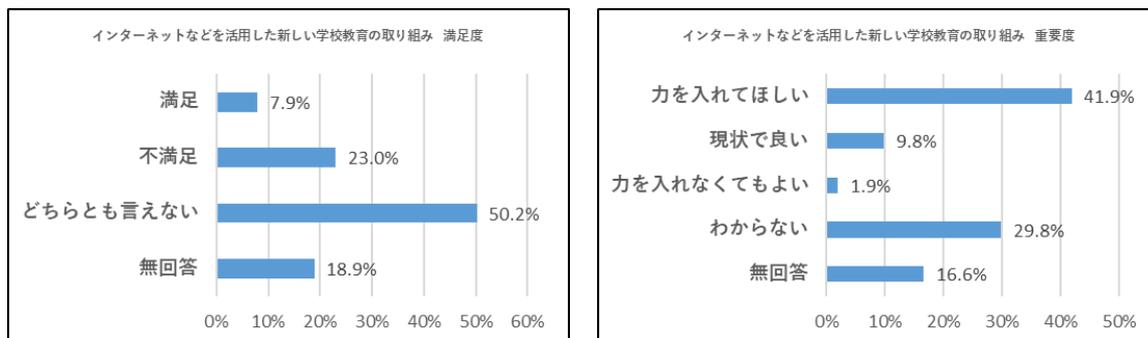
⑯ 子育てする環境や各種子育て支援制度について



⑰ 村外の人材との連携・交流を積極的に行い、教育環境や子育て環境の活性化をはかる取り組み



⑩ インターネットなどを活用した新しい学校教育の取り組み



(8) 座間味村のむらづくり、子育て支援、働く場の創出、移住定住人口・交流人口の増加に関することなどについてのご意見・アイデア

50代 女性	<ul style="list-style-type: none"> ・村営での住民に対する入居資格が実際に住みたい人は資格外であきらめている方がたくさんいました。今一度検討するべきだと思います。
20代 男性	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人に対するサービスをもう少し手厚くして欲しい。子供が出来て検診のための渡航費なども渡してもいいと思う。女性はあるが、男性側が実家に住んでいる事がほとんどなので、多少家賃が高くてもアパートなどを建てて欲しいです。
20代 女性	<ul style="list-style-type: none"> ・移住希望者向けの情報発信をされている印象があまり今までになかった。島に移住し、定住するには自分で人脈を作り、住む場所を探し、働く場所を見つけて生活していかないといけないものだとして実際に移住してきて思っていた。移住者の増加を見込むのであればインターネットを活用したり、移住希望者へ情報発信をしている民間企業と連携したりすれば、自然豊かな座間味村への移住をしたいと思う人とめぐり合う機会を多く作りだせると思う。しかし、地域の伝統を継承・充実させていくには島出身の若者がUターンできる環境づくりも欠かせないと感じるので、移住者を増加させる取組みを進めるのであれば同時に若者のUターンを支援することにも取り組むべきだと感じる。
50代 男性	<ul style="list-style-type: none"> ・児童、生徒の給食費の無償化 ・ITネットワーク環境の充実(無償WifiSpotの増) ・通院(病院)時の船舶無償化 ・各区公園の整備(遊具、吾妻屋など)
60代 女性	<ul style="list-style-type: none"> ・座間味、阿嘉、慶留間の3島の子育て、働く場、居住が同一ではないと言う事を深く理解して頂きたい。住む人数の違いだけで人数の少ない島、区は差がありすぎると思う。 ・空家、空地をもっと有効利用できたらと思う。 ・中体連、小体連など子供の意思に関係なく参加強制も何かと忙しく、大変な子供達にはいかがなものでしょうか？卒業生からの意見があり、だからもどって来たくないと言う話もありました。 ・出来る仕事、やりたい仕事が少ない。
50代 女性	<ul style="list-style-type: none"> ・島に来て20年あまり、60代になります。今のままではここで年を重ねていくのはむずかしいと思っています。しかし、この20数年で大事な友人達がたくさんできて楽しい老後を過ごしたいと考え、いろいろ考えております。行政の方で協力いただけたらうれしく思います。シルバー人材センターじゃないけど、派遣会社あったらいいな。
40代	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家を村が仲介して、借りられるようにしたらいいと思います。住居不足なので。
50代 女性	<ul style="list-style-type: none"> ・離島なので今後は積極的にインターネットを利用した交流や学習を取り入れるべき。

20代 男性	<ul style="list-style-type: none"> ・年間で雇うところを増やさないと、シーズンのみだったらスキルアップなど職場環境も良くはならないし移住の増加、安定はないと思う。 ・村営の安い家賃をもっと建てたほうが良いと思う。抽選枠が狭い。住宅事情が悪すぎるので。
50代 男性	<ul style="list-style-type: none"> ・住居の補修、リペアなど対応してくれる業者が無く、傷みゆく家を見ては不安に思う。 ・大型ゴミの処分や車の廃棄など村役場は知らん顔で困っている。 ・生きづらく、住みにくい島だと思います。
50代 男性	<ul style="list-style-type: none"> ・村当局に退職者が出たり、村長が退陣を表明する等、村の中核が落ち着かないのが気になる。村役場に優秀な人材を全国から募集し、大胆な行政改革が必要であると感ずる。現在は全ての政策が後手後手にまわっている感がある。移住者を確保するための住宅を早急に整備し、全国から村長、副村長を公募し、住民のための行政改革をすることを期待する。
60代 女性	<ul style="list-style-type: none"> ・インフラの整備のメンテナンスのできる人材を常に用意してほしい（水の道路へのたれ流し、鹿のフンなど衛生的に行政がどこまで関与できるかを明確に示してほしいものです）。 ・移住者及びUターンの人々への寛大な心遣いを希望します。 ・人を尊敬する事を教える（他人への思いやりなど、善・悪など）。まず大人を見て子供はまねをするので。どこにも色々な人がいることを知るのも大事です。その中から自分で正しい判断ができるような子になってほしいと思います）。 ・居場所作りはまず人づくりではないでしょうか。 ・相手の身になって物事を考え、手をさしのべることができる清い心が「むら社会のメリット」だと思うのですが、情報社会の今日ではむづかしいものでしょうか。
50代 女性	<ul style="list-style-type: none"> ・座間味村に生れ育った子供達が帰って来る仕組作りも必要と考えます。働く場所が無い事で戻れないと聞きます。 ・今では、インターネット環境もあるのでIT企業に関連も可能な会社。 ・農業がしたい方への農地の提供（農地利用） ・座間味村に移住するとこんな資格が習得できるとか。座間味村が今利用していない施設があります。その施設にした仕事が出来るとアピールする事も良いのではと考えます。 ・染め物をしたい人 ・焼き物をしたい人 ・その方達や将来したいと思っている学生などを呼び込むことも可能と考えます。 ・新しい建物を作るより今ある施設の利用活用を。
70代 男性	<ul style="list-style-type: none"> ・他の市町村と交流行事を行う（サマーキャンプに招く、雪国に行くなど） ・座間味の名物（もずく、長命？草など）をSNSで積極的に発信する。 ・転入する人に有利な住宅の提供
40代 男性	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が移住する上で光回線の有無が重要だったので、現状の環境は助かっています。ネットでのやりとりの仕事も問題なくできているので、テレワークのPRで人材を呼び込む方法もあると思います。
50代 女性	<ul style="list-style-type: none"> ・阿嘉区ですが、地域住民に反した方が住める事がおかしい。 ・安心、安全で住める区であるべき事が望むだけです。
60代 女性	<ul style="list-style-type: none"> ・観光で生計を立てられるように観光に力を入れるのは賛成ですが、金もうけ狙いで、もしくは反社会的な風紀を乱す人達が島で土地を購入したり借りたりして、住民の気持ちを不快にさせる人達が入って来る事に防ぎ用が無い事が起こるので。村の方で地主と連携してほしい。 ・安心した島暮らし出来るような規約や条例を作ってほしい。 ・島はあくまでも暮らす場所。商売の場所では無いですが、若い人達がUターンして生計を立てられるように安心、安全、心地良い、移住したいと思わせるような観光地にしてほしいです。 ・島の中が汚い。鹿のフン、猫のフンが多すぎる。臭いも強い。ダニも居る。 ・外ばかりではなくて、島の中の事に目を向けてほしい。

40代女性	<ul style="list-style-type: none"> ・定住したくても住宅が少ない。あっても、雨漏り、ネズミなどの問題が多数。→民間のアパートなどの増設→土地がないのでそこが問題。 ・一年通しての安定した仕事が少なく季節スタッフが多い。→この環境を生かした職種が必要。
40代男性	<ul style="list-style-type: none"> ・自然を守る事で、観光～若者→活性化につながる。島の若者が増えると伝統文化の継承にもつながり、自然と伝統文化が豊かな島なら、観光客はくる。すべてはこの自然環境から島は成り立っていると思う。つねに未来を創造しながら山も海も保全してほしいし、建物や風景も残してほしい。
60代女性	<ul style="list-style-type: none"> ・住民全員（特に高齢者）が観光業にたずさわっている訳ではないので、観光客が夜さわぎ（遅くまで飲んで）、周囲の住民への配慮が足りない面がある。特に観光業に携わっている事業者達の意識を高めるためにも村の条例で夜間の周囲への配慮、外でのバーベキュー、飲み会の終了時間等を決めてはどうかと思う。日頃かなり迷惑している（特に10時以降まで騒ぐ人達がいる（室内のテレビの音より外の騒音の方が大きい時が多々ある））。
40代女性	<ul style="list-style-type: none"> ・やりたいことやアイデアは人それぞれちがっています。現在の村の状況でも十分な話し合いもなく、食い違ったまま進行していく活動などがあるのを目にしています。私は自分の心地良い暮らしや話し合い、協力をできる場で生きていきたいと考えているので、座間味はちがうと感じたら島を出ます。
40代女性	<ul style="list-style-type: none"> ・観光をする方がお金の見入りが良いという考え方を耳にしますが、まるで外貨のみに頼っている国の発想と一緒のようにも感じます。島の生活を整え、住民が暮らしやすい事業を通じて島が潤っていく戦略の方が、私は自立的に感じます。コロナという流れにおいてもなお、観光事業に力を入れていくのは、時流に逆らう感じがします。島の文化、伝統、歴史のカラーを発信していくことでの観光のあり方を模索してみるのもよいのかなと思います。座間味の個性が輝きますように。
50代女性	<ul style="list-style-type: none"> ・移住、定住の為のアパートに40才以下の方が10年しかすめないという条件は意味不明です。今では100年生きる時代です。1/10しか住めないのは？です。 ・自営で頑張りたい方の為に30坪程度の土地でも良いので貸し出す仕組みがあるとありがたいです。空き地、空家利用を考えて欲しいです。
30代女性	<ul style="list-style-type: none"> ・とても貴重な自然と他の場所にはない歴史等とても特別な場所である座間味村。人口増加に関しては衣食住の食と住が最低限確保できないと暮らす事は難しいと思う。 ・守って行きたい景色、島の魅力がとても明確、その為に環境の保全は島民が一丸となって行動すべきだと思う。例えば島内でのストローや使い捨ての割りばしの利用をやめたり、ペットボトル飲料の販売をやめる、ビーチクリーン週間を設定して島全体で行う等「アートの島」と検索して「直島」と出てくる様に「エコの島」と検索して「座間味島」と出るようになれば良いと思う。 ・自然を大切にと言う気持ちや言葉はよく見聞きするけど色々な場所でそれを矛盾した光景を目にするのが残念です。そうすれば、ただ旅行で来て海が美しいと感じてまた今度ではなく、ここへ住んでみたいと思う人も増えるのではないかなと思います。日本だけではなく世界規模の環境問題に具体的に先陣を切って活動する島になったら、憧れる人はもっと増えるのではないかなと思います。
60代女性	<ul style="list-style-type: none"> ・島が島らしくあってほしい。都会にはない心地良さ、やさしさ、そんな島でありつづける物がたくさんあるのでなく、便利さが多くあるのでなく、住民コミュニティの充実が大切だと思う。そこで必然的に人口が増加するのでなく、島の許容範囲が維持されるのではないかな。老人も若者も子供も大切にされる地域であってほしい。
30代男性	<ul style="list-style-type: none"> ・大きい遊具のある公園を作ってほしい。 ・雨の日に子供が遊べる場所がほしい。
20代女性	<ul style="list-style-type: none"> ・問10にも書きましたが、住む場所（住宅等アパート類）の値段等も提示をしてホームページにあげたら、住みたいという人のハードルが下がり、もっと人口

	増加につながるのでは？と思います。
20代女性	<ul style="list-style-type: none"> ・空家をなくし、新しく瓦屋根の家を建てる。→カフェやお土産売り場など、観光客が喜ぶような商業施設が必要。また、公共交通機関を整備し、家族連れでも観光できるようにした方が良い。 ・星空ツアーなどどうか。→「星空クッキー」をお土産コーナーで販売。
60代男性	<ul style="list-style-type: none"> ・適正な人口規模（5年後、10年後、20年後、30年後）について議論と住民への共有が必要。それに基づいた産業のあり方、規模、居住環境の整備を計画的に行う必要がある。
30代男性	<ul style="list-style-type: none"> ・空家対策を積極的に行った方が良い。リフォームして貸出す制度をつくるとか。個人間でやるには難しいと思う。 ・子供も預けられる場所、コミュニティをつくってほしい。働く人が増えると思う。預かる人も働け、預けた人も働ける。
60代	<ul style="list-style-type: none"> ・環境の美化にもっと力を入れてください。村内に花が少ない。植えてもあとの手入れがずさんで何日か経つと枯れてしまっている。もっと真剣に打ち込んで欲しい。役場の周辺及び海岸沿いに花を植えたらどうか。各海岸沿いの漂流ごみが見苦しい。国立公園になっても美化に村民が無関心。これでいいのか。 ・役場の職員を若い人に任せるのはいいがあいさつがまったくできない。
50代女性	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客の方の雑談の中で「この島はきれいだから〇〇すればもうかる、商売になる、金になる」といった発言を耳にすることが度々あります。内容はリゾートホテル建てる、様々なマリナクティビティで遊ばせる、など。そのような座間味の海や自然を喰い物にして、汚して、荒して、儲けを島外に持っていくようなことは絶対にあってはならないと思います。岩手の田舎の農漁村でも移住して来る方がいますが、地域の高齢者に教えていただきながら、農業、漁業、伝統工芸などで地域の自然を守りながら生活しており、儲けようなどとは考えていません。戦争体験も含めて、座間味の歴史・文化・自然を保存、継承し、外来者が理解できるような歴史文化史料館のような施設も必要です。(ゆんたく館は観光施設ですよ)他の都道府県では、どんなに小さな町村でも必ずあります。地域の伝統行事は多いのに、歴史・民俗・文化・伝統の保存が出来ないことが、単に観光を推し進め、Iターンを推進しようとしている行政に対する不安を覚える大きな要因です。民度が近すぎると思います。教育委員会頑張ってください。
60代女性	<ul style="list-style-type: none"> ・座間味の自然に惹かれてお客様は沢山来てくれる。村民個々の努力で収入はそれなりにあるが行政として更に安定した産業を生み出す方策を練り、村民の生活を後押ししてほしい。たとえば、特産品開発・生産。自然に左右される農業を安定させる。村内で農作物が供給できる様にする等。 ・それから船の運航に関して、フェリーの欠航が多く感じる。どうしても本島へ渡らなくてはならない時の経済的負担も大きく、漁船による渡船も危険度が増す。阿嘉、座間味どちらかに入港できる時には運行出来る様村に一考を願いたい。
60代男性	<ul style="list-style-type: none"> ・設問 11 は項目が多岐に渡っており、それぞれに課題を感じるので個別に意見を述べるのは記入スペースの事もあり詳細は省きたい。現況に照らし合わせて考えると、 <ol style="list-style-type: none"> 1.地域住民の居住環境に満足度を更に高めるにはどうすれば良いか 2.子育て、教育環境を充実させ県内外で活躍出来る人材を輩出するためのビジョンや具体的施策を更に充実させて行く必要がある。 3.観光立村としての評価を進展させるための具体的な課題と解決に向けての取り組み施策を練り上げ環境保全とホスピタリティのあくなき醸成に尽力する村ぐるみの活動を今後も維持・伸長させる事は非常に重要な事だと思います。
20代女性	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナが終息後、イベントなどの交流の再開ができることがまずひとつだと思います。
50代男性	<ul style="list-style-type: none"> ・村を那覇市に入れて欲しい。

40代女性	<ul style="list-style-type: none"> ・村として移住定住者増加を望むなら、まず定住者の住居確保された後、移住者の住居を考えては。住居がなければ働きにも来ないし、定住出来なければ離れてしまうと思います。土地の購入なども移住者には厳しく後（次世代）につながる道が少ない。 ・子育て支援においては、保育園がやっと開所出来て一部の方々は助かっているが、まだ不十分だと思う。未就園児だけではなく児童にも目を向けた取り組みもしてほしい。非常に恵まれた環境ではあるが、土地柄夏場などのハイシーズン、児童を見る目が手薄になる時期がある。ある程度、目が離せる年齢であったとしても大人の目（心）を必要としている児童達は多いと思います。異年齢の子供達、集団で遊んだりしているが、やはり学童のようなものをこの先考えて欲しいと思う。（需要の有無はあると思うが）
30代男性	<ul style="list-style-type: none"> ・経済産業の活性化に力を入れているのは分かるが、子育て支援に対して、コミュニティ施設を作ったり、ファミサポの費用の値下げを考えてほしい。また、幼稚園を毎日14時お迎えにしてほしい。（1日だけの給食をもっと増やしてほしい）
30代女性	<ul style="list-style-type: none"> ・ファミサポが高すぎる。もっと下げてほしい。 ・幼稚園の週1の給食の回数をもっと増やしてほしい。 ・雨の日でも子ども達が楽しめる活動場所（施設）を増やしてほしい。
30代男性	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所、託児所の充実、既存の保育所の受け入れ人数の増加、阿嘉島等での保育所の開設により、育児している家庭が仕事出来るようになる。そのためには、保育資格保持者の確保、保育所開設地の確保、保育体制の構築が必要。保育資格者の確保については、村内在住者の活用、または村外からの人材の確保、または村出身者で有資格者へ呼び掛け等。保育所設置ヶ所については、保健センターが行うか、または新しく場所を探すか、簡易的なプレハブ等でも少人数であれば可能だと思う。保育体制の構築については、有識者をまじえて、利用者の安心・安全に配慮した、しっかりとした保育目標、各年齢に応じた発達目標等を設定する必要がある。 ・問10でも述べたが、教育、子育て支援の充実が必要不可欠である。
60代	<ul style="list-style-type: none"> ・座間味村に産業を発展させる場所や資源は期待出来ないが、透明度の高い海、珊瑚礁の海岸、慶良間ブルーの海、この自然が各国の観光客を呼んでいるんだから、座間味村は島内、海岸線、砂浜、浅い海中まで毎日清掃する事が、産業だと気付いてほしい。この自然が座間味の宝です。観光客はトイレの綺麗な所へは何度も行くんですよ。
70代	<ul style="list-style-type: none"> ・不満ばかり書いているが、土木工事、建築工事、港湾整備等に関して、役場職員に専門知識が無く、資格も持っていない事や勉強を一切していないので、指摘してもチンプンカンプンの返事しか返って来ません。高学歴者を採用しなければ良くなりませんと感じています。
60代女性	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウィルスの感染拡大の為、いまのところどうしようもない状態です。はやく解決するといいいのですが。
40代女性	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄の他の離島が行っている定住促進事業。古民家の復元・修復を進めて、家賃三万円で募集している例を新聞で読んだことがある。本村でも空き家（トートメーがおきっぱなしの家も含め）がたくさんある。行政が動いて、村営住宅をたてる予算、時間を考えたり、場所がむずかしいならば今ある空き家を活用していくのがいいと思う。その他、ワーキングスペースや子育て支援スペースとして活用できると思う。
50代女性	<ul style="list-style-type: none"> ・住環境の整備や子どもたちの居場所作り
40代女性	<ul style="list-style-type: none"> ・住む所があれば、おのずと人口は増える。若い世代が増えると行動力もうまれる。様々な仕事を取り入れる（実施）ことも出来る。まずは住居を増やすことが一番の近道。
40代男性	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな事業の展開を検討し、雇用を生み出そうと考えているが、土地の売買や賃貸物件が難しい島なので、先に進むことができなくて困っている。 ・座間味島野球グラウンドをしっかりと整備すれば冬でもアマチュアのチームの合

	宿等で利用できるので、民泊、飲食店の集客につながりそうな気がする。 ・島に歯医者があると助かる。
50代男性	・宅地をもっとふやす。
70代	・現在、ザマミ・アカ・ゲルマの民泊・宿泊施設は高齢化が進み、食事が作れない所が多いため村営の大規模レストランを作り、公開入札で運営会社を決める。
30代男性	・働く世代がより働けるようにみんなが気がねなく子供を保育所にあずけられるようにして欲しい。 ・I ターンの人、U ターンの人に家を建てられるように土地を整理して欲しい。(ダムの前など、空き家など)
40代男性	・座間味は観光立村なので、観光産業と他の産業を連携させる仕組みづくりが大事だと思います。農業を連携させ、地産地消を推進するなど、いろいろな産業が観光と連携することで、仕事として成り立つと思います。移住者は「求人情報」を見て、島に来る人が多いと思うので、仕事を充実させることが大事だと思います。
40代	・観光産業と連携した農水産業の振興に今一番必要な取り組みだと思う。年配者を指導者として雇用し、農業振興を図ることで、若者の仕事も増え、地産地消を推進することで、観光地としての魅力や満足度のアップにつながる。今、がんばっている漁業との連携も図り、島の特産品を創出すれば、さらなる産業の発展も見込める。また、農業振興には、国立公園ならではの自然環境にも配慮した取り組みも加味すれば、作物や特産品をブランド化して売り出すこともできる。 ・人口や観光客数については、その数にとらわれすぎて、オーバーコースが深刻化し、最も重要な観光資源である自然への負荷が高まっている。持続可能な観光地を維持するためにも観光客は10万人以下とし、質と単価の向上をめざし、急激な人口増加もさけた方がよいと思う。へたに人口を増やすと島の歴史を知らない人が増え、長年苦勞して守ってきた自然を食いものにし、今あるからどんなに使えばいい、なくなったらよそへ行けばよいという人も増えているのが現状。移住定住交流、いずれもまず島を大切にしてくれる人を受け入れる基準が必要だと思う。
50代女性	・住宅の不足を解決しないと何もはじまらないと思う。
30代女性	防災について 避難場所として指定されている所が集落の最も海よりにあるので高台へ変更して欲しい。 役場のレベルが低い 他の県から住民票を取得しようとした時、役場でやり方がわかる人が居ないからできない等。県から職員に来てもらうなどして、抜本的な改善を望む。
40代女性	情報の伝達部分において知らなかったということが多々ある。自治会の活動が一部の人という感じがあり、その自治会に所属していない人には情報が入らない。青年会、商工会、婦人会に所属していない人、また単身者はどこで何をやっているのか分かりづらい。回覧板のような住民が全員目を通せるシステムがほしい。保育者の確保という面では、本土と比較し不十分と感じる。予算の問題なのか人材の問題なのか、現状を変える策が必要。 ハード面を活かしたソフト面の充実。建物はあるがそこに人が集まるような内容がない。本土では地区センターなど幼児から老人までが集う内容を提供し、そこにも雇用が生まれ地域が活性している。地区センターの様な娯楽と学習。統合的な住民の楽しみとなるものを週6日空いているという空間。ex)図書室、マンガもあり、囲碁・将棋スペース、三線の習い事、喫茶、計食堂、映画DVD鑑賞会、イベントなどを会員となってもらい自由に出入りできる事。管理する人、バイトする人(サービスを提供)

3. 座間味村総合戦略策定検討委員会

第2期座間味村人口ビジョン・総合戦略を策定するため、座間味村総合戦略策定検討委員会を設置し、各分野からのご意見を頂きながら、計画の検討を行いました。

(1) 策定委員会名簿

	所属等	役職等	氏名
1	座間味村観光協会	事務局長	谷口 洋基
2	座間味村商工会	経営指導員	仲里 敦志
3	座間味村社会福祉協議会	福祉活動専門員	濱口 智弘
4	座間味偕生園	所長	平井 史子
5	座間味村議会	副議長	宮平 清志
6	座間味村	副村長	宮平 真由美

(2) 策定委員会検討内容

① 第1回策定委員会

開催日時：令和3年2月15日（月）

時 間：10：15～11：45

会 場：役場会議室

議 題：1) 委嘱状交付

2) 委員長・副委員長の選出

3) 第2期人口ビジョン・総合戦略

4) 統計資料及び第1期計画の達成状況・人口推計と総合戦略の方向

検討事項：1) 座間味村の人口の将来展望

2) 第2期総合戦略の方向性（基本目標と基本方向）

② 第2回策定委員会

開催日時：令和3年3月22日（月）

時 間：13：00～14：45

会 場：役場会議室

議 題：1) 第2期座間味村人口ビジョン・総合戦略について

検討事項：1) 座間味村の人口の将来展望

2) 第2期総合戦略

(3) 座間味村総合戦略策定検討委員会設置要綱

○座間味村総合戦略策定検討委員会設置要綱

令和3年1月14日
要綱第1号

(設置)

第1条 本村の人口の現状と将来の展望を示す人口ビジョン及び総合戦略の目標、施策の基本的方向、具体的な施策をまとめた第2期座間味村人口ビジョン・総合戦略を策定するため、座間味村総合戦略策定検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会の所掌事項は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 座間味村人口ビジョンに関すること。
- (2) 座間味村総合戦略に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、委員10人以内で組織し、村長が委嘱又は任命する。

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱の日から第2期座間味村人口ビジョン・総合戦略の策定が終了するまでとする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長及び副委員長は、委員の互選によって定める。
- 3 委員長は、会務を統括し、委員会を代表する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が招集し、会議の議長となる。ただし、委員長決定前の最初に開かれる委員会は、村長が招集する。

- 2 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者に対して委員会への出席を求め、その意見を聴くことができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、総務・福祉課において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、令和3年1月14日から施行する。

第2期座間味村人口ビジョン・総合戦略

発行：2021年3月

発行者：座間味村

〒901-3496

沖縄県島尻郡座間味村座間味109 座間味村役場

TEL：098-987-2311（代表）